

なり。(2)身に筒袖・半ツボンの如きものをつけ、頭に手拭を被りて海中に游泳せる女は海女なり。(3)海女の傍に浮べる桶は採取せる真珠を入れる器なり。(4)海女は深さ五六尋より十二三尋の水底に潜りて真珠を採取す。

四、教授上の注意

- 1、綿フランネルの製造の概要及び其の發明者の功績を知らしめ工藝思想を涵養すべし。
 - 2、大阪が本邦商工業界の首府を占むることを知らしめ、其の盛大なる所以を推考せしむべし。
イ、支那・朝鮮に對して商業上の好位置を占むること。
ロ、海陸交通の便あること。(大阪商船會社航路の各方面に聯絡あること)
 - 3、京都の美術工藝の發達せる理由を知らしめ、美術工藝思想を涵養すべし。
 - 4、京都府の二大物産たる織物及び茶の吾人に與ふる影響を推考せしむべし。
 - 5、本地方の産業を授くるに當りては地勢と關係して授くるを可とす。
- 例へば
- イ、平野地方の産業
 - ロ、大阪灣沿岸地方の産業
 - ハ、南部山地の産業
 - イ、大阪市の産業
 - ロ、京都市の産業

ニ、紀伊半島附海の水産業

- 6、なるべき多くの實物若しくは標本を蒐集して教授の便を圖るべし。
- 7、商業と工業とを因果的に教授して、其の發達を知らしむべし。
- 8、其他既授の地勢、交通等の事項を復習しつゝ類推せしむべし。
- 9、兒童をして近畿地方の産物一覽表を作らしめて、記憶を明確ならしむべし。
- 10、尙參考資料によりて補足すべし。

五、參考資料

- 1、綿絲産額比較(大正四年)

府 縣 名	工場數	拂込資本 千圓	職工數 百人	錠 數 千本	綿絲産額 千圓
京 都 府	三	三〇〇	一八	四三	六三六
大 阪 府	二七	二〇、一六六	三五三	七四三	二五、四〇五
兵 庫 縣	一〇	七、一六〇	一四八	三〇八	一三、五〇一
奈 良 縣	三	—	三三	五三	八、七七七
三 重 縣	三	一三、〇〇九	四四	九三	三、五六五
和 歌 山 縣	八	三、四〇〇	五三	八九	三、四〇三

近畿地方	内地計	府縣名	工場數	拂資本	職工數	錠數	綿絲產額
近畿計	五四			四四、〇六五	六四九	一、三三七	四七、三五六
内地計	二七三			八五、二八〇	一、二四八	二、七八八	八五、二八八
2、同	(大正五年)						
府縣名							
京都	二		二	三〇〇 <small>千圓</small>	一八 <small>百人</small>	四三 <small>千本</small>	九三八 <small>千貫</small>
大阪	二七		二七	一八、八四一	三八〇	七九五	二五、四一〇
兵庫	一〇		一〇	八、四四三	一五三	三三七	一三、五七四
奈良	二		二	—	二七	五六	一、八一六
三重	四		四	一七、五四五	三九	二一八	四、一三五
和歌山	八		八	四、四三七	五九	一〇五	四、三九四
近畿計	五四		五四	四九、五六七	六七九	一、四五七	五〇、二五一
内地計	二四〇		二四〇	九四、二五〇	一、二九六	三、〇四五	九三、〇〇四

3、近畿地方綿絲紡績工場の主なもの(大正六年六月三十日現在)

附 合計はすべて切り捨てたるものを加へず、合計し最後に單位以下切捨つ。

工場名	工場所在地	錠數
○攝津紡績株式會社	木津川 高田	五三、九二二本
	高田	三四、四四四
	明石	三〇、七二〇
	平野	二七、六四八
	郡山	二二、三三三
	天満	六三、〇七六
○大阪合同紡績株式會社	住吉	二六、〇〇〇
	神崎	五五、五六八
	本社工場	一七、八四〇
○福島紡績株式會社	飾磨	二〇、七三三
	堺	一七、二八〇
○大阪莫大小紡績株式會社	本社工場	一〇、〇四八
	本社工場	三三、六二六
○天満織物株式會社	城北	一〇、八八〇
	本社工場	四六、〇八八

○岸和田紡績株式會社

野村 同 大阪府泉南郡北掃守村

一九二 三一、四八八

○尼ヶ崎紡績株式會社

尼ヶ崎 兵庫縣尼ヶ崎市尼ヶ崎町
津守 大阪府西成郡津守村
福島 大阪市北區下福島一丁目

四六、〇〇〇
六五、九〇〇
六六、九〇八

○東洋紡績株式會社

桑名 三重縣桑名郡桑名町
三軒家 大阪市西區三軒家上ノ町
四貫島 大阪市西區四貫町

二九、〇五六
五五、四五六
四九、三七三

○鐘淵紡績株式會社

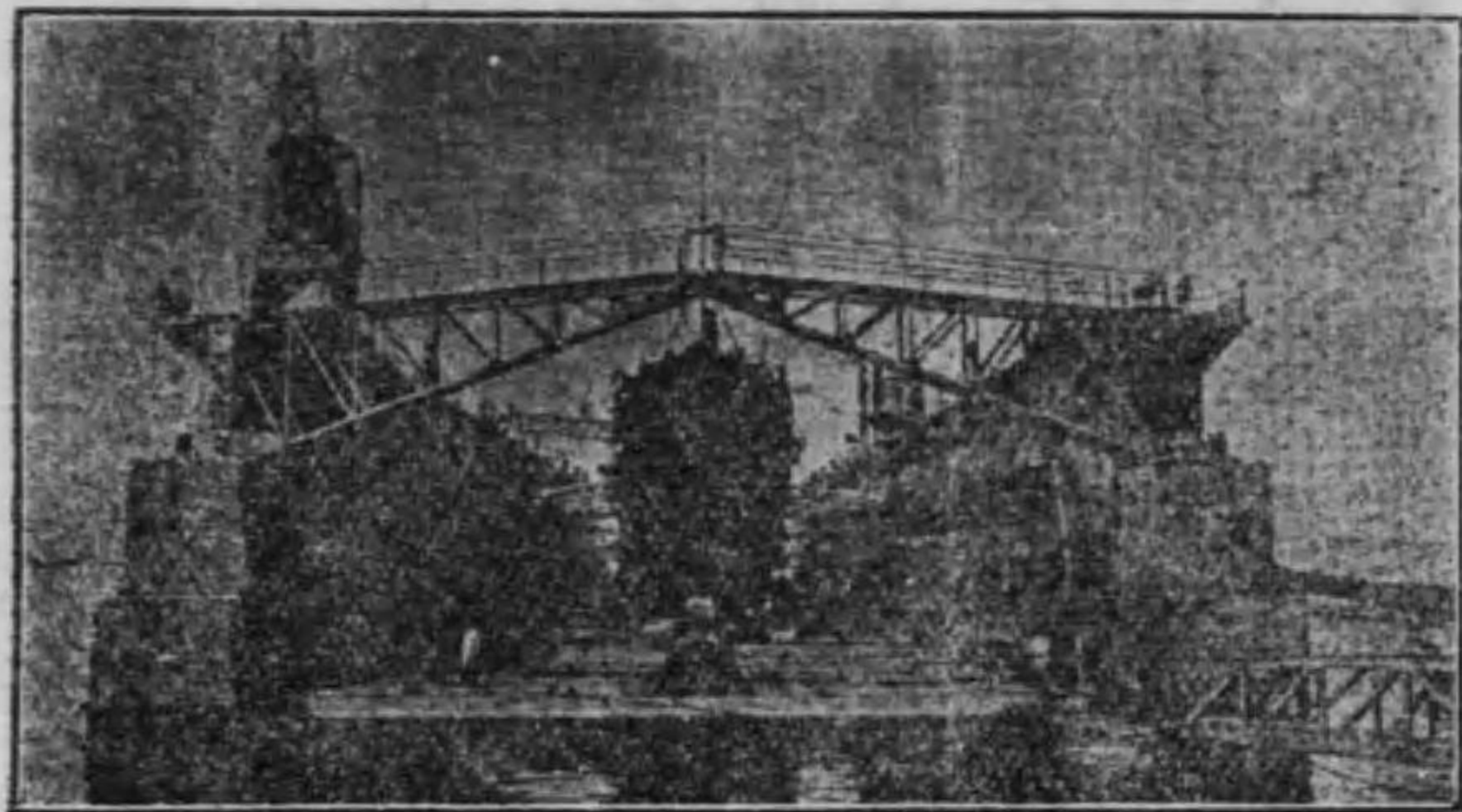
兵庫 神戸市東瓦池
洲本 兵庫縣津名郡洲本町
高砂 兵庫縣加古郡高砂町
大阪 大阪府東成郡城東村

八五、四一六
三六、八九三
三六、三四〇
三〇、九四八

合計 一、〇三九、三六〇

4、綿フランネル 所謂紀州ネルにして、和歌山縣和歌山市及び其の附近より産す、一ヶ年平均百萬反價格五百萬圓に上る。製品の販路は全國に互り、支那・シベリヤ・英領シンガポール・蘭領東印度等に輸出せら

川崎造船所



第五 近畿地方

れ、實に一大産物なり。始め和歌山の人瀬戸重助和歌山藩兵の被服地に用ゐしも、粗惡にして實用に適せず、種々の苦辛の結果一種の小倉を織出し、明治四年始めて兵服となすに足れども、重助更に研究發明に心勞し、遂に同年五月大阪兵部省の御用を命ぜられ、十月同省より製品を改良すべき事を命ぜられ、遂に經木綿絲紋羽試織して一種の起毛したるものを案出し兵部省に上納し、大に賞讃を得たり。これ即ち紀州ネルの濫觴なり。爾來陸軍用品として上納し、漸く名聲を博し、幾多の變遷を経て、明治四十三年より専門技師を置きて指導せしめ、いよく製品の改良を圖り、以て今日に至れり。和歌山縣は全國總産額二千六百八十六萬圓に對して、一千八百八十九萬餘圓に上れり。

5、川崎造船所 神戸市東川崎町に在り、長崎の三菱造船所と共に我が國私設の二大造船所なり。五個の船臺を有し、四萬噸の巨大なる軍艦裝工事等もなすべしといふ。我が棹名(二七五〇噸)、伊勢(三二二六〇噸)の巨艦を始めとして、平戸(四九九一噸)淀(一二五〇噸)、天津風・時津風・朝風・春風・時雨・初春・卯月・梅・楠・鶴・鴻等は皆此の地にて建造せられたるものなり。

6、清酒 清酒醸造の最盛なるは兵庫縣にして、西宮、伊丹地方夙に著はる。其の附近所謂灘五郷と稱す。神戸・大阪間約五里沿岸一帯の總稱なり。

此の地方は水と氣候の良好なると需要地の近きと、交通の便利なると、米質の精選醸造の改良等によりて清酒醸造の盛大なること我が國第一なり。櫻正宗・澤の鶴・白鹿等は皆この地方の産なり。

17、西陣織 西陣とは京都市の西北隅にして、應仁の亂に山名宗全の西軍の陣地たりし地なるを以て此の名あり。西陣の地たる一個の大工場なり其の規模大ならざるも、其の産額二千萬圓以上に上り、我が國機業地として一頭地を抜くはこれら小機業家の一大團結の至す所なるべし。

8、友禪染 東山天皇の頃畫工深江友禪の創めしものにして、明治六、七年頃西村總左衛門改良に志し遂に岸竹堂をして鮮麗なる畫を畫かしめ、以て紫・黄・赤地の模様を染め出したり。友禪染は色彩鮮明にして、優秀なること海内第一なり。

9、陶器 清水焼は磁器にして實用品少なく、且つ産額多からざれども、高雅にして吳須よく溶解し、色薄くして、青華鮮麗なり。其の起原は僧行基の窯に始まると傳ふ。

粟田焼は陶器にして、膚に多くの罅を有し、金碧燦爛たるもの若しくは各種の小土偶多く、其の製作頗る進歩し、殊に花瓶類は外人の嗜好に適し、輸出するもの少なからず。これ錦光山宗兵衛の錦彩畫を描きて外人の趣味に適したりしによる。

10、漆器 京都の漆器は多く蒔繪にして、金銀其の他の粉末を漆に混じて種々の模様を描きたるものにして、一に上方蒔繪と稱し、品質精好、高尚優美なるものなり。其の種類を大別する時は平蒔繪、高蒔繪、研出し蒔繪等あり、平蒔繪と高蒔繪とは仕上に模様を施したるものにして、研出し蒔繪とは未だ仕上げざる前に模様を施して研ぎ出したるものなり。京都は歴代の帝都の地たりしを以て、宮中大儀に用ゐられし器物はもとより、武器・硯箱に至るまで皆蒔繪を施し、且つ紫檀などに蒔繪を施すことも流行せり。殊に足利義政蒔繪をすべての調度に施したるを以て天下之に倣ひて蒔繪を施すに至る。之に於て、其の技術極致に達し、名工も輩出せり。後織田豊臣の頃にも諸雄茶の湯を弄び、茶器の意匠發明に苦心し、茲に漆器として所謂本邦獨特の美術品たらしむるに至る。和歌山漆器は其の品質精巧ならざれども、實用に適し、其の産額頗る多く、海外に輸出するもの少なからず。其の起原は詳ならずと雖、元應元年高野山の僧徒根來寺に來りて根來塗として、膳・椀・厨子・茶子等を造りしに始まる、其の髹法は朱漆を以て之を塗る、又黒漆を以て唯輪の内のみを塗りたるものあり、全部黒塗なるありしが秀吉のために滅ばされて、僧徒の四散と共に諸方に傳播す、黒江塗も其の一なり。

11、紀州蜜柑 紀州の蜜柑は天正二年有田の人伊藤仙右衛門肥後八代より苗木數本を求め來りて移植せしに始まる。此の地蜜柑の成育に適したると栽培の方法よろしきとによりて、益々好結果を得。販路の如きも寛永に至りて江戸に輸出せられ、遂に今日の盛況を見るに至る。有田川の附近山腹に石を築きて階

段となし以て柑園を設け盛に栽培す。

12、養殖眞珠 眞珠養殖法は初め稚貝を養成し、滿三ヶ年を経て一旦採集し、其の貝の内部に玻璃又は陶製の小球を入れて更に四ヶ年間海中に放養す。然る時は貝の分泌物によりて球状となり、全く天然産に等しき眞珠の美麗なるものを得るといふ。天然には阿古屋貝・蝶貝・鮑・蛤・蜆等種々の貝殻の内部に生ずるものにして、圓形をなし、微青色を帯び所謂眞珠光澤を有す。阿古屋貝より得たる眞珠は最良好なるものとして賞讃せらる。天然眞珠の産地としては波斯灣、濠洲の木曜島附近著名なり。

13、捕鯨 捕鯨は慶長十七年太地浦及び三輪崎、古座の三所に漁戸あり、五組となりて銛撃を以て漁業を營みしに始まる。延寶五年に至り芋綱を發明し以て、捕獲を試みしに頗る便利にして且つ捕獲多きを以て、刺銛衰へたり。京保三年に至り和歌山藩より其の業を直轄し、又新宮藩主水野家及び其の他より資金を下したり。現今に至り東洋漁業株式會社が東牟婁郡大島村を根據地として、熊野沖に漁業を營みしより、諸會社相次で各地に根據地を定めて、捕鯨に従事するに至れり。主なる會社は左の如し。

- 東洋捕鯨 藤村捕鯨 長島捕鯨 (以上東牟婁郡大島村)
- 内外水産 大日本水産 紀伊水産 (以上東牟婁郡串本町)
- 大東捕鯨 大日本水産 (以上東牟婁郡大地村)

(五) 都 邑

一、教授の要旨

近畿地方の大都邑又は特色ある都邑につきて其の狀況を知らしめ、其の立脚點を明確ならしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

近畿地方圖、近畿地方重なる都邑の市街圖、挿繪の擴大圖、各種の標本繪畫繪葉書等。

三、教材の精査

(一) 滋賀縣

1、彦根(人口二萬二千) 琵琶湖の東岸の平野にあり、東海道線と近江線との交叉點に位し、且つ琵琶湖に汽船の往來ありて交通便にして湖東第一の都會をなす。又琵琶湖に臨み風光に富む。舊井伊氏三十五萬石の城下にして金龜山下の樂々園は彦根城の舊址にして、一名彦根園と稱し、眺望佳なり。縣下第二の都會なり。

2、長濱(人口一萬三千) 琵琶湖の東北岸に位し、所謂濱縮緬の産地として天下に著はる。又湖東の平野の南部には麻の栽培行はれ麻布、蚊帳地の産出多きこと我が國第一にして、産額百四十萬圓に達し、近江蚊帳、近江商人の名世に知らる。

3、大津市(人口四萬一千) 大津市は琵琶湖の西南岸に在り、滋賀縣廳の所在地なり。湖上航行の汽船は



新	沖	本	石	福	富	板	兵	北	滋	麻
瀧	繩	長	川	井	山	木	庫	海道	賀	織
二	二	二	三	三	四	四	五	五	一	物
三	六	九	〇	九	四	五	二	七	六	
一	四	七	七	四	四	〇	六	一	八	
									三	
									十	
									内	

較比額産物織麻
内計地内
四十七万二千六百六

北兵部省新
野山井川良地河

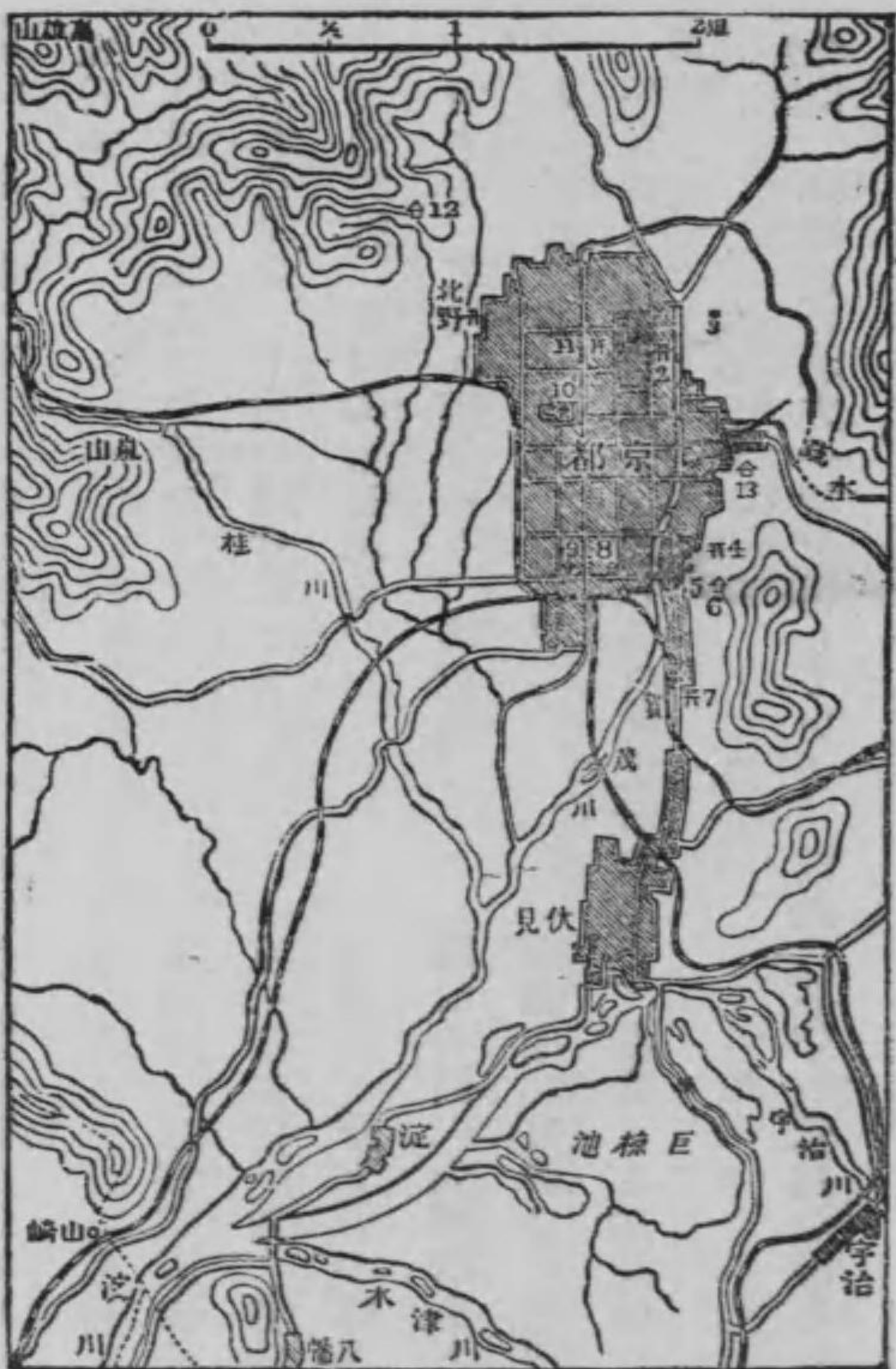
此處を起點として沿岸を廻航し、又東海道線に沿ひて水陸の交通至便なり。京都に至る疏水此に起りて、京都とも水運を通じ、近江盆地に於ける經濟上の大關門たり。所謂近江八景の勝地は此の附近に多く、市の西方に有名なる園城寺(三井寺)あり。大津の西方二里坂本村に比叡山あり、僧最澄の開きし延曆寺あり、僧兵を以て歴史上名高し。

(二) 京都府

4、京都市(人口六十萬) 京都盆地の北部に位し、東京を距ること百三十里二十四町鐵路三百三十哩汽車にて凡そ十一時間にして達する行程にあり。三方山を繞らし、淀川の支流なる加茂川市の東部を貫流し所謂山紫水明の地なり。

市街は整然として、碁盤の如く、大路七條東西に通じ、其の三條以北を上京とし、以南を下京とす。東西二里十四町、南北二里、面積二方里二八を占む。我が國第三の都會なり。紀元一千四百五十四年桓武天皇奠都以來明治維新に至るまで一千餘年間の帝都の地たりしを以て、京都御所、二條離宮等を始めとして、桓武天皇を祀れる平安神宮、北野

圖略近及び市都京



- | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|------|------|------|------|------|-----|---------|--------|------|-------|------|
| 13 | 12 | 11 | 10 | 9 | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 知恩院 | 金閣寺 | 護王神社 | 二條離宮 | 西本願寺 | 東本願寺 | 稻荷神社 | 泉涌寺 | 京都帝室博物館 | 京都帝國大學 | 京都神樂 | 梨木神社 | 京都御所 |
| | | | | | | | | 歴代の御陵 | 三條實萬 | | 別格官幣社 | |

神社、加茂神社、知恩院、本願寺等古來衆人の尊崇を蒐めて社寺多く、嵐山、高尾、其の他北山の

金閣寺、東山の銀閣寺等の名所舊蹟市の内外にありて遊覽參詣の人四時絶ゆることなし。又京都帝國大學、京都帝室博物館、第三高等學校、高等工藝學校等ありて東京と相對して、關西に於ける學術上の中心をなし、美術工藝品の製作に於ては我が國第一と稱せらる、此處に京都府廳、第十六師團あり。京都市の發達せる理由左の如し。

(1) 歴史的都市 桓武天皇奠都以來一千年餘の帝都にして政權の中心地なりしこと。御即位の御大典は必ず此の地にて行はせ給へることに定まり、近く今上天皇陛下御即位の御盛儀を行はせ給へり。

(2) 遊覽的都市 以上の如き土地なるを以て名所舊跡多し。

東山 京都市の東方一帯を稱していふ。神社・佛閣・遊覽地等尠ならず。其の重なるものを擧ぐれば左の如し。

泉涌寺 歴代の御陵あり。

東福寺 臨濟宗五山の一にして通天橋あり。

三十三間堂 千體の觀音像を安置す。

京都帝室博物館 昔時の珍寶を藏す。

豐國神社 豊臣秀吉を祀る。

智恩院 淨土宗の總本山。

清水寺 名高き觀音あり、眺望佳。

圓山公園 大櫻樹ありて有名なり。

八坂神社 京の祇園と稱す。

南禪寺 臨濟宗の總本山。

平安神宮 桓武天皇を祀れる官幣大社にして、壯麗なる建築物は往古の大極殿に模し、懷古の情を起さしむ。

北山 京都市の北方一帯を稱していふ。神社・佛閣・遊覽地等尠ならず、其の主なるものを擧ぐれば左の如し。

銀閣寺 東山の東北にあり、足利義政の榮華の跡なり。

京都御所 皇居の跡。

相國寺 禪宗臨濟派の本寺にして五山の一なり。

加茂神社 官幣大社なり。

建勳神社 織田信長を祀る。

西山 京都市の西方一帯の地を稱していふ。

金閣寺 足利三代將軍義滿の榮華の面影なり。北野神社 菅原道真を祀る。

仁和寺 御室にあり眞言宗の本寺。

天龍寺 嵯峨に在り。

嵐山 風光明媚なる地。

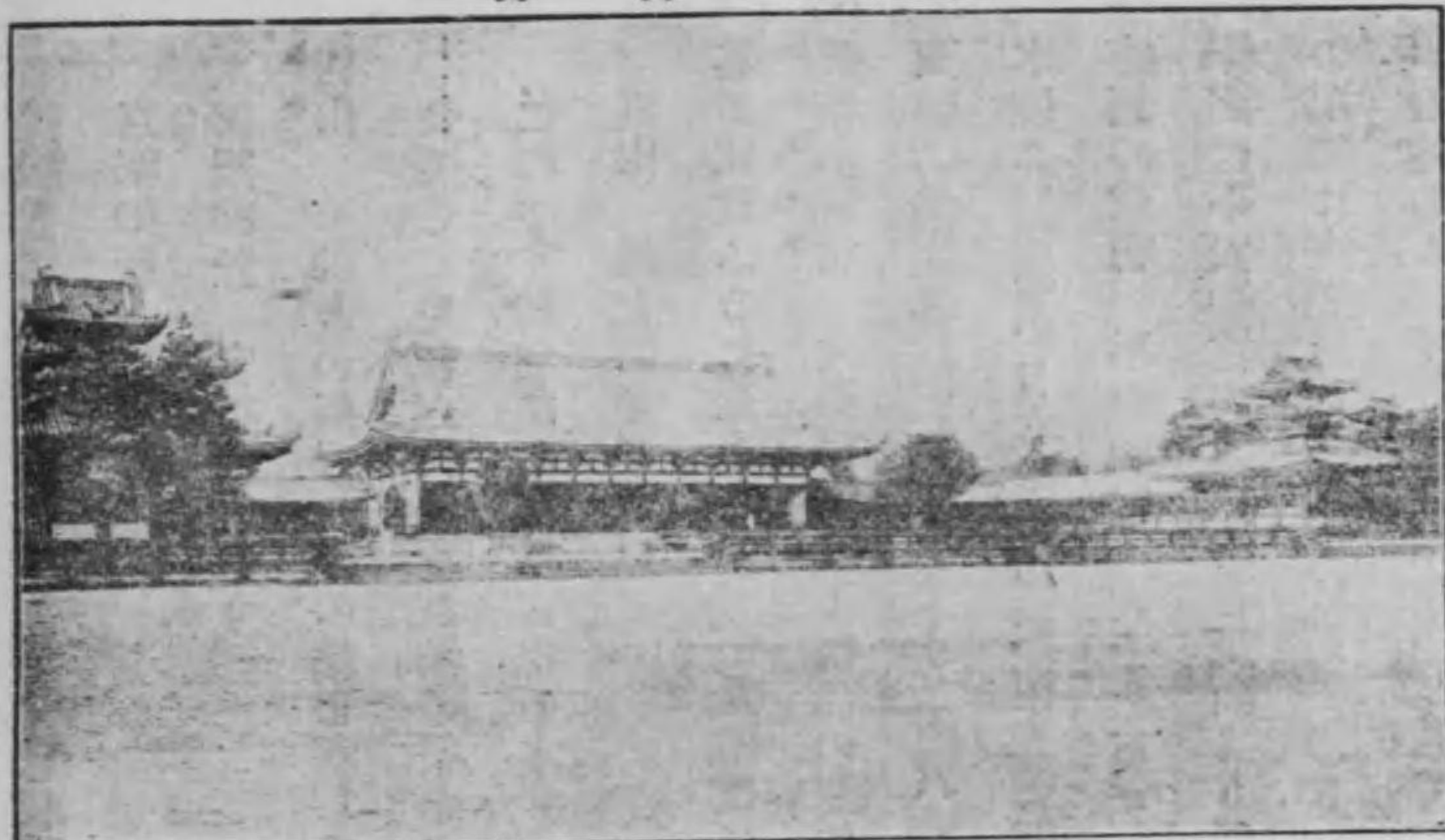
其の他數ふるに遑あらず。市及附近に多く、京都の繁榮これに起因するといふも敢て過言にあらず。

(3) 美術的都市 京都に美術工藝品の製作の盛なることは既に述べたる如し。神社・佛閣に藏する美術品・寶物・京都帝室博物館に藏する國寶等は本邦美術の粹ともいふを得べし。又西陣織・友禪染・粟田燒・清水燒・蒔繪等の日本獨特の美術工藝品あり。

◎挿繪の説明 平安神宮(六十七頁)

(1)圖は平安神宮の大極殿を正面より見たる光景なり。(2)正面に見ゆる大なる建物は、大極殿にして、棟の兩端に突起せるは鴟尾なり。即ちシヤチの尾にして棟上に燦然として輝く。(3)大極殿の正面に十二本の柱あり。(4)大極殿は南向にして、歩廊長く通じて、兩端に各一基の高樓あり、東なるを蒼龍樓と

平安神宮



第五 近畿地方

いひ、西なるを白虎樓といふ。(5)大極殿の前面兩側に見ゆる樹木は左近櫻、右近橘なり。即ち向つて右なるは左近櫻にして、向つて左方を右近橘といふ。(6)平安神宮の本殿は大極殿の北にありて、大極殿にかくれて見えず、官幣大社にして毎年四月十五日勅使参向して祭儀を行ふ。(7)大極殿の前面なる長欄及び左右の石階は参拜者の爲めに設けたる通路ともいふべきなり。(8)明治二十八年奠都並百年記念祭の時、新に建造せしものなり。

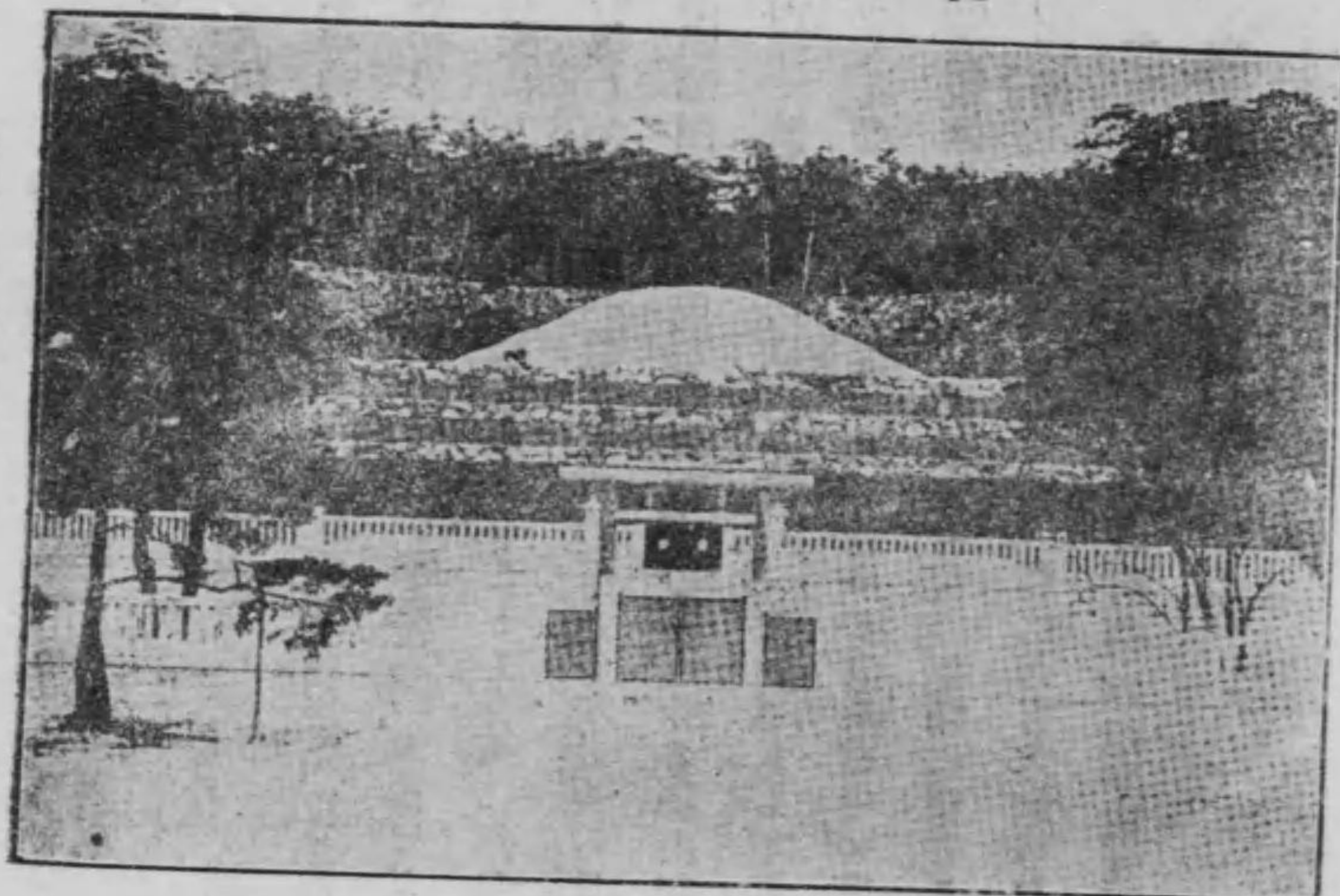
5、**桃山** 京都市の南に殆ど相連れる伏見の東に高まれる丘陵は桃山なり。桃山には豊臣秀吉の築きし伏見城の舊址あり、眺望頗る雄麗にして、明治天皇の英靈こゝに鎮まり給ふ。即ち伏見桃山陵あり。其の東にあたり照憲皇太后の御陵あり。参拜者常に絶ゆることなし。淀川の上流なる宇治川其の麓を流る。

6、**宇治** 宇治川の南岸にあり、附近の地古來茶の産地として、名高く、宇治茶と稱し、品質の優良なること海内第一なり。有名なる平等院は此の地に在りて、鳳凰堂は本堂にして以て、藤原時代の榮華の一端を伺ふに足るべし。

◎挿繪の説明

(1)圖は宇治に於ける茶摘みの状況を現はせる光景なり。(2)繁茂せる茶畑中に見ゆるは茶摘女にして、大抵二十歳前後にして、茶摘の季節に至れば奈良・滋賀等の近縣より出稼に来る。(3)茶摘女の側或は背に負へるは摘みたる茶を入るるものなり。(4)圖中に棚の如く見ゆるは日除にして、茶の芽を軟く長く伸ばさんが爲めに茶の木を簀にて蔽ひたるなり。(5)日除の下にて摘みたる若芽よりは玉露と稱する上茶を製す。(6)茶は濕潤なる地を嫌ふを以て、高燥なる地を選びて栽培す。(7)播種後五年目頃より摘茶を開始すと雖二十年以上を経過せざれば佳良なる玉露茶を製するに適せず。(8)前方

桃山御陵



第五 近畿地方

の山は比叡山脈の京都市と滋賀縣との境をなせるものなり。

(三)大阪府

7、大阪府(人口百五十萬) 大阪府は淀川の下流に跨れる最繁盛なる貿易港にして、京都を距る鐵路二十七哩約一時間にして達す、大阪灣に臨み、東西二里十七町、南北二里十二町、面積三方里、人口百五十萬を算し、東京につぎて我が國第二の大都會たり。市内には淀川の水を引きて開きたる數多の運河縱横に交はり、随つて橋梁の多きことも全國に比なく、一に水の都と稱せらる。昔は難波と稱し、仁徳天皇の都し給ひし所、豊臣秀吉の築きし城は今なほ塹濠深く、石垣高く、金城湯池の舊觀を偲ばしむ。中に第四師團あり。而して大阪市の發達せる理由左の如し。

- (1)後に畿内平野の沃野を控へ、交通便にして産物多く、生活に便なること。
- (2)大阪灣に臨み、淀川及び數多の溝渠市中を貫流し、舟楫の便あること。
- (3)大阪港ありて、關西地方百貨の輻輳に便なること。
- (4)政治上の中心地としては、豊臣秀吉大阪城を築きて天下に號令せしより政治的都市となり、現今其の主なる官衙を擧ぐれば大阪府廳・第四師團・造幣局・大阪砲兵工廠・控訴院等あり、又高等工業學校・高等商業學校・醫學專門學校等あり。
- (5)商業上の中心としては、住友・浪花・三十四・北濱・鴻池の銀行を始めとして、心齋橋筋は大買巨商櫛比

して最繁華なる市街をなし商業盛なり。尙東亞一帶を其の勢力範圍に入れて、海外貿易次第に盛大となり、航路も益々延長して北米・印度・南洋に及び、將に世界的商港たらんとす。大阪港に於ける貿易高左の如し。

	大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
輸出	百萬圓	七三	七四	九四	一四三
輸入	二七	四二	四二	五二	八二
合計	八四	一一五	一一五	一四五	二二四

大阪港に於ける主なる貿易品及び其の價格左の如し。單位千圓

輸出品	輸出高	輸入品	輸入高
綿織物	三、八三〇	金屬類	二八、六七〇
綿絲	二五、四四〇	綵綿	二五、三五〇
銅	九、二二〇	眞鍮	一三、九九〇
メリヤス	五、五五〇	青銅	四、八〇〇
マツチ	三、三〇〇	鐵材	二、七〇〇

アンチモニー	二、九五〇	野 蠶 絲	一、七六〇
硝子製品	二、九三〇	モ ル ヒ ネ	一、三六〇
鐵 製 品	二、六六〇	麻 類	一、一八〇
真 鍮 黃 銅	二、五五〇	曹 達 灰	九二〇

(6) 學術上の中心として高等工業學校・高等商業學校・醫學專門學校其の他の學校あり、書籍・新聞・雜誌の刊行等あり。

(7) 工業上の中心地として我が國第一にして、工業會社、工場等少なからず、煙突林立して黒煙天を蔽ふ、主なる會社工場左の如し。

大阪紡績・攝津紡績・平野紡績・金巾製織・日本紡績・明治紡績・大阪撚絲・天滿織物・大阪合同紡績其の他
燐寸製造・硫酸製造・硝子製造・造船業・金屬製品等の會社あり、全國の約三分の一を占む。

(8) 遊覽的都市としては東京、京都に劣れり。然れども市内に於て名高き大阪城・高津神社・四天王寺・天滿天神・中島公園等の遊覽地あり、道頓堀、千日前には幾多の演劇場見世物・寄席等ありて、觀客の雜沓を極む。

○挿繪の説明 大阪城の棧橋(六十九頁)

(1) 圖は近年竣工せる大阪港の棧橋に大汽船の横付せられたる光景なり。(2) 大棧橋の長さ二百五十間、

幅十五間、上に鐵道を敷き、起重機の設備あり、且つ尖端には燈臺あり。(3) 大阪築港は西安治川口より、東木津川に達する間に設けられ、港域東西約三里、南北一里半八ヶ年を要して竣工し、工費二千餘萬圓を費したりといふ。(4) 安治川は淀川の下流にして平素は主として、河水之に流るれども、一朝出水することあれば、新淀川によりて海に注がしむ。新淀川は淀川の分水路にして、淀川の流出泥砂の堆積を防ぐ爲めに開鑿せられたる河なり。(5) 其の中に南北に防波堤を設く、北なるは一千四百九十二間にして、南なるは一千八百五十五間ありて、港灣の水面を限りて海波を防ぐ。

○挿繪の説明 大阪市街の一部(六十九頁)

(1) 圖は大阪市街の略中央なる四ツ橋電車交又點の光景なり。(2) 四ツ橋は東西兩區の境をなす西横堀川と長堀川と相交りて十字形をなせる所に架り、西横堀川には上繫・下繫の二橋を架し、長堀川には炭屋・吉野屋の兩橋を架し、其の形恰口字の如く、此の名ある所以なり。(3) 橋上には人車馬往來し、橋下には舟楫の便あり、電車の往來頻繁にして、大阪市中の繁華なる所なり。

8、堺市(人口六萬七千) 大阪より南方六哩大和川の吐口に位し、大阪より電車の便あり、商工業發達し、綿絲・綿布・煉瓦・双物・清酒等の工場ありて、工業地として小大阪の觀あり。此の地室町時代は支那交通の要津にして、繁華なりしも、大阪の盛なるにつれて、其の繁華を奪はれたる傾ありしも、元龜、天正より徳川の中世に至るまでは南蠻船の出入繁く、商業盛なりしが、今は砂洲のために港口埋れ碇泊地を

失ふと、大阪・神戸の繁盛とにより昔時の繁華見るべからず。市の東郊に仁徳天皇の山陵あり。

(四)兵庫縣

9、尼崎及び伊丹 大阪より西方神戸に至る間には近時工業地として進歩發展せる尼ヶ崎あり。又古來清酒の醸造を以て名高き灘・伊丹等あり。

尼ヶ崎市は人口三萬綿絲紡績・硝子製造・鐵工等の工場ありて堺と共に大阪を挟みて、工業地として知らる。其の西方一帯は即ち西宮及附近の町村は所謂灘五郷と稱し、清酒の醸造盛にして、芳醇無比を以て稱せらる灘の銘酒の産地たり。其の北方伊丹亦良酒の丹醸を以て灘の銘酒と好一對なり。

10、神戸市(人口五十六萬人) 大阪灣に臨み、大阪より十里、(東京より百六十里東海道線の終點にあり)

兵庫縣廳の所在地にして、夙に舊五港の一として名高く、近時横濱港と共に外國の二大貿易港として東西相對して其の雄を競ふ。此の地は慶長二年の開港にして以前は寂寥たる漁村なりしも開港以來の發達迅速にして、今や我が國第四の都會たり。神戸市の發達せる理由左の如し。

(1) 港灣水深く海底硬泥にして船舶の淀泊に便なること。

(2) 武庫山麓の急峻なるあり、且和田岬西に突出して風波を防ぐに便なること。

(3) 背後に平野あると瀬戸内海とによりて、水陸交通の便あること。

(4) 瀬戸内海の好位置を占め、近畿地方の門戸たるを以て物貨の集散に便なること。

(5) 瀬戸内海によりて、内外貿易の勢力範圍亦廣大なること。

神戸港に於ける貿易高左の如し。

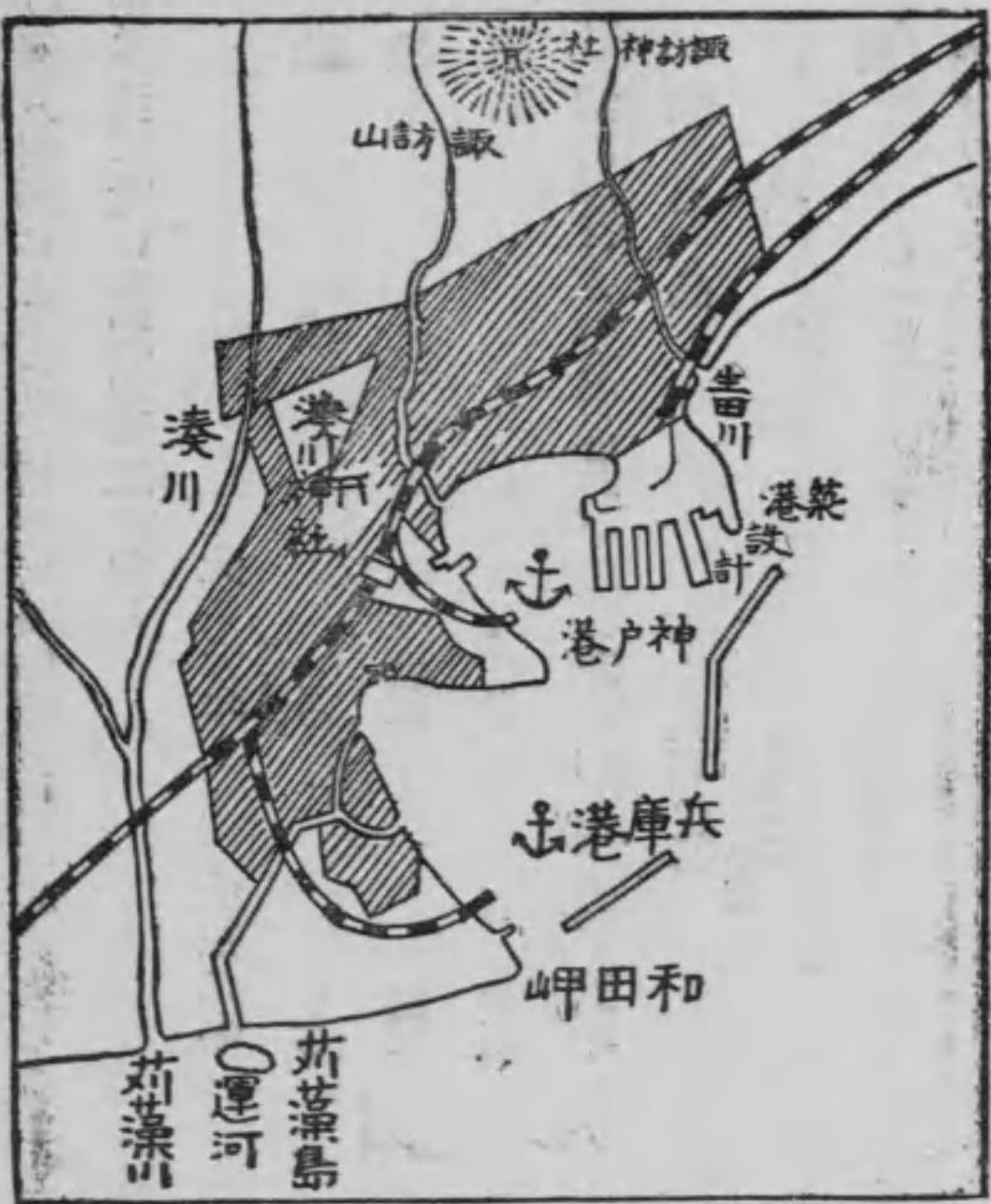
輸出入	大正元年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年	
	百萬圓	千圓	百萬圓	千圓	百萬圓	千圓	百萬圓	千圓	百萬圓	千圓
輸出	150	150	170	170	160	160	190	190	210	210
輸入	3011	3011	347	347	283	283	369	369	374	374
計	4511	4511	517	517	443	443	559	559	584	584

神戸港に於ける貿易品及び價格左の如し。大正五年

輸出品	價格		輸出品	價格	
	千圓	千圓		千圓	千圓
綿織物	39,810	39,810	綠綿	184,600	184,600
銅	27,060	27,060	鐵	36,590	36,590
綿メリヤス肌衣	20,280	20,280	羊毛	17,810	17,810
マツチ	17,260	17,260	藥品類	8,640	8,640
綿布	14,730	14,730	豆粕	9,840	9,840
米	9,020	9,020	機械類	7,680	7,680
樟腦	6,150	6,150	鉛	4,260	4,260

アンチモニー	五、五〇〇
陶磁器	五、二九〇
貝鈕	五、二〇〇
硝子品	五、一七〇

神 戸 の 略 図



ゴム	四、一五〇
麻類	二、八九〇
米	二、三〇〇
貝殻	二、二〇〇

輸入品中薬品類とあるは、ソーダ・苛性ソーダ・曹達灰・石炭酸・クロール酸加里等なり。(6)工業的都邑としては川崎造船所をはじめ、三菱・小野濱造船所あり、又綿絲紡績毛絲紡績・麥粉・マッチ等の大工場甚だ多く、樟腦の製造亦行はる。

○挿繪の説明 神戸港 (七十頁、七十一頁)

- (1)圖は神戸市の北方なる諏訪山附近より市街及び港灣を俯瞰したる光景なり。(2)右方に橋の如く見ゆるは我が國



11、神戸西方の勝地

第五 近畿地方

明石海峡一帯の沿岸には須磨・舞子・明石・高砂等の名勝多く、白砂青松長く連り、風

屈指の大造船所なる川崎造船所の造船臺なり。(3)向つて左方に四個並列して海中に突出せるは建設中の繋船岸にて、最右端は完成し規模大にして、船橋列立し、倉庫櫓を連ぬ。(4)左方より一直線に長く海中に突出して見ゆるは防波堤なり。(5)繋船岸の右方汽船の多く見ゆる海面は米利堅波止場の沖なり。(6)港灣に大小無数の汽船帆船股賑を極めたる有様によりて神戸市の隆盛なるを知るべし。(7)西に兵庫港あり。もと神戸と分れしが今は合して一となり、東を神戸、西を兵庫といふ。(8)市の略中央に楠正成を祀れる湊川神社あり、社殿壯麗にして、境内七千餘坪、有名なる嗚呼忠臣楠子之墓の石碑あり、元祿四年徳川光圀の建設せる所なり。(9)諏訪山は市の東北に聳ゆる丘陵にして、諏訪神社あり。展望開豁、之を諏訪山公園と稱す。

光絶佳、空氣清澄、氣候温暖にして、貴顯紳士の別荘多く、又行遊の客甚だ多し。現時神戸より電氣鐵道の便あり。

12、姫路市(人口四萬) 播磨灘沿岸の平野に在り。市川に臨み、山陽線及び播但線の交叉點にして交通の一要地に當り、第十師團あり、附近より姫路革・姫路木綿を産す。

13、生野町(人口一萬) 姫路市の北方にあり、古來金銀の産出を以て著はる生野鑛山あり。現時三菱合資會社の經營にかゝる。銅銀の産地として我國屈指の鑛山なり。近畿地方には鑛山極めて少なく、此の外殆ど世に知らるゝものなし、生野鑛山の鑛産及び其の産額左の如し。

銅	大正三年		大正四年		大正五年	
	千	斤	千	斤	千	斤
銀	三、三三九	貫	四、〇九三	貫	四、四五〇	貫
金	一、八九六	貫	一、〇九六	貫	一、九三六	貫
錫	一九	貫	二〇	貫	三三	貫
	一三四	貫	五六	貫	三八一	貫

14、赤穂 兵庫縣の西部に在り、古來赤穂鹽の産地として名高く、年産額一億三千五百萬斤に及ぶ。又、赤穂義士大石良雄等四十七士の出でたる地なるを以て天下に知らる。

(五) 奈良縣

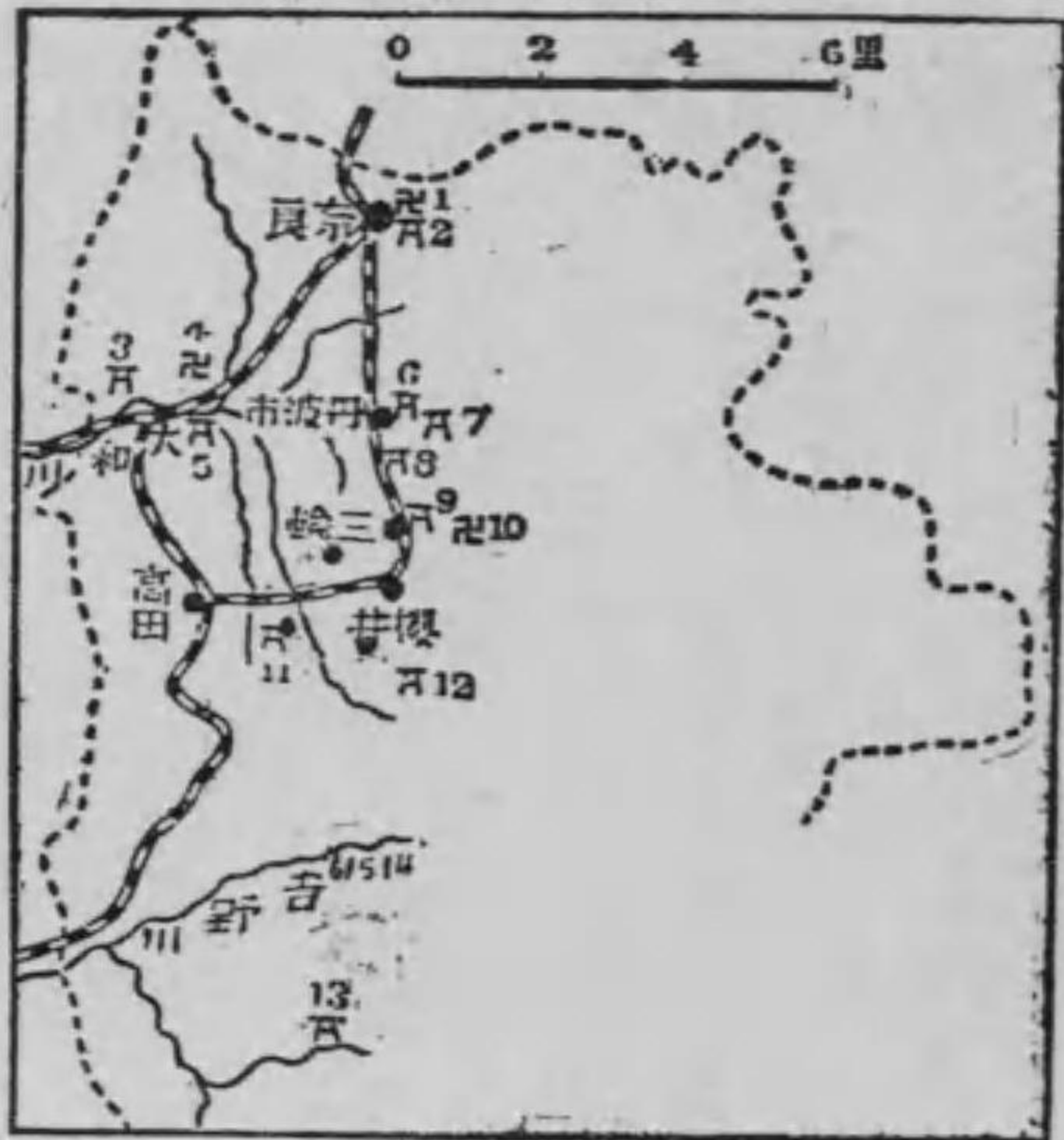
15、奈良市(人口四萬) 奈良市は奈良盆地の中心都市をなし、東に春日山を負ひ、東南一帶は大和平原にして、生駒山・金剛山は西方指呼の間にあり、風光絶佳にして、奈良縣廳及び奈良女子高等師範學校あり。此の地は元明帝以後七代七十餘年間の帝都の地たりし所にして、我が國美術の粹をあつめ、又神社佛閣等は佛教隆盛當時の有様を遺す。

即ち正倉院は我が國無雙の國寶庫として、天平時代の寶物を藏したるものなり。奈良博物館は奈良朝の佛像・佛畫・佛具等を藏し、春日神社は藤原氏の氏神にして、興福寺の鎮守なり。今も尊崇高く、東大寺は聖武帝の建立にして、金光明四天護國寺又は總國分寺と稱し大佛に名高し。今も昔を訪ぬる遊覽の人絶えず。

◎挿繪の説明 春日神社 (七十二頁)

(1)圖は春日神社の壯麗なる朱塗の樓門と神鹿とをあらはせる光景なり。(2)春日作り、春日燈籠等は藤原時代の建築

寺社の近附良奈



- 1 東大寺
- 2 春日神社
- 3 龍田神社
- 4 法隆寺
- 5 廣濟神社
- 6 天理教廳
- 7 石上神社
- 8 大神神社
- 9 大和神社
- 10 長谷寺
- 11 橿原神宮
- 12 談山神社
- 13 丹生川上神社
- 14 耳成山
- 15 畝傍山
- 16 天香久山

春 日 神 社



の形式を存するものなり。(3)境内には老樹鬱蒼として楓樹其の間に交はり、神鹿其の樹間に遊ぶ。一度この地に到らんか真に仙境に遊ぶが如し。(4)神社の背後は春日山にして、其の北に續きて春は若草の萌えて優美なる嫩草山あり此の麓に手向山神社あり。(5)東大寺は稍西北に離れてあり、此の北に古代の寶器を藏する正倉院あり。

16、奈良盆地 奈良朝以前即ち神武天皇に溯る代々の天皇の多く都を奠め給ひし處なれば到る處に社寺舊蹟あり。畝傍山の東北に神武天皇の御陵あり、其の東南に官幣大社あり、神武天皇を祀れる橿原神宮あり。奈良盆地の西南なる法隆寺村に聖德太子の建立せられたる古刹法隆寺あり。其の金堂及び五重の塔は本邦最古の建築にして、中に推古時代の美術・建築・佛像等を藏し、一つの古美術博物館の趣あり。舊名を班鳩寺といふ。

17、吉野 紀の川の上流に沿ひて吉野あり、古來櫻花を以て

名高く、所謂一目千本奥の千本等は殊に名高し。又後醍醐天皇の行宮を定め給ひし地にして、吉野宮、皇居址及び如意輪寺等あり。如意輪寺の側に後醍醐天皇の御陵あり。南朝の故事を思へば人をして轉た懷舊の涙に咽ばしむ。

(六)和歌山縣

18、高野山 紀の川の左岸に在り、海拔八百米、頂上に金剛峰寺あり、嵯峨天皇の弘仁七年僧空海勅を奉じて建立せしものにして、眞言宗の總本山なり。寺域二里半四方に亘り、百三十の僧坊ありて滿山に布置す。堂塔輪奐、僧坊壯麗にして山頂老樹の鬱蒼とし、幽邃實に愛すべし。附近一帯は杉・楡の良材を産す。

19、和歌山市(人口八萬) 紀の川の河口に臨み、南海・紀和兩線此の地に集り、水戸・名古屋と共に徳川三家と呼ばれ、紀伊家五十五萬石の城下にして、今尙市の中央にの丘陵地に天主閣聳え、名城の面影を偲ばしむ。和歌山縣廳の所在地なり。

市内には綿フランネルの機織盛にして、其の産額一千八百餘萬圓全國二千六百餘萬圓の約七割餘に達す。

20、和歌の浦 和歌山市の西南約一里許りの所に在り、前に波靜かなる和歌浦灣あり。鏡面の如くして、鹽津浦・地の島・沖の島・双子島等其の上に横はり、名草山東方に聳え、紀三井寺を翠綠の間に望み、海波

静かにして風光絶佳の地なり。玉津神社あり和歌の神として崇敬せられ、聖武帝嘗てこの地に行幸して明光浦の名を賜ひき。今和歌山市より電車を通ず。

○挿繪の説明 和歌浦 (七十二頁)

(1)圖は和歌の浦の沖より玉津島神社を望みたる光景なり。(2)圖の中央の小丘に見ゆる塔は玉津島神社の多寶塔なり。(3)右中央に建築せられたるは觀海樓にして、背後なる本陸とは石橋によつて通ず。(4)左方の海岸に見ゆるは旅館にして、玉津島神社は其の背後に在り。(5)和歌の浦は翠松と波光と相映じ風光絶佳なり。(6)聖武帝此の地に行幸し給ひて。

「登山望海、此間最好、不勞遠行、足以遊覽、故改弱濱名爲明光之浦、宜置守戸、勿令荒穢云々」と、是より明光浦と稱し、後若浦又は和歌浦といふ。

21、黒江町(人口一萬) 和歌市の南方三里に在り、黒江塗を産するを以て名高く、實用向を主とする漆器にして毎戸殆ど之を製作せざるはなく。年産額八十餘萬圓に及ぶ。和歌山市より電車を通ず。

22、新宮町(人口二萬三千) 熊野川の吐口にあり、熊野川上流地方より流下し來れる木材の集散地にして、製材業亦盛なり。本縣東部に於ける屈指の都會たり。此の地に伊弉諾尊の御子速玉之男神を祭れる官幣大社熊野速玉神社あり、本宮の熊野夫須美神社、那智の熊野坐神と共に熊野三社といふ。

23、那智瀧 新宮の西方那智山に在りて山中に四十八瀧あり、第一の瀧は水量に於ては華嚴の瀧に及ばざ

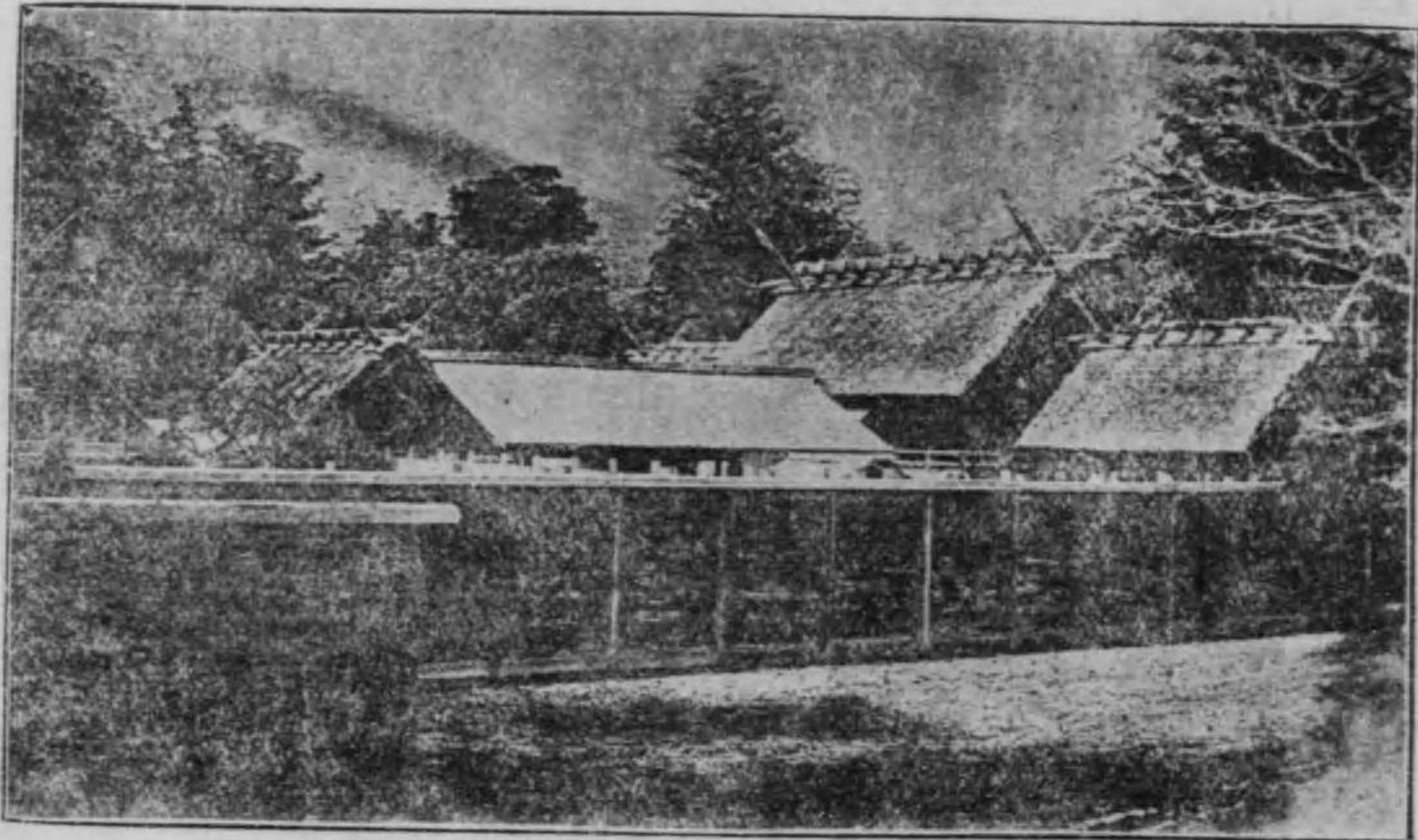
れども、高さに於ては我が國第一の大瀑布にして、直下八十丈幅十八間那智の瀧と稱せられ、其の壯大なる光景は遠く熊野灘より望見することを得べし。其の水流れて那智川となり熊野灘に注ぐ。

(七)三重縣

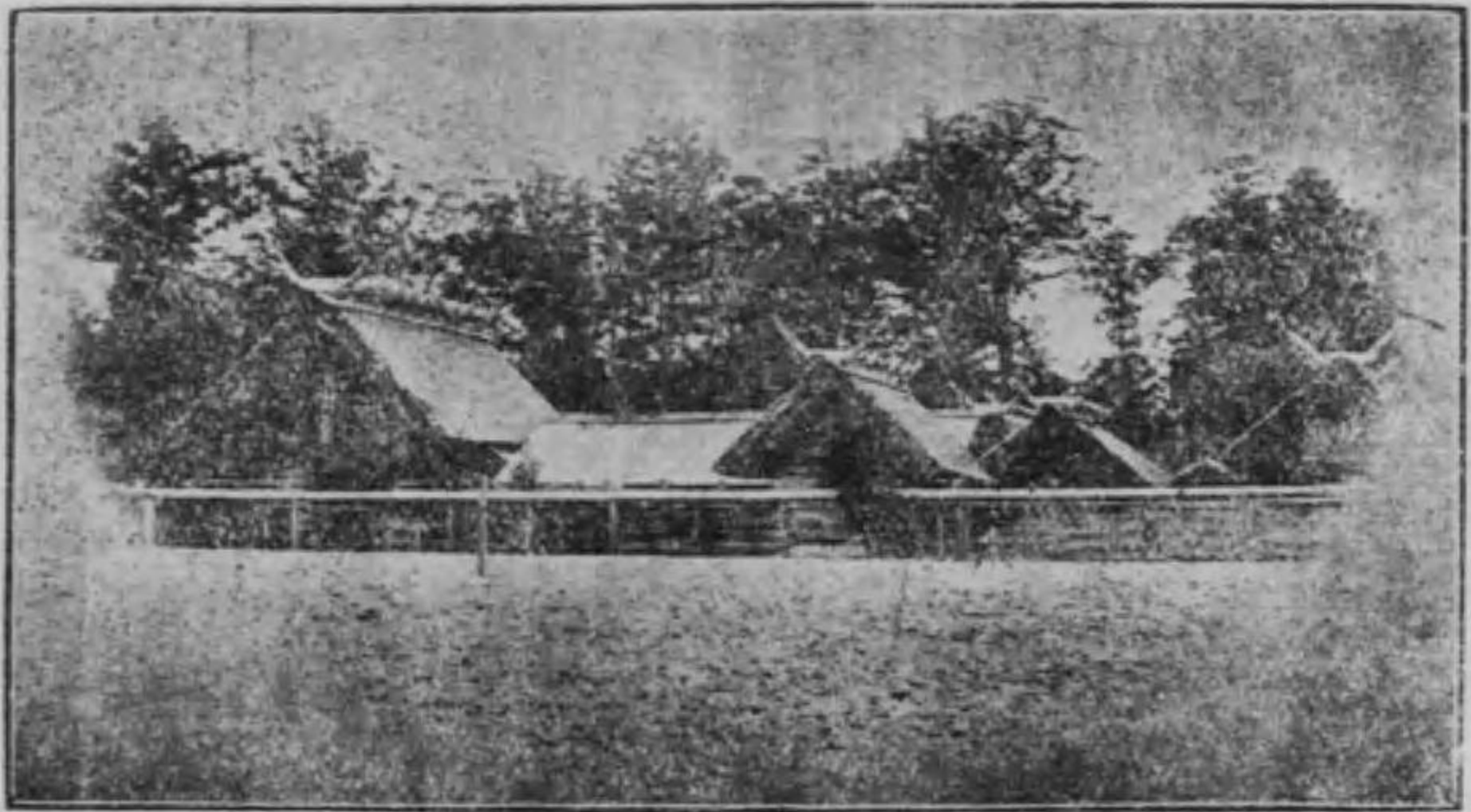
24、宇治山田市(人口四萬) 伊勢平野の南部に位し、宮川に臨み、伊勢大廟あるを以て著はる。鐵道參宮線によりて龜山より乗車して、山田驛に下車すれで數町にして外宮に達す。

外宮は山田にあり、伊弉弉神の第二十五子なる稚産靈神の御子にして女神なる豊受大神を祀る。産業の神にして、雄略天皇の御宇天照大神の神託により丹波國與佐麻奈爲原より移し奉れり。宮城八十一町、神苑一萬五千歩、南方高倉山鬱蒼として、千歳の色を帯び、境内幽邃森嚴にして、自ら崇敬の念を起し、襟を正さしむ。

宮 内



外 宮



伊勢參宮の人先づ第一に此の宮に參拜し内宮に至るを通例とす。内宮は宇治に在り天照大神を祀る。五十鈴川清く、北に流れ老杉森然として宮域を護る。宮域七十一町、神路山東南に聳え社容亦宏壯森嚴にして參拜者をして油然崇敬の情を起さしむ。

25、津市(人口四萬七千) 伊勢平野の中部に位して、伊勢海に臨み、附近を阿漕浦と稱す。三重縣廳の所在地にして商業亦盛なれば伊勢平野の中心都會たり。近年綿絲・綿織物等の綿工業起りて、市況大に振ふに至れり。此の地舊藤堂氏三十二萬石の城下にして縣下第一の都會なり。

26、四日市市(人口三萬四千) 伊勢海に臨める開港場にして、築港工事未だ完成せざれども港灣廣く水深ければ大船巨舶も出入し得べく、横濱・神戸との間に定期航海あり。目下工事中の築港完成せば尙一層の活氣を呈すべし。此の地又濃尾平野の關門となり、關西線通じて水路交通の要津たり。綿・豆粕等を輸入し、綿絲・綿織物・茶・萬古燒等を輸出す。

四、教授上の注意

- 1、近江八景につきては地圖及繪畫によりて知らしむべし。
- 2、近江麻布につきて授け近江商人を知らしむべし。
- 3、大津を授くる時は園城寺に關して附説すべし。
- 4、京都市の古今地圖を示して其の變遷の狀況を比較し、以て其の盛衰を知らしむべし。
- 5、京都御所の永く保存せらるゝ所以を知らしめ、皇位繼承等の盛儀の行はるることを知らしむべし。
- 6、奈良市の古今地圖を示し其の變遷を比較し、古の規模の廣大なりしを知らしむべし。
- 7、奈良縣(大和地方)は歴史上の遺物遺蹟多く、法隆寺・東大寺・正倉院・奈良帝室博物館等には國寶及び保護建築物多きことを知らしむべし。
- 8、伊勢神宮につきて説明し、宇治山田市の發達せる理由を知らしむべし。
- 9、神戸を教授するに當り、神戸の京都・大阪に於ける關係を、横濱の東京に於ける關係と比較し、大生産地と大消費地と開港との關係を理解せしむべし。
- 10、神戸、横濱の貿易につきて比較し、神戸は輸入港にして、横濱は輸出港なることを知らしむべし。
- 11、灘及び伊丹地方の清酒醸造業につきて復習し、良酒に富める理由を説明すべし。
 - 1、水質最も醸酒に適すること。
 - 2、大阪平野附近に原料用として無比の良米を産すること。

- 3、吉野山林よりは酒樽に用ふべき材を容易に得らるゝこと。
- 4、醸造酒につきて研究し、互に良酒の醸造に競争すること。
- 12、赤穂につきては赤穂鹽及び赤穂義士につきて古來有名なることを知らしむべし。
- 13、京都・大阪・神戸は近畿地方文化の三大中心地にして、本地方の總ての都邑は此の三者に關係を有することを知らしむべし。
- 14、奈良市を授くるに當りては京都市と比較し、何れも帝都の地なりしことを知らしむべし。
- 15、近畿地方は明治維前に至るまで帝都の地たりしを以て、名高き舊蹟、遺蹟多く、歴史的都邑多ければ歴史と連絡をとりて授くるを要す。

五、參考資料

- 1、濱縮緬 濱縮緬は寶曆年間淺井郡難波村の中村林助・乾庄九郎なる豪農等、難波村が姉川に頻して毎年水害を蒙り、耕田の荒蕪するを憂へ、相計りて養蠶をなさしめ、丹後宮津より縮緬製織の方法を習得し、之を村民に傳授せしに始まる。
- 2、近江商人 近江より産する麻布・蚊帳・賣藥等を諸國に行商するものなり。其の初め徳川時代に於て農民其の政に苦しみ、鋤・鍬を棄て、天秤棒を肩にして、天下を行商す。よりてこの名あり。
- 3、比叡山 近江國滋賀郡坂本村に屬す。此の地は桓武天皇奠都せられ給ふや、京城の鬼門に當るの故を以て王城の鎮となさんとして山上に延曆寺を建て京城守護となす。延曆寺は延曆四年傳教大師の開山にして天台宗の本山なり。

4、賀茂川 山城國愛宕郡鞍馬山中に出づる鞍馬川、同郡雲畑村岩屋に發する雲畑川と上賀茂村の西に至りて合し、賀茂川の源をなす。南流して京都の東に出で高野川を入れて淀川に注ぐ。京都にて洛水といふ。平時は水淺く清澄なれども、大雨一たび至れば忽ちに氾濫し、京都市を衝く。故に延曆奠都後鴨河使を置きて之を禦ぎしも、尙其の害を根除すること能はざりき。白河天皇の御稜威にさへ世の中に朕の意に任せぬは唯鴨川の水と雙陸の采と山法師のみと宣へりとか。されど河上數多の橋梁を架し、洛東に通じ、其の三條橋は往昔里程の起點として名高く、四條橋畔は牛若丸と辨慶の故事あり、今納涼地として名高し。

5、京都御所 往昔、桓武天皇の御宇、山背國葛野郡宇多村の地を相す、此の地山河襟帶の形勢、四神擁護の靈地、帝都に適すべしと遷都の議茲に定まり、延曆十三年二月工事に着手し、明年の季工成るに及び、十月廿二日、長岡の京より新都に御遷幸あらせらる。大内裏は、北は一條より南は二條に至り、四方に十二の門を設け、郭内には朝堂院(大極殿の在る所)、皇居を始めとして、八省、百司等の宏大なる金殿瓊樓は煌燿燦爛として輪奐の美を誇り皇威の盛大を示し、爾後二百餘年の間、十數回、回祿の災ありしも、毎に再造せられしが世の隆替は長き御邊にも免れさせ給はぬ事とて、王政漸く衰へて武臣權を專

らにするに及び、大内裏も亦自ら荒廢して遂に後堀河天皇の安貞元年四月二十三日の火災に、當時御造營半なる宮殿、悉皆烏有となりしより永く再造の事廢りぬ。後、建武中興に際し、再營の計劃ありしも、延元の亂に會し、未だ工を載むるに及ばずして止めり。慨くに堪ふべけん哉。爾來皇后は皇内裏となり各地に移り、間々大内裏の皇居に擬し紫宸、清涼の諸殿を造營せられしが、現今の皇居は南北朝頃、北朝の御所となり、文中九年南北御和合以來足利氏の手によりて修理を加へられ、徹に皇居の制を爲ししが應仁の大亂後、皇居も廢頽の儘に任せて、殆ど風雨だに掩ひ難き御慘狀に至りぬ。正親町天皇の永祿十一年織田信長皇居を修理し供御を附し奉りき。次で豊臣・徳川の兩氏亦、皇居を造營し朝儀をも稍々舊制に復せり。爾後屢々回祿に罹りしも、毎に徳川幕府之を造進し、殊に光格天皇の御宇天明八年の火災により、御再造の際は、幕府の閣老松平定信自ら其の役を董し、儒者紫野邦彦をして故實舊例を考證せしめ、大内裏の規則に基きて造營し奉る後、光明天皇の嘉永七年四月又炎上せしかば、大凡寛政の例により、安政三年造營功成れり。是れ即ち今の京都御所にして、地は東洞院より舊萬里小路に至り、應司より一條の上に及び東西百三十七間半、南北二百四十七間、面積三萬三千三百廿九坪、四方に塀を縁らし、南の正門を建禮門、東の正門を建春門、北の正門を朔平門、西の正門を宜秋門といひ、亦南門内紫宸殿外に承明・日華・左掖・月華・右掖の諸門あり。此の奥に紫宸殿南面して建ち、階前の左右に左近の櫻、右近の橘あり、其の他清涼殿・宣陽殿及び數多の御殿は蔓を並べて限なく建ち續けども詳に記さんはい

と畏こし。此御所外はもと皇族公卿等の邸址なりしを夷げて平地となし御苑とせらる。其の面積實に廿六萬八千二百廿二坪ありといふ。明治二年東駕御東遷ありしも、御即位の大禮及び大嘗會は、當御所に於て行ふことに掟め給ひぬ。されば平安京は桓武天皇の叡慮の如く、實に萬代不易の皇都たり。茲に最も注意すべきは現今の京都御所は延暦奠都の御所とは全く地を異にせることなり。(大日本地理集成による)

6、二條離宮 二條堀川の西にあり。舊織田信長永祿十二年始めて築きし所なりしが、天正十年明智光秀之を燒く、慶長七年に至り、徳川家康之を再造し、城代を置きて之を守らしむ。維新の際假りに大政官となす。東遷の後は京都府廳となし、現今は宮内省の所屬となり、離宮に充てらる、外圍の塀を撤して舊觀を改む。

7、平安神宮 洛東なる上京區岡崎町にあり。明治二十八年は桓武天皇平安奠都延暦十三年以來一千百年に當るを以て、紀念として、此の地に模造大極殿を營むこれ即ち桓武天皇を祀れる官幣大社平安神宮なり。社殿は明治二十六年一月起工し、二年にして成る。域内に應天門、大極殿の雄麗なる大建築あり。應天門は高さ六十四尺、桁行六十尺、梁行二十四尺巍々して聳ゆ。二層樓にして階上には椽を廻らし、椽には朱欄を設け、屋根は碧瓦を用ひ、鴟尾を置き應天門の額を掲ぐ。應天門を入れば龍尾壇あり、東西二百八十尺、其の北に大極殿あり、南向にして桁行百十尺梁間四十尺高さ五十五尺、左右には歩廊長く

通じ、其の兩端に各一基の高樓あり、即ち東なるを蒼龍樓といひ、西なるを白虎樓といふ。

8、北野神社 京都市の西北隅、北野右近馬場にあり、菅原道眞の靈を祀れる官幣中社なり。村上天皇の天曆元年に遷座し、天徳三年二月右大臣藤原師輔公神殿を増築せり。爾來社殿を改造すること數次、靈驗益々著はる。現存の社殿は慶長十二年豊臣秀頼の改造する所にして、社壇の大鏡は加藤清正公の寄進なり。社殿壯麗、境内松樹多く、梅樹亦多し。花時紅白綠翠の間に點綴し、芳香馥郁として人の面を打つ、都下の人笈を曳くもの多く參拜者の多きこと遙に他の神社にまさる。

9、知恩院 洛東東山の山腹にあり。東山第一の巨刹にして、華頂山大谷寺と號し、淨土宗鎮西派の總本山なり。開祖は源空法然上人にして、四條帝勅して、本殿には大谷寺、勢至堂には知恩教院、總門には華頂山の勅額を賜ひ永世勅願所となる。後永享三年火を發して殿堂悉く灰燼に歸したりしが、足利義政之が再興に資し幾久ならずして舊觀に復せり。應仁の亂又兵燹にかゝりしが足利義政之を修復し、更に後永正年中又回祿に逢ひしを後柏原天皇再興し、享祿四年後奈良天皇改めて勅額を本殿、勢至堂、總寺に賜ふ。今現存する勅額は即ち後奈良天皇の御宸筆なり。後天正年中に及び豊臣秀吉修理を加へ、徳川家康に至りて更に其の規模を擴大し、徳川秀忠山門及び經藏等を造營す。然るに寛永十年また火を發して勢至堂及び山門經藏を除きて他は悉く灰燼に歸す。現時の佛殿方丈庫裡等は徳川家光の建築にして、寛永十年十二月起工し、同十六年七月完成せるものなり。業なるや皇子八宮を講じて門主となし、華頂宮

と稱す。爾後世々法親王を以て門主となす。

10、本願寺 東本願寺は下京區烏丸通七條上る常葉町にあり。眞宗の總本山にして、本願寺第十一世顯如上人の嫡子教如上人が慶長七年徳川家康の命を奉じ、此所に佛殿を營み以て本願寺と號す。當時の佛殿は頗る壯麗を極めしものなりしが、數回の火災に罹りて焼失し、現今の堂宇は明治二十八年の竣工なり。東向にして、横三十五間、縦三十二間、高さ十一間餘、其の宏壯偉大なる京中に並ぶものなき大伽藍なり。

西本願寺は東本願寺の西數路を隔て、相並行し、堀川通七條の上にあり。眞宗本派の總本山にして、宗徒の多きこと海内一と稱せらる。其の濫觴は文久九年親鸞上人の女覺信尼勅許を得て、東山の太谷に父上人の廟舎を營みて所謂骨肉の像を安じてより、同十一年に及び龜山院の勅願所となり、天正十九年第十一世顯如上人の時攝津の天満より遷りて終に此處に基礎を定め、佛閣を建立するに至りしと、寺域二萬二千四十坪、堂宇また頗る偉大にして、竪二十一間半、横二十三間半、高さ十三間、本堂には骨肉の像を安定す。寺内に飛雲閣あり、豊臣秀吉が聚落第の遺物にして、其の四脚門は檜皮葺にして、精緻なる彫刻は左甚五郎の遺作なりと、特別保護建造物たり。

11、京都帝室博物館 京都帝室博物館は京都市の東南部なる七條御料地にあり。明治二十五年六月起工し同二十八年に竣工せる洋風の建築物にして、往時の珍器寶什等見るべし。

12、奈良の舊都 奈良は元明天皇和銅三年に奠都あり、以後七代七十五年間帝都の地たりしも、平安遷都と共に次第に衰へたり。古の大極殿址は西方田畝の間にあり、當時の市街は全く京外の地に屬して今は其の面影なし。

13、正倉院 大佛の西北にあり、孝謙天皇、光明天皇が聖武天皇七々の忌を修めんため、大佛に献納せし御物を藏せる所にして、其の藏する所の寶器無慮三千餘點、劍・鏡・武器・樂器・佛具・服裝品・文房具・翫弄具・圖書・藥品・香料等ありて、多くはこの時代に製作せられたるものなるを以て當時の風俗を知るを得るのみならず。其の工藝美術の發達に驚かざるはなしといふ。蓋し美術工藝及び史學上の寶庫なり。今は勅封ありて、人をしてこれを觀るを禁じたり。

14、奈良帝室博物館 春日野大鳥居の附近にあり、明治二十六年六月起工、同二十七年の竣工にして、洋風の大建築物なり。館の長さ南北三十間、東西廿間餘、工費十萬圓餘を費せりといふ。列品を歴史、美術、美術工藝の三部に分ち、國寶たる古社寺の寶物名家の逸品等を交互に陳列せり。其の規模東京、京都の博物館に比すればやゝ小なれども、本邦美術の淵藪たる奈良朝時代の美術品の粹を集むるを以て、斯道の研究等には尠なからず興味と裨益とを與ふべし。此の地古に飛火野と稱し、烽火を置きし所、後春日の二基の塔址にして、維新前まで鎌寶藏院のありし處たり。

15、春日神社 三笠山の麓にあり、藤原氏の氏神にして官幣大社なり。社殿の結構は純然なる藤原時代の

形成にして、現今のものは明治十七年の修造にかゝり、特別保護建物の一とす。

- 祭神 第一殿 武甕槌神 第二殿 經津主神
- 第三殿 天兒屋根神 第四殿 比賣神

第三殿の天兒屋根神は藤原氏の祖先なれば、一門の氏神として殊に尊崇厚し。社殿の丹楹朱欄と亭々たる老杉と相映する邊、春日の神鹿悠々として人の近附くを恐れざるは頗る奇なり。社域はまた古來燈籠の夥しきを以て聞え、其の數三千基を算すといふ。毎年節分の夜を以て悉く之に點火し美觀極りなし。

16、東大寺 南都七大寺の一にして華嚴宗の總本山たり。平城朝の文物隆盛の時代に於て、最佛法を尊敬し給へる聖武天皇の行基、菩提、良辨と四聖共力して創始し給へる所、奈良は大佛ありて其の名高く、大佛は當時の本尊なり。寺域八町四面に亘り、大日本總國分寺として朝廷の祈願本寺たりき。創造以來屢々火災に罹り、堂塔多く灰燼に歸せりといへども今尙法華堂・大佛殿・南大門・輾磴門・鐘樓・二月堂・戒壇堂・千手堂・灌頂堂・開山堂・三昧堂等あり。多く特別保護建物なり。

大佛殿は金堂にして、其の桁行三十三間、梁行三十間、棟高さ二十四間あり、中に彼の有名なる大佛を安置せり。

奈良の大佛

總 丈 五丈三尺五寸 面 長 一丈六尺

佛大良奈



二二八

面	廣	九尺五寸
眉	長	五尺四寸
目	長	三尺九寸
鼻	高	一尺六寸
口	長	五尺七寸
耳	長	八尺七寸
脛	長	二丈三尺八寸五分
掌	長	五尺六寸
胸	長	一丈八尺
中指	長	五尺

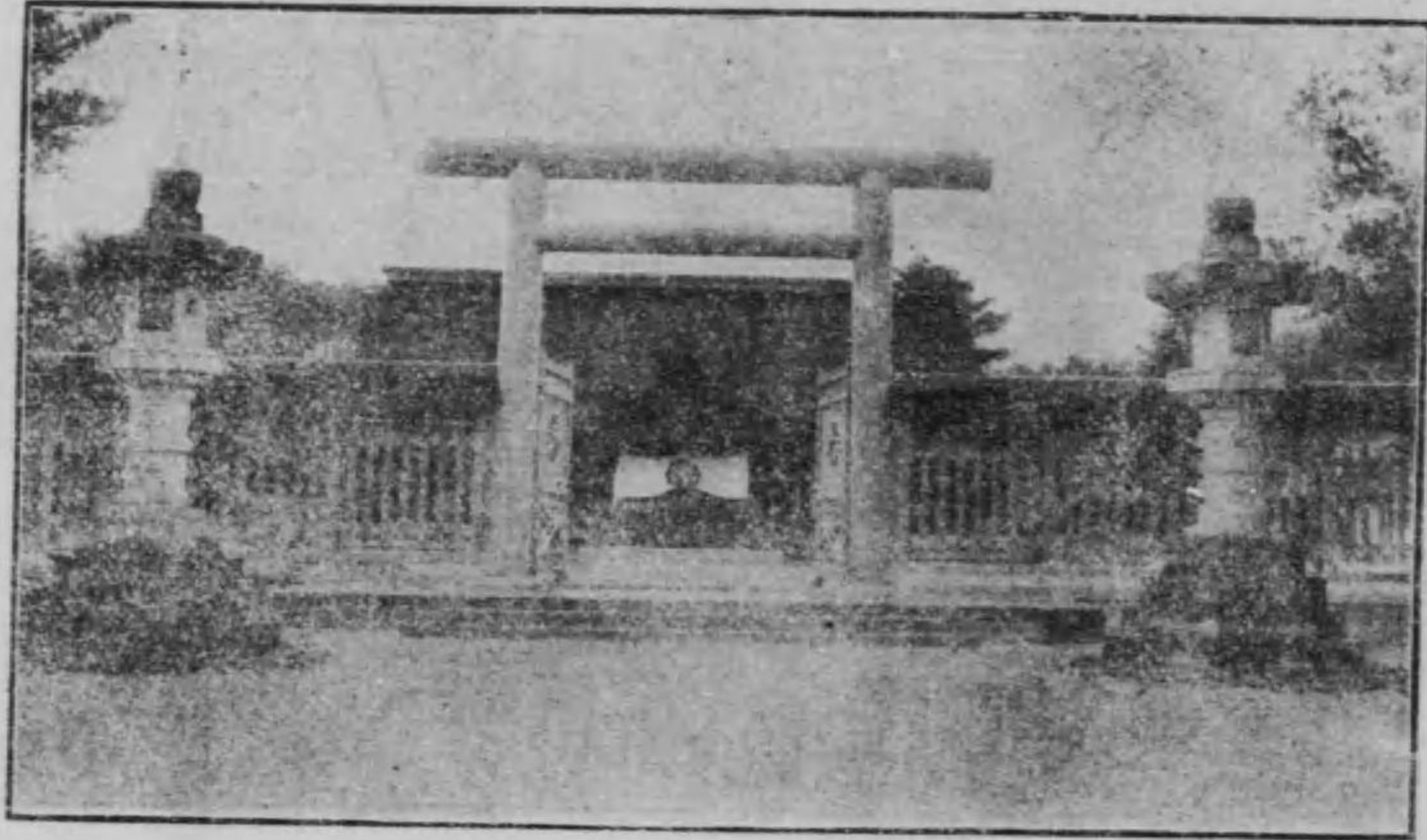
腹 長 一丈三尺

膝 厚 七尺

熟銅七三九五六〇斤 白蠟一二六〇〇斤 鍊金一〇四三〇兩 水銀五八六〇〇兩

17、橿原神宮 畝傍山の東南麓に位し、官幣大社橿原神宮あり。此の地は皇祖神武天皇の天地と共に動きなき高御座に即かせ給ひし靈地にして、神宮は明治廿三年の創造にかへり、其の神殿は京都御所の一部を移して、造營せしものにして、千古の靈蹟、時に逢ひて、此の顯揚を見たる、誰が聖代の恩澤を仰がざらんや。

橿原神宮玉垣御門

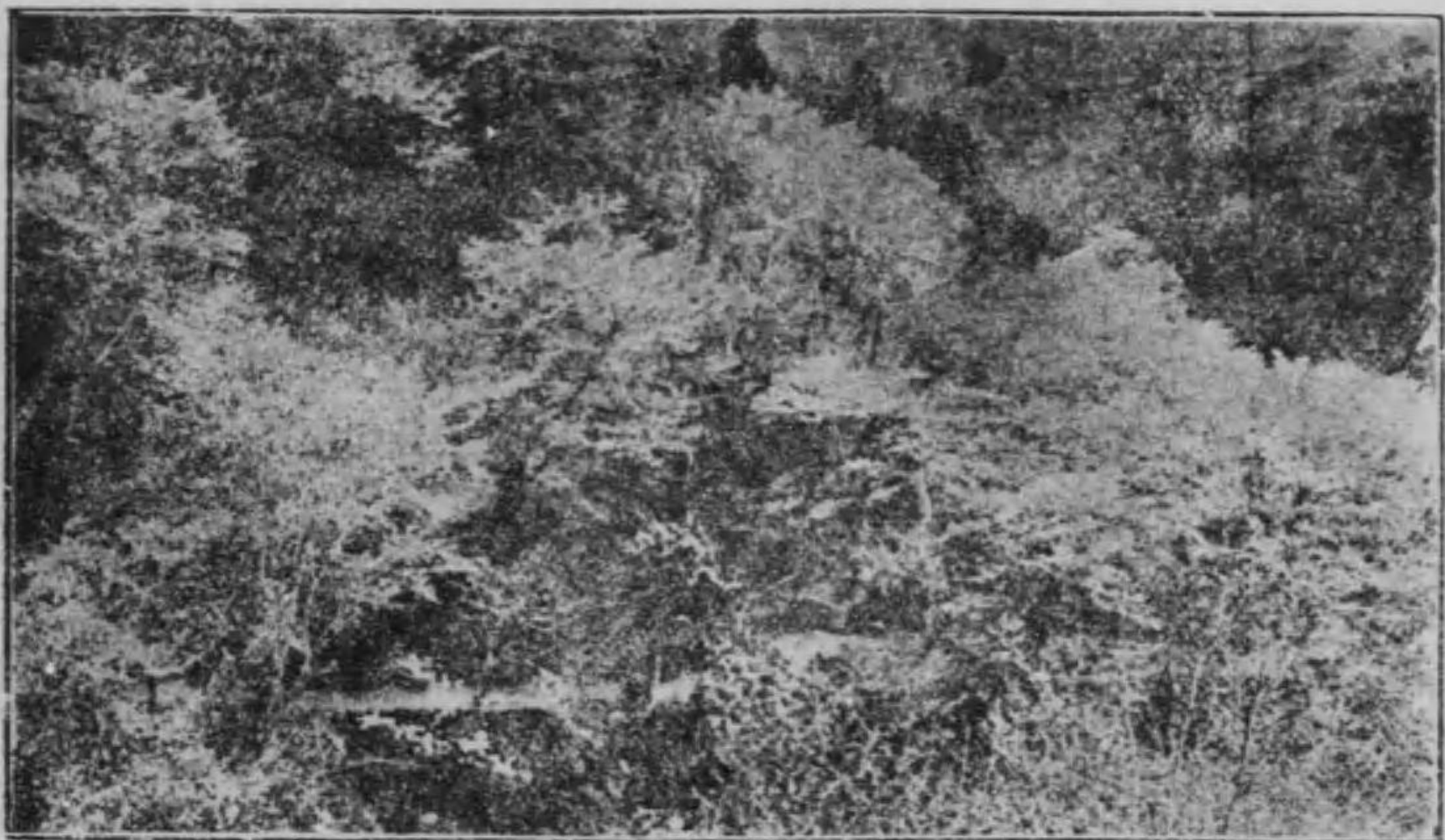


らんや。

18、法隆寺 法相宗本山の一にして南都七大寺の一なり。此の地の附近一帯古への所謂斑鳩の里なれば一名斑鳩寺とも稱す。聖德太子用明天皇の勅を以て新堂を創建し給ひ、推古天皇元年より十五年間に増築せられたる大伽藍なり。此の伽藍創建當時の境内二萬八千四百九十七坪に建造物は依然として現存し、推古天皇の玉蟲厨子を始めとし、聖德太子在世の佛體什寶巖然として今なほ見るべき寶物多く、歴史美術の材料名聲内外に噴々たるもの蓋し當寺の右に出づるものなし。されば特別保護建造物なり。

19、吉野山 吉野山は吉野川に近き丘陵地にして、櫻花を以て著はれ、吉野朝の故地多く、吉野宮、皇居址及び如意輪寺等あり。吉野宮は官幣大社にして後醍醐天皇を祀り、明治二十五年の創建なり。如意輪寺は楠木正行が髻を截つて佛壇に納め、一族百四十三人の姓名及びかへらじとの歌を彫り

吉野山千本櫻



吉野宮



三三〇

ししふ所に
て、其の扉は今
猶寺中に藏して
寶物となす。

20、高野山 紀伊
山脈に屬し、和
歌山縣伊都郡の
南部に在り。高
さ二千八百尺餘
にして、峰巒連
亘すること數
里、山上一高原
狀をなし、此處
に名高さ金剛峯
寺あり。金剛峯

寺は嵯峨天皇の弘仁七年、僧空海勅命を蒙り、國司の力を藉り、此の山の曠野を艾りて建立したるものにして、堂塔輪奐、僧坊壯麗にして海内無雙と稱せらる。其の當初は千餘の僧坊あり、七里四方に跨りしといふ。今寺域二里半四方にして僧坊百三十餘あり。當山に登るもの或は山を越え、或は谷を亘りて、鬱蒼たる樹林の間を過ぎて此の殷賑なる一僧侶町に到達すべし。眞雅僧正（空海の弟）の當山の記に曰く、周匝せる連峰は法身の花台を表し、正平なる幽原は化佛の淨土に類す。惡獸毒蟲も斯に赴けば曾て害なし、煩惱即菩提の理觀すべし。深谷高峰も之を経れば亦嶮難なし、生死即寂靜の道察すべし。」と。

第六 中國地方

(一) 區分

一、教授の要旨

中國地方の位置及廣袤に關する概念を興へ、且つ行政上の區分を授けて、各縣廳所在地を知らしむるを以て要旨となす。

二、教授の準備

中國地方圖、日本全圖、中國地方行政區分圖。

三、教材の精査

中國地方は本州の西部に延長して大半島状をなし、近畿地方の西に連り、北は日本海に面し、南は瀬戸内海を隔て、四國島に相對し、西南端は早瀬海峡を挟みて九州島に相對す。東西の延長九十里にして、南北は最も廣き所にも約其の三分の一に過ぎず。面積二千四百七十七方里餘なり。行政上より分ちて五縣となす。岡山縣・廣島縣・山口縣・鳥根縣・鳥取縣にして、岡山(岡山縣)、廣島(廣島縣)、山口(山口縣)、松江(鳥根縣)、鳥取(鳥取縣)は各縣廳所在地にして、行政上の中心地なり。

四、教授上の注意

- 1、五縣の名稱及び各縣廳所在地を暗記せしむべし。
- 2、中國地方の略圖を描かしめて一層記憶を明確ならしむべし。
- 3、縣名はなるべく岡山・廣島・山口・鳥根・鳥取の順序に記憶せしむべし。

五、參考資料

- 1、中國地方の行政上の區分及び面積人口等左の如し。

縣名	縣廳所在地	管轄區域	面積 方里	人口 千人	一方里の密度 人
岡山縣	岡山市	備前・美作・備中	四二	一、三五	二、九〇
廣島縣	廣島市	安藝・備後	五三	一、六七	三、二〇
山口縣	山口市	周防・長門	三九	一、〇八	二、七〇

鳥根縣	松江市	出雲・石見・隱岐	四三	七五	一、七〇
鳥取縣	鳥取市	因幡・伯耆	二四	四九	二、〇〇
合計			一、九三	五、三六	二、六三〇

(二) 地勢

一、教授の要旨

中國地方は中國山脈稍北に偏して東西に走り、山陽・山陰の二斜面に分ち、地勢峻峻ならざれども一般に丘陵性をなして、高山なく、大河なく又大なる平野なきことを知らしめ次に日本海方面と瀬戸内海方面との海岸の状態、氣候の状態を授け、中國分水界が如何に氣候及び其の他人文上に影響を與ふるかを知らしむるを以て要旨とす。

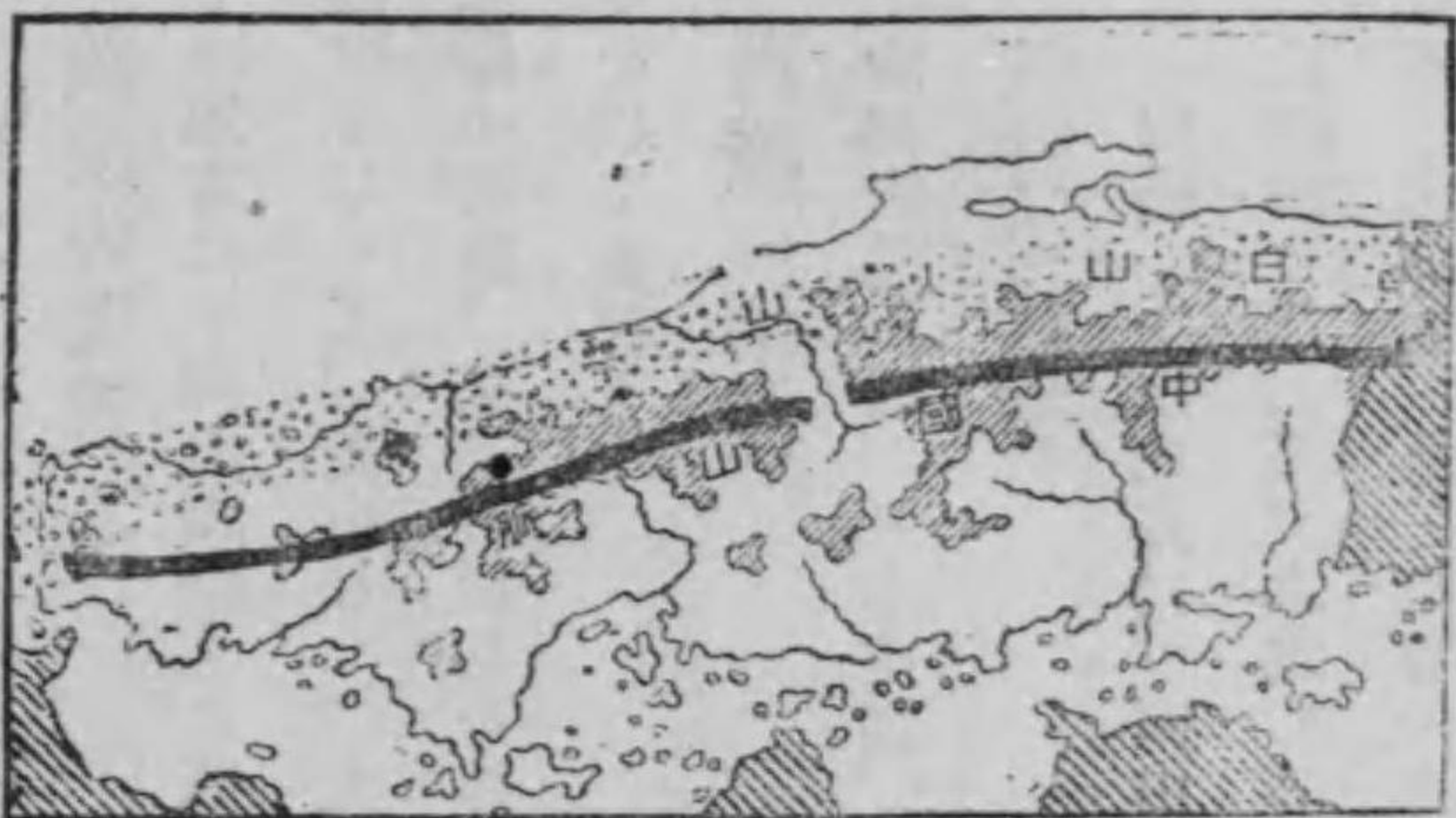
二、教授の準備

中國地方地形圖、日本全圖、瀬戸内海及び日本海岸の繪畫、南北雨量比較圖。

三、教材の精査

(一) 山脈 中國地方は中國山脈東西に走りて、飛驒山脈・赤石山脈の如く、特に顯著なる山脈をなさずして、丘陵性をなして、本地方の脊梁をなし、日本海方面及び瀬戸内海方面に分つ。又北部に中國山脈と並行して、大山を主峰とせる一火山脈を通ず。これ白山火山脈にして中部地方の白山より來りて、此の地方

中國地方勢圖



に内海を隔て、四國島を望む。西方の中海、安道湖及び出雲石見の境上に蟠踞する三瓶山の鋭頂を望むべく、眺望絶佳の山といふべし。(8)此の山は米子附近より眺むるよりは松江附近より望むを最も好しとす。(9)山麓は廣大なる裾野をなし、所謂大山ヶ原と稱し牛馬の牧畜盛なり。(10)大山村に軍馬育成所あり。

の北部を走るが故に數多の小火山噴出し、地勢一般に高峻ならざれども、山岳丘陵到る處に起伏して、高原性を帯び、従つて平野なし。

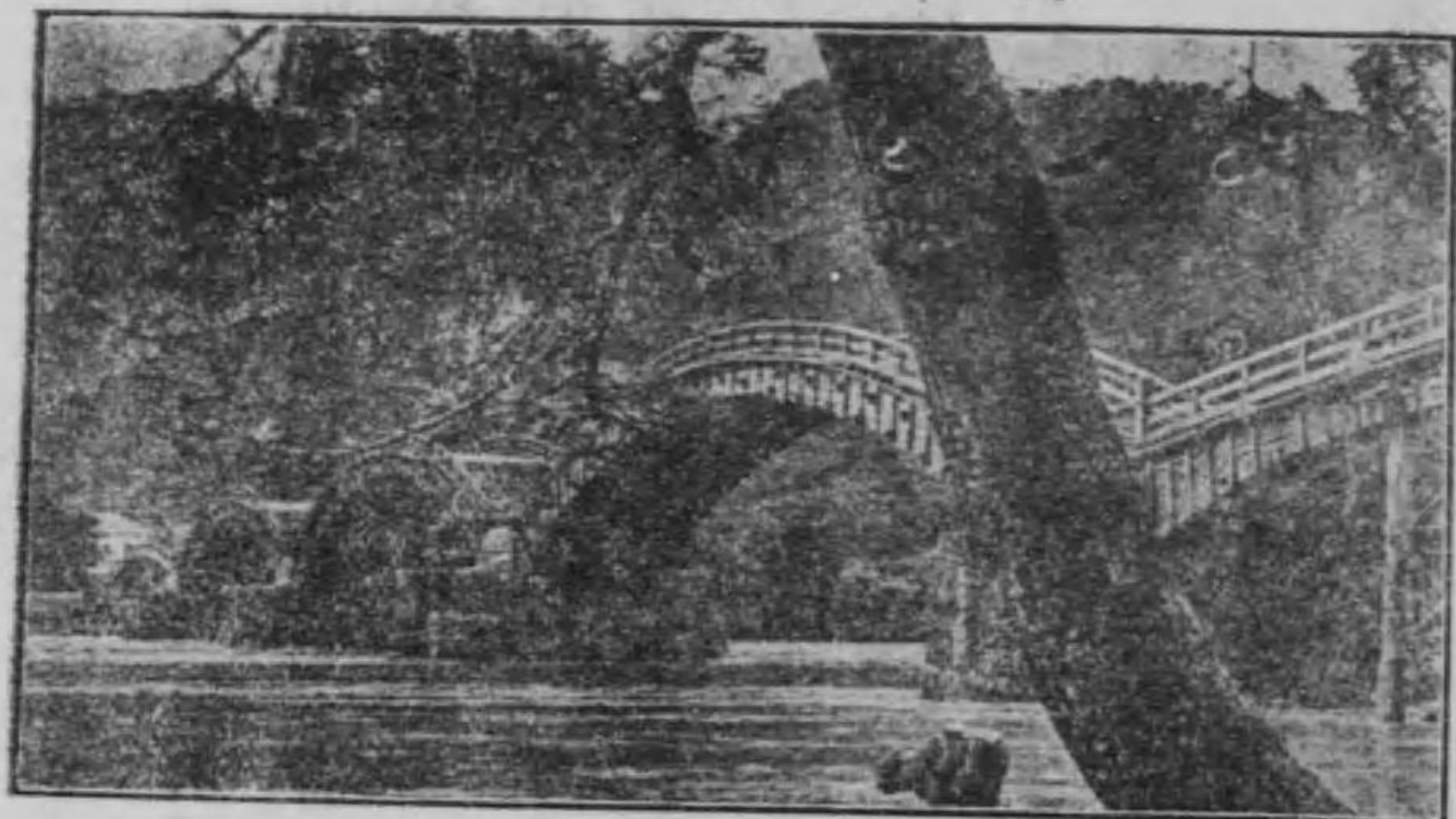
○挿繪の説明 米子の海岸より大山を望む (七十五頁)

- (1)圖は米子の海岸より白山火山脈の最高峰なる大山を望みたる光景なり。
- (2)前面の海は中海にして、對岸の人家ある所は米子の町なり。
- (3)圖の左方鬱蒼たる松林は公園なり(4)大山は白山火山脈の主峰にして、休火山なり。その形富士に似たるを以て出雲富士又は伯耆富士と稱す。伯耆國の西部にあり。
- (5)圖の中央の最高峰は即ち大山の最高峰にして、一に御山と稱せられ、中國第一の高峰にして、連嶺の山頂に七湖あり。
- (6)山腹には中國屈指の名刹たる大山寺あり、又國幣小社大山神社あり。
- (7)頂上は眺望頗る雄大にして、北に隱岐の島を望み、東は丹波附近の諸山を始め、白山方面を望み、南は中國山脈の諸峰並に内海を隔て、四國島を望む。

(二)河流 中國地方は狹長なる半島をなせる上に中國山脈・白山火山脈等ありて、高臺性をなせる地方なれば最大なる河流少なく、又何れも此の山脈に直交して兩斜面を流る。唯江の川遠く廣島縣に發して、中國山脈を横斷し、屈流して日本海に注ぐ。蓋し中國地方第一の大河なり。今兩斜面に注ぐ著名なるものを擧ぐれば左の如し。

- (イ)瀬戸内海方面 中國地方の主なる分水嶺北に偏するを以て、山陽方面は山陰方面に比して河流發達し。瀬戸内海方面の主なる河川左の如し。旭川は美作國高田川の末流にして、南流して兒島灣に入る。流程三十七里餘、河口より落合町に至る廿一里の間舟楫。灌溉の便あり。流域は米・藺等の産地をなす。太田川は安藝の北境に發して、廣島縣の西部地方を流れ、廣島市を過ぎて廣島灣に入る。流程三十里餘、下流舟楫の便あり。岩國川は一名錦川と稱し、源を石見國境に發し、東南流して布川を合せ、岩國を過ぎて廣島灣に入る。流程二十四里、河口より廣瀬村まで九里の間舟楫の便あり。岩國の錦見及び横山村との間に架せる橋を錦帶橋と稱して有名なり。
- (ロ)日本海方面 此の方面は瀬戸内海方面に比して地幅著しく狭

錦帶橋



く、従つて河流多くは短小にして、其の主なるものを擧ぐれば左の如し。江の川は中國第一の大河にして、廣島縣の東北山地に發して、三次盆地に集まる吉田川、櫃田川、門田川等の諸川を合せ、西北に流れて出羽川を入れ、北流して熊見川を合し、更に西南に流れて矢上川を入れて、島根縣を横斷し日本海に注ぐ。流程五十里、河口より三次町まで二十四里の間舟楫の便あり。其の他千代川・日野川・斐伊川等あれども皆短小にして、平地また少し。

(三) 平野 土地狭長なれば大なる平野なく、只狭小なる平野海岸地方及び此等の河流に沿ひて帶狀をなす。主なる平野は備前岡山の平野・備中玉島平野・備後の福山平野・廣島平野等なれども、何れも狭小なる平野にして、其の中にて稍大なるは岡山平野にして、山陽方面第一の平野なり。日本海方面には平野極めて少く、杵築の平野は山陰に於ける第一の大平野なり。

(四) 海岸 海岸の状態は日本海方面及び瀬戸内海方面によりて、甚だしく其の趣を異にす。

(イ) 瀬戸内海方面 内海は中國・四國兩山脈臺の陥落によりて成れるものにして、波浪の浸蝕に耐へたる陥落帯の残留若しくは斷片は數多の島嶼となりて散點し、或は半島を造る。即ち兒島半島・兒島灣・廣島灣を始め、幾多の長汀曲浦の間、白砂青松相映じて、瀬戸内海の景勝をなす。

(ロ) 日本海方面 日本海岸は海面廣濶、海岸線單純にして出入甚だ少く、唯中央に島根半島の突出して中海、宍道湖を擁する外著しき岬灣なく、只遙に北方海上に島前、島後並に之に附屬せる數多の小島嶼よ

りなれる隱岐諸島あり。

(五) 氣候 氣候亦日本海方面及び瀬戸内海によりて其の趣を異にす。瀬戸内海は四周山嶺に圍繞せられ、日本海より送られたる水蒸氣は中國山脈によりて遮られ、太平洋方面より來れる水蒸氣は四國山脈によりて遮られ、僅かに内海面より發散する水蒸氣の凝結するに過ぎざるを以て、本州他の海岸地方に比して雨雪の量極めて少く、氣候溫和にして晴天多きこと他地方に見ること少く、風力も亦強からず。日本海方面は瀬戸内海の快晴なるに反し、中部地方の北部と同じく、大陸の影響を蒙ること多く、且つ對島暖流其の沿岸を洗ふを以て、常に大氣を濕潤ならしめ、而して中國山脈の海面に凝結せしむるにより、比較的雨雪の量多く、殊に冬季陰鬱にして快晴の日少く、西北風吹き荒びて海上波浪激し。瀬戸内海方面は日本海方面とは以上の如く、地勢、氣候等種々の點に於て自然の恩恵を蒙ること多きが故に、人文上にも大なる影響を及ぼし、農業・工業・商業等の産業も進み、海陸の交通も便利にして、都邑・良港の發達著しく、廣島、岡山の如き繁盛なる都會あり、又船舶の出入繁き良港少からず。日本海方面は瀬戸内海方面の如く、種々の産業、交通等便利ならずといへども、鐵道全通し、又對岸の朝鮮、西比利亞等の發展と共に大に發達し大に面目を改むるに至るべし。

四、教授上の注意

1、尋讀卷十一 五課瀬戸内海を參照すべし。

- 2、兒島半島及び島根半島の成因につきて知らしむべし。
- 3、中國地方は自然上人文上より表裏日本の異同を比較するに最好適地なれば、山陽・山陰の地勢を比較して教授し、兩地方の人文上の差異ある所以を知らしむべし。

山 陰 方 面

山 陽 方 面

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1、南に山を負ひ北方日本海に面す。 2、河流概ね北流す。 3、海岸の出入少く、半島、島嶼亦少し。 4、良港少し。 5、冬季日本海上風波荒くして、船舶の交通絶ゆることあり。 6、平野少く、農産物豊ならず。 7、雨量多くして、製鹽業に適せず。 8、人文上の發達遅し。 | <ul style="list-style-type: none"> 1、北は山を負ひ南方内海に面す。 2、河川總べて南流す。 3、海岸の出入多く、半島、島嶼多し。 4、良港多し。 5、内海波浪穏にして、船舶の交通絶ゆることなし。 6、平野多く、農産物に富む。 7、雨量少くして、製鹽業に適す。 8、人文上の發達早し。 |
|--|---|
- 4、瀬戸内海沿岸の雨量少なきと、日本海岸の雨雪の量多くして、冬季波浪激しき理由を地勢と關係的に之を説明すべし。

- 5、瀬戸内海の成因につきて知らしめ、且つ風景の絶佳なることを知らしむべし。
- 6、瀬戸内海が山陽方面に及ぼす影響につきて推考せしむべし。

五、參考資料

- 1、大山(一八七七米) 鳥取縣の西部にあり、白山火山脈に屬する休火山にして、本州中部の火山に比して高山ならずと雖、海岸の低地に聳立する火山なるを以て、山姿雄秀、中國第一の名山たるを共と中國第一の高山たり。
- 2、瀬戸内海 瀬戸内海は明石の瀬戸に起り、其の以西を以て内と唱へたり。故に明石瀬戸以西を稱すべきも、今は其の東方大阪灣をも包みて稱す。即ち畿内・中國・四國・九州との間に包まれ、東南は紀淡海峽・鳴戸海峽を以て、西は豊豫海峽・下關海峽を以て共に外海と接す。内海は東西二百四十哩にして南北最廣佐賀國徳山間約四十五哩に最狭は明石瀬戸の二哩八、全海岸線の延長七百哩に及ぶといふ。瀬戸内海は所謂斷層の絶大なるものにして、即ち大地裂罅間の深く陷落せし一地帯にして、地理學上之を地溝帯と稱す。之れ小豆島及び屋島、五列山等に於て、第三紀の地層に屬する安山岩質變岩の花崗岩上にありて、殆ど一地平面をなすを以て、其の當時陸地の接續せる地盤なりしを證すべし。沿岸は砂白く、松青く、無數の島嶼散點し、島上にも亦翠松の鬱蒼たるあり、又奇巖の突兀たるあり、海上の眺望頗る佳にして、中にも須磨・明石・舞子・高砂等は相擁して天下の絶景たり。

3、島根半島 島根縣の北方日本海岸に西より東に向ひ突出せる半島にして、もとは一の島なりしが、斐伊川、神門川の沈滓物漸次其の一方を填塞して半島をなしたるものなり。備前の兒島半島亦同じ。

4、隱岐 隱岐諸島は出雲の北方日本海中にあり。境港を距ること五十二哩、一群の火山島にして西島・知夫里島・中島・大島の四島より成り、西島・知夫島・中島を島前といひ、大島を島後といふ。面積約二十二方里、島根縣の管轄に屬す。島前は殆ど火山岩より成り、火山島たるを證すべく、島後は水成岩の片麻岩及び第三紀層を基礎とすれども、多少火山岩の噴出あり。

中の島周圍	十六里二十一町	東西一里三十町	南北一里二十四町
西の島周圍	二十里二十六町	東西三里二十町	南北二里餘
知夫利島周圍	六里三十一町	面積六方哩八	
大島周圍	三十里十八町	東西四里二十町	南北四里三十四町

島に歴史的事蹟あり、西の島黒木村大字別府の東部に後醍醐天皇の行在所址あり、所謂黒木御所址といふ。今別府村の海岸東方崛起せる小丘陵に遺跡を表彰せんとて祠堂を作り、黒木神社といふ。又中の島には後鳥羽院の行在所の遺址あり。海士村荻田山に隱岐神社あり、御鳥羽院の御陵廟なり。

(三) 産業

一、教授の要旨

中國地方は地勢上山地は鑛業・牧畜業盛にして、諸川の流域地方は農業、沿海地方は水産業行はれ、特に瀬戸内海沿岸は製鹽業盛なることを知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

中國地方圖、中國地方の牧場、鹽田、隱岐のいか釣、瀬戸内海及び日本海岸等の繪畫・花菱・真田・陶器・織物等の實物若しくは標本、牛鹽等の産額比較表。

三、教材の精査

(一) 總説 中國地方は既に述べたる如く、日本海方面と瀬戸内海方面とによりて地勢・氣候等に差異あれば、其の産業も異なり。日本海方面の主なる産業は農業なれども、米の外著しき産額に達するものなく、而も其の産額瀬戸内海方面に及ばず。牧畜は大山の裾野を初めとして他の原野にもよく行はれ、牛の飼養を主とす。

瀬戸内海方面は種々の便宜あるが故に是等の産業の盛なる上に製鹽業及び商工業の盛なる所多し。

(二) 農業、牧畜 中部地方は氣候比較的溫和にして、農業に適すと雖も、地勢上平野の大なるものなければ沿海の各地に散在せる小平野及び山間河谷に展開する小平野を開拓し、水利を計り、大に耕耘に意を用ふるにより、耕地面積割合に多く、種々の農産物に富みて、産額亦多し。殊に米は各地に於て産し、農産

物中の重要なものにして、年産額六百萬石にして、平野の多き瀬戸内海方面の岡山縣及び山口縣に多量に産し、殊に岡山縣は百八十萬石を産し我が國第七位に在り。麥は年産額二百五十萬石に比して、甚だ少なけれども米に次ぎて重要な農産物なり。又廣島縣の麻、鳥取縣の實綿は本邦屈指の産地として知らる。

縣名	米(五年)		麥(六年)		實棉	
	石	石	石	石	石	石
岡山縣	一、八三九、四五七	八七八、二〇〇	一六、三〇〇			
山口縣	一、四四五、六四五	七〇六、〇四三	六、一五七			
廣島縣	一、五二四、三二六	七〇六、〇三三	一〇三、八三三			
鳥根縣	一、〇五五、六五三	三三五、一六九	一三、三〇〇			
鳥取縣	七六六、一九七	三三九、一八九	一一六、八五四			
合計	六、五三一、二七七		二五六、四六四			

東北地方は牧馬に適し、中國地方は牧牛に適し、殊に廣島、岡山の二縣は原野多き山地を多く占有するが故に、此の二縣の頭数は全國各府縣に冠絶し、廣島縣九萬七千六百餘頭を産し、岡山縣之に次ぎて九萬五百餘頭を産す。一般に中國山脈の起伏する所は牛の飼養盛にして、本邦第一の牛産地たり。鳥取縣の大山の裾野なる大山ヶ原には牧馬行はる。中國地方は廣大なる高原廣く分布して牧畜に適し、九州地方と共

牛	中國計	九州計
廣島	九七	九七
岡山	九〇	九〇
兵庫	八六	八六
大分	七四	七四
鳥根	七三	七三
鹿兒	七二	七二
長崎	七二	七二
山口	六四	六四
熊本	六二	六二
鳥取	四八	四八



に牛の飼養盛にして、其の頭數四十萬以上に達し、殊に廣島・岡山の二縣は前述の如く主要産地なり。府縣別頭數左の如し。

縣名	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
岡山縣	三、千四	九、千三	九、千四	九、千〇
廣島縣	一〇〇	九	九	九七
山口縣	六	六	六	六
鳥根縣	七	七	七	七
鳥取縣	五	五	五	四
合計	三、九	三、九	三、八	三、七
兵庫縣	八七	八七	八八	八六
長崎縣	七	七	七	七
熊本縣	六	六	六	六
鹿兒島縣	六	六	六	七
大分縣	一	一	七	七
全國計	一	一	一	一、三、四

(三)水産業 沿海地方の住民は多く漁業に従事し、遠く朝鮮近海又は日本海方面に遠洋漁業を企つるもの少なからず。是等の地方に出漁するものは山口・廣島二縣の住民最多く、山口縣の漁獲高、年四百六十萬圓にして、廣島縣は之れに次げども其の半に達せず。水産物中産額の最多きは山口縣の鯛にして、年百萬圓を産し、島根縣の鰯及び廣島縣の牡蠣等も亦其の名著はる。

○挿繪の説明 隱岐のいか釣船 (七十七頁)

(1)圖に見ゆる數多の船は日本海方面の一大漁港なる隱岐の西郷港よりいか釣船の出動する光景にして、如何に盛なるかを知るべし。(2)左右に見ゆる山は港の口を擁せる半島の一部なり。(3)いか釣の漁場は陸より一里乃至數里の沖合にして、漁夫はこゝに投錨して漁獲をなす。(4)左方の民家に擔を掩ひて、高き垣の如きものあるは鰯を吊して乾燥せるものなり。(5)漁獲多き時は漁家はすべて鰯の垣に包圍せらるゝの奇觀を呈すといふ。(6)漁具はフタマタ、ハジキ、ソブキ等を用ふといふ。

瀬戸内海の沿岸は砂濱連り、且晴天多きを以て、對岸なる四國の海濱と共に製鹽業に適し、我が國に於ける食鹽の主産地なり。此の地方四國の連嶺濕風を遮さり、大氣乾燥して、雨量少く、又沿岸傾斜極めて緩く、所謂遠淺にして潮

瀬戸内海の製鹽地



汐干満の差著しき等製鹽上頗る便なり。

製鹽業の最盛なるは三田尻の附近、兒島半島等にして夙に十州鹽田の名高し。

中國地方は廣大なる鹽田各地に開け、斯業極めて盛にして、就中山口縣の三田尻、廣島縣の松永、岡山縣の味野附近其の中心をなす。

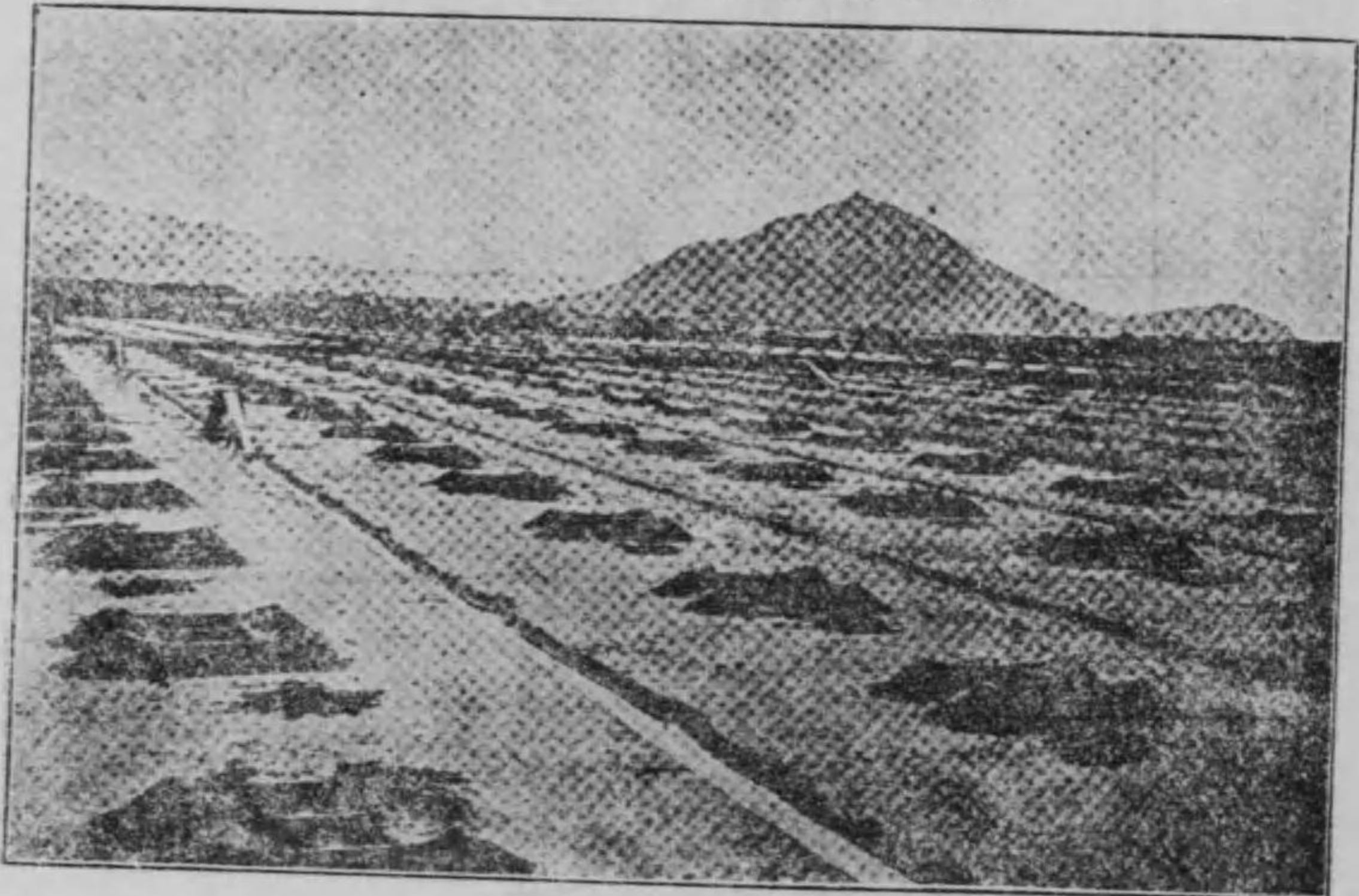
中國地方の製鹽高左の如し。

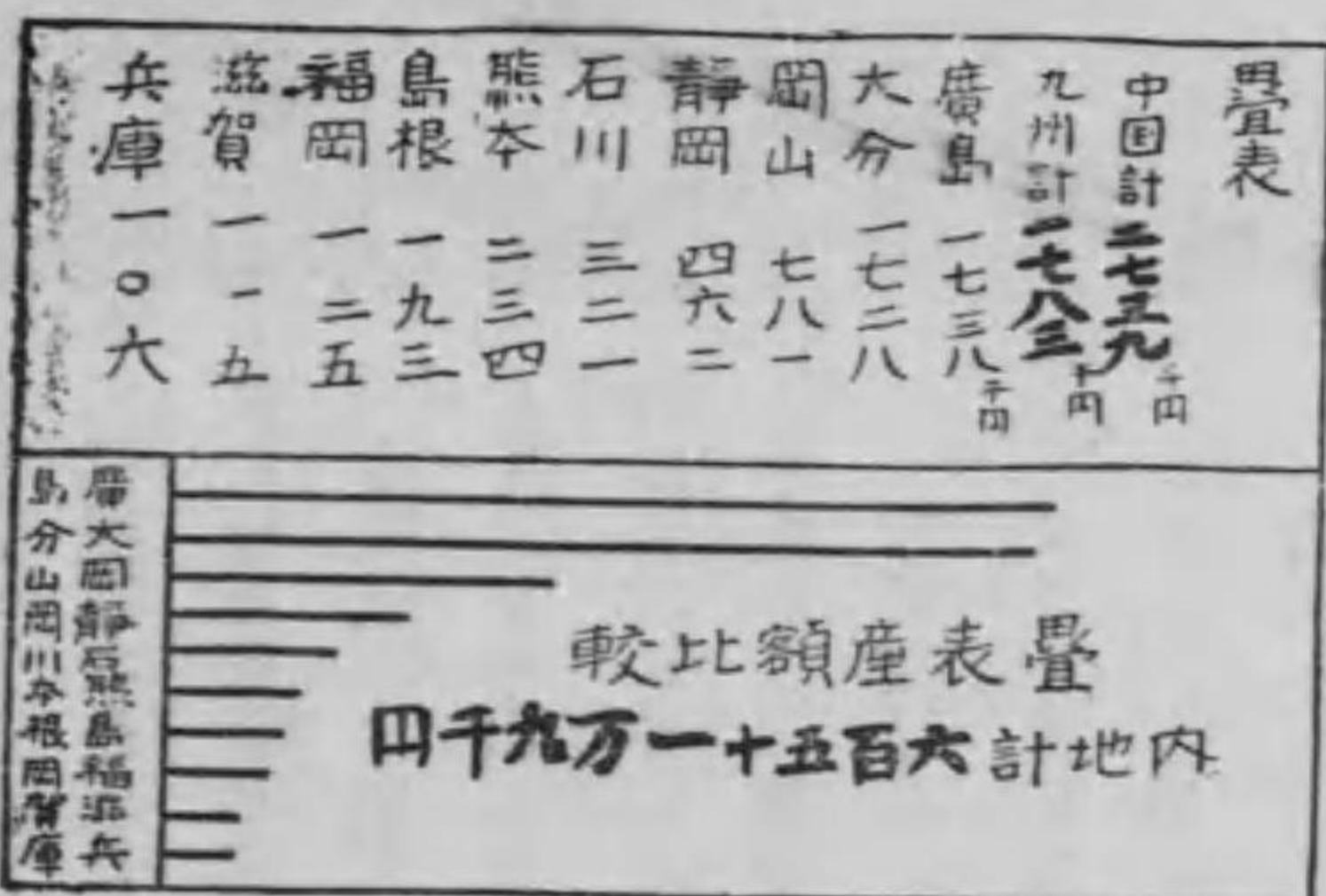
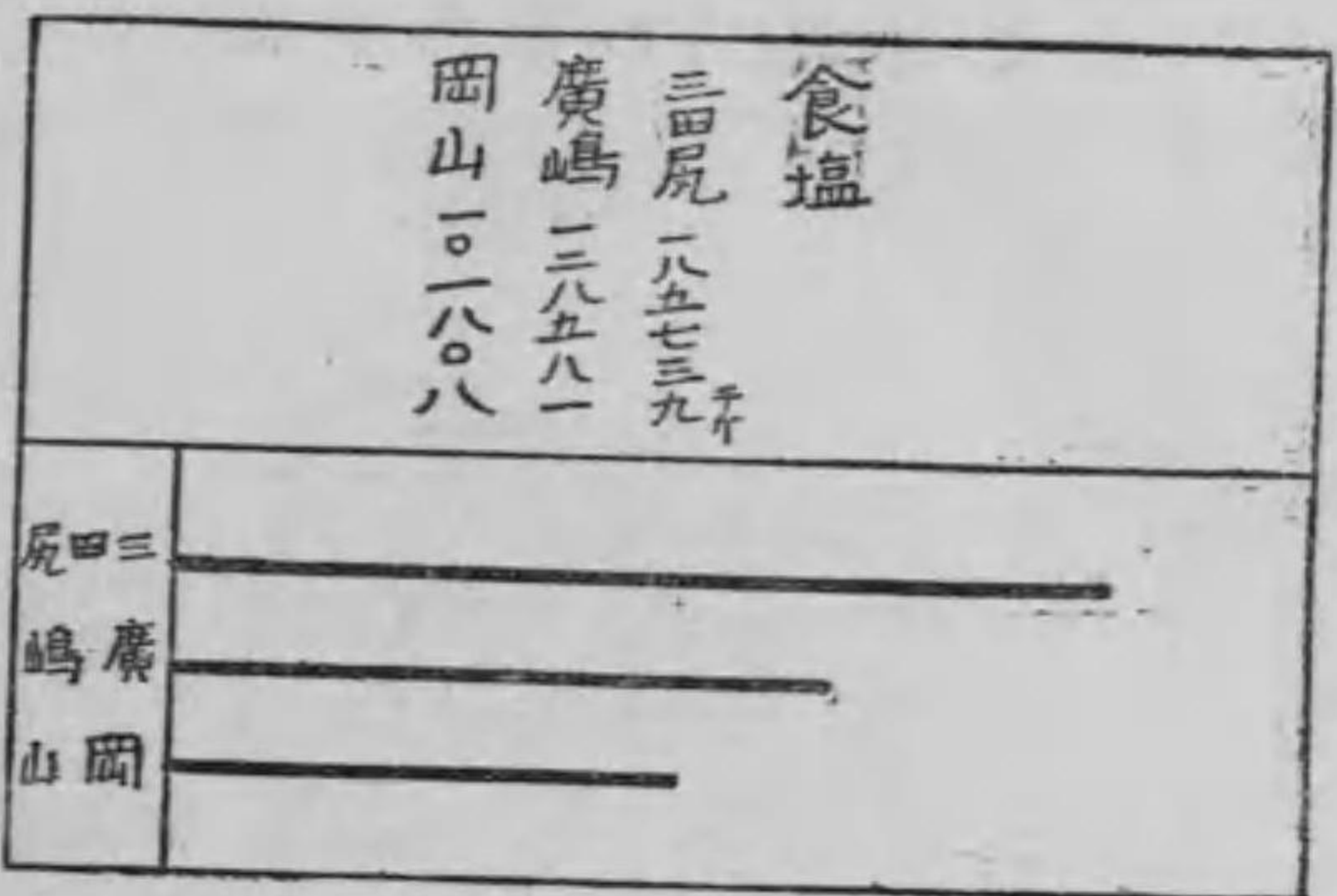
專賣支局名	大正三年	大正四年	大正五年
三田尻	一七三、九二〇	一七七、八一五	一八五、七三三
廣島	一三五、二一九	二二、七六六	一三六、五八一
岡山	九四、三八〇	九一、一三四	一〇一、八〇〇
合計	三九三、四一九	三八〇、七三五	四一六、二二八

我が國に要する食鹽の大部分は瀬戸内海の沿岸より供給せらるゝなり。

(四)工業及鑛業 瀬戸内海沿岸の各地には工業盛に行

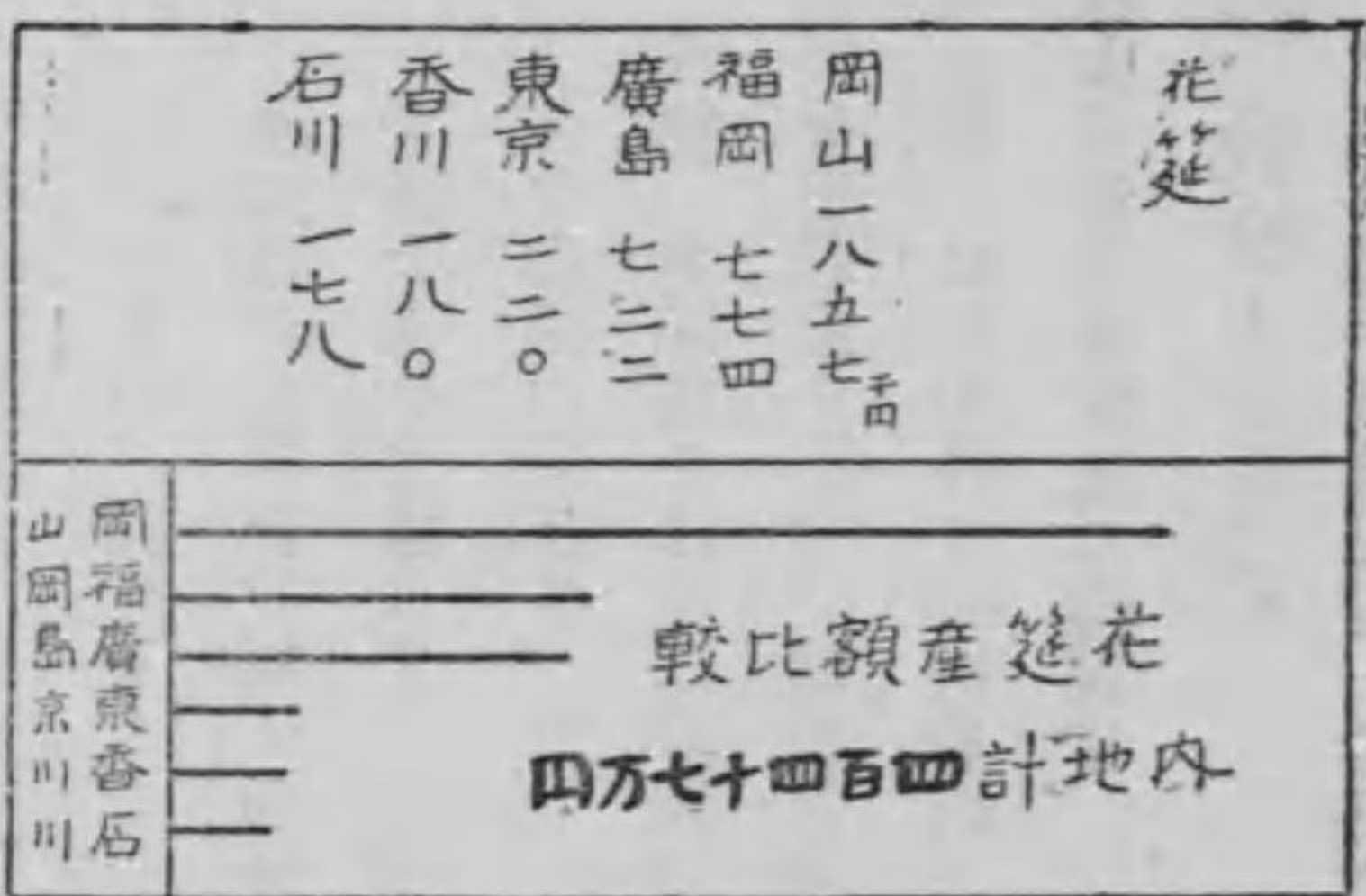
瀬戸内海の三田尻鹽田





はれ、綿絲・綿織物・疊表・花苳等の産出あり。就中絲紡績・綿織物の盛なるは岡山廣島の二縣にして、岡山縣に十個の工場あり、廣島縣四個の工場を有す。紡績業地本邦屈指なり。

綿織物 は頗る盛にして岡山縣の一千餘萬圓は全國七位に在り。廣島縣之に次げども、其の産額三百八十餘萬圓に過ぎず。岡山縣の雲齋織、廣島縣の備後紵、山口縣の岩國縮、鳥取縣の伯川木綿名あり。疊表 の産出多く、廣島・岡山の二縣にて全國總産額六百五十萬圓の約四割に達し、所謂備後表な



るものは中國地方より産する全部にして、備後の南部なる御調、沼隈二郡は其の主産地なり。廣島縣の年産額百七十三萬圓にして、岡山縣之につき七十八萬圓に及ぶ。花苳 も岡山・廣島二縣最盛にして、岡山縣の百八十五萬圓、廣島縣の七十二萬圓を合する時は全國總産額四百四十七萬圓餘に對し、五割七分以上に當る。

左に岡山・廣島二縣の産額を比較せば左の如し。

縣	名稱	種類	大正三年	大正四年	大正五年
岡山縣	花苳	疊	一、六四一	一、二二五	一、八五七
		計	二、三四〇	一、七七一	二、六三八
廣島縣	花苳	疊	一、四五四	一、五〇六	一、七三八
		計	一、八八五	二、〇一四	二、五八〇

◎挿繪の説明 岡山附近に於ける花苳の荷造り (七十八頁)

(1)圖は岡山附近なる製苳所の一部にて、内國向の莢産、花苳を荷造

するの状を示したる光景なり。(2)花筵を開き居るは輸出花筵の品質、瑕等を検査せるなり。(3)花筵を取出すもの、菰に巻くもの、巻きたる上に荒繩をかけるもの、衡器にて目方を計るもの等あり。(4)花筵は經絲に綿絲、横に蘭草を織り込みたるものにして、主に敷物に用ふ。(5)外國向のものは幅一碼・長さ四十碼を普通とす。近年輸出額稍々減退せるの觀あれども尙重要輸出品の一たり。主として亞利加合衆國に輸出す。

鑛業 中部地方は花崗岩地方なれば建築用材を出す點に於て重要なると共に、岡山縣・島根縣等の如き數多の金屬鑛山を有す。岡山縣帶江鑛山の如きは嶄然頭角を露はして、銅の産出多きこと本邦第五位に在り。岡山縣には此の外に吉岡鑛山ありて、銅の産出甚だ多し。其他山口の西方に大嶺炭山あり、其の採炭は徳山の海軍煉炭所に輸送す。

四、教授上の注意

- 1、中國地方の牧畜業と奥羽地方の牧畜業とを比較し、本地方の山地が牧畜に好適なることを知らしむべし。
- 2、沿海地方の住民の遠海漁業の發展せる理由につきて知らしむべし。
- 3、瀬戸内海沿岸の製鹽業の盛なる理由を了解せしむべし。
- イ瀬戸内海沿岸は降雨少くして、鹽分を多少濃厚ならしむること、作業に便なること、蒸發盛なること。

と。

ロ沿岸傾斜緩にして、潮汐干満の差著しく海水を引入れるに便にして、鹽田を作るに便なること。
ハ地質との關係上花崗岩質なるを以て、海水濾過に便なると、水分を包含すること少く水分蒸發して鹽分の附着に便なること。

- 4、疊表、花筵等につきて教授し、其原料と加工の如何によりて價値の相違なる理を知らしめ、物産改良の必要を悟らしむべし。
- 5、産業上に於ける岡山縣を知らしむべし。
- 6、中國地方の産業と近畿地方の産業とを比較せしむべし。
- 7、中國地方の南北の産業を比較せしむるも可なり。

五、參考資料

- 1、中國地方の牧畜 中國地方は牧牛盛に行はれ、各縣何れも縣營の種畜場あり、牛種改良、蕃殖等の研究をなすと雖、廣島縣は本地方の諸縣を歴して、其の成績最も著し、即ち比婆、雙三、神石等の諸郡は其の中心地にして、三次町を距る三里、比婆郡山内東村には七塚原種、現に中國支部と稱し、農商務省畜産試験場所管なり。

牧場の面積七百餘町歩、場内牧草繁茂し、米國式大農法によりて之を經營す。

2、**廣島縣の罐詰** 廣島縣は我が國第一の罐詰の産地にして、日清日露の戦役に際して勃興し、殊に日露戦後に於て最盛にして、三十七年の如きは二百餘萬圓に上れり。其の後戦役の結局と共に一時衰へたりしが、近年再び盛況を見るに至る。其の總産額百四十七萬圓にして、其中百二十五萬圓は牛肉罐詰なり。全國牛肉罐詰總價格百四十八萬圓に對し、實に八割餘の多額を占む。

3、**島根縣隱岐の鰯** 隱岐の鰯は中國地方の名高き産物の一にして、附近に接息する烏賊を釣りて之より製し、かくて西郷港より境港に送り、此處より更に神戸・大阪等に輸送せられ、内地或は海外に移送せらる。

隱岐の鰯の乾燥



4、**廣島灣の牡蠣** 廣島灣は牡蠣の養殖盛にして、年額十三萬圓以上に達し、佐賀の十九萬圓に次ぎて其の名夙に著はる。其の始めは淺野侯和歌山より此の地に封ぜらるや、和歌山の牡蠣を移植したりしが潮流及び河川等の關係により、よく其の繁殖に適したれば、かゝる盛況を見るに至る。養殖場の區域三百町歩、初夏六七月の頃、雄雌の牡蠣は卵精を排出して、海中に浮遊せる時潮流のため

に相合して受精す。

5、**十州鹽田** 瀬戸内海の沿岸は古來製鹽地として知られ、十州鹽田の名夙に著はる。十州鹽田とは瀬戸内海に臨める十ヶ國の鹽田にして、播州・三備・藝州・長州・讃州・阿州・紀州・豫州を稱す。沿岸は砂濱連り、傾斜極めて緩く、潮汐干満の差大なると、四國、中國の連嶺、濕風を遮りて晴天多く、有名なる寒雨地なるを以て製鹽上頗る便宜なり。

6、**食鹽の製法** 食鹽の製法に二種あり一を天日法といひ、他を入濱法といふ。臺灣・朝鮮・關東州等に行はるる方法は前者にして、瀬戸内海沿岸に行はるゝは後者に屬す。即ち普通鹽田は砂濱に設け、四周を劃して海水の侵入を遮斷し、別に水門を設け、満潮に際して之を開き、自由に海水を導きて鹽田中の溝に通ぜしめ、此の海水を田面砂の上に撒らして水分を蒸發せしむ。斯くして水分蒸發して鹽分の附着せる細砂を爬き起して、日光に曝露し、水分の蒸散を助け、鹽分の充分に細砂に附着したる後、此の鹽田の細砂をかき集めて濾過器に入れ、其の上より海水を注ぎて濃厚なる鹹水を流出せしめ、之を器に受け、更に平かなる蒸發釜に移して、石炭にて煎熬し、鹽を結晶せしむ。かくして成りたる鹽は苦汁を含むを以て苦汁を滴下せしめて食鹽を造る。

7、**中國地方の主なる綿絲紡績會社及び其の工場**

會社	工場	所在地	錘數
○鐘淵紡績株式會社	備前	岡山市字下石井	四三、八八四 _本
	西大寺	岡山市字花畑	一四、八九三
	倉敷	岡山縣上道郡西大寺町	一〇、六三四
	萬壽	岡山縣都窪郡倉敷町	三〇、二七三
○倉敷紡績株式會社	玉島	岡山縣都窪郡萬壽村	二九、九五三
		岡山縣淺郡玉島町	二八、七六〇
○山陽紡績株式會社	本社	岡山縣兒島郡味野町	二〇、一四四
○福島紡績株式會社	福山	廣島縣深安郡福山町	三三、〇七三
	笠岡	岡山縣小田郡笠岡町	一四、三五三
○大阪合同紡績株式會社	廣島	廣島市蟹屋町	一八、八二六
	能美	廣島縣佐伯郡大柿村	一六、八九六

8、花筵の製法 花筵の原料は疊表の原料と同じく、水草の一種にして蘭草料に屬する備後蘭にして、粗口、細口の二種ありて、粗口は疊表に細口は主として、花筵となる。

一月頃水田に植え夏季に刈取り二三日間乾燥して花筵の原料となす。花筵は木綿絲を經とし、蘭を緯と

して織ること通常の機の如く機械を以て織り、白地にして模様なけれども、之に山水花鳥風月等の模様を彫刻せる型紙を置きて、其の上を刷毛にて色摺をなす。又染めたる蘭草を用ひて織りたるものあり。我が國に於ける花筵は廣島縣都窪郡帶江新村の人、磯崎眠龜氏によつて發明せられたるものにして、氏は錦莖筵と稱し、品質精巧意匠温雅なるものを作り、明治十四年内國勸業博覽會に出品して褒賞を受けたるに始まる、遂に英國・米國と販路次第に擴張し、今や輸出品中の重要品として數へらるゝに至る。

9、鑛山

鑛山名	所在地	經營者	鑛
帶江鑛山	岡山縣の南部	合名會社藤田組	銅・金・銀三百八十一萬六千圓
吉岡鑛山	岡山縣の西部	三菱合資會社	銅

(四) 交通

一、教授の要旨

本州鐵道の幹線の一部をなせる山陽線及び山陰線其の他の支線と交通の狀況を知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

日本交通圖、中部地方交通圖、中國地圖、挿繪の擴大圖等。

三、教材の精査

(一)瀬戸内海方面の交通

中國地方は中國山脈東西に走れるを以て、南北の交通十分ならずと雖、瀬戸

内海方面は本州と四國・九州・朝鮮等に至る交通線路の要衝なるを以て、鐵道山陰線東西に通じ、東方は本州鐵道幹線をなせる東海道線に連り、西は下關に終り、それよりは對岸な九州門司又は朝鮮の釜山に至る鐵道連絡あり、水陸の交通頗る便なり。

1、鐵道 瀬戸内海沿岸に通ずる鐵道左の如し。

宇野線	岡山—宇野間	二〇・二
高砂浦線	高砂浦—西脇間	二五・三
粟生線	粟生—北條町間	八・五
厄神線	厄神—三木間	五・一
吳線	吳—廣島間	二二・四
宇品線	廣島—宇品間	三・七
神戶線	神戶—下關間	三二・九
中國線	湛井—岡山—津山間	四八・八
山陽線	神戶—下關間	三二・九
播州線	高砂浦—西脇間	二五・三
吳線	吳—廣島間	二二・四
宇品線	廣島—宇品間	三・七

中國地方交通圖



大嶺線	厚狹—大嶺間	一一・三
山口線	小野—篠田間	一八・〇
藝備線	東廣島—三次間	四・五
長州線	東下關—小串間	一六・三

○挿繪の説明 下關海峡にて貨車を運べる船 (七十九頁)

(1)圖は下關海峡にて九州方面の大里より下關停車場に向つて進行しつゝある貨車運送船なり。(2)下關と大里との間約十哩此の間十五分にして達す。(3)運送船は長さ約七十尺にして軌條を有し、貨車三臺を移送することを得。(4)貨車に積みたる荷物の積みおろしの時間及び勢力を節約せんがため、特別構造の船(即ち前記の如き)を作り之に貨車を乗せ汽船にて曳きて輸送す。(5)此の設備によりて九州方面の米穀其他貨物も、容易に迅速に本州本島に輸送せらるに至る。

山陽線は東海道線・東北線と共に本州を縦貫し、本州鐵道幹線をなすものにして、更に下關・九州の門司に至る連絡船によりて、鹿兒島線に連絡し、又下關・釜山連絡船によりて朝鮮の京釜線に連絡す。下關より朝鮮釜山まで百五十哩、十一時間にして達す。山陽線の支線なる宇野線の終點なる宇品は、對岸なる四國の高松との間に鐵道連絡船の往來ありて、九哩僅に一時十分にして、本州より四國島に到達するを得べし。瀬戸内海は東は近畿、南は四國、西は九州を控ふるを以て貨物の運輸、旅客の出入多く、且つ海上波濤に

して船舶の往來頻繁なること全國に冠たり。航路は外國航路及び沿海航路にして、前者は主として神戸より發し、後者は主として大阪を起點とす。大阪を起點とする沿海航路左の如し。

山陽線	中國廻	大阪	門司間	毎日一回出帆
山陰線		大阪	安來間	毎月十回出帆
四國線		大阪	宿毛間	毎日一回出帆
内海線		大阪	内海間	毎日一回出帆
細島線		大阪	細島間	毎日一回出帆
別府線		大阪	別府間	毎隔日一回出帆
宇品高濱線		宇品	高濱間	毎日三回出帆

又別に尾の道——多度津間、尾の道——今治間、宇野——高松間等の中國と四國との連絡線ありて、航通至便なり。

(二)日本海方面の交通 日本海方面には京都より來れる山陰線大に延長したれども、未だ山陰方面全部を一貫するに至らず、支線も少くして、陸上の交通、瀬戸内海方面に比して、及ばざること遠し。日本海方面の主なる鐵道左の如し。

山陰本線	京都	仁万間	二六七・五哩分
------	----	-----	---------

大社線	出雲今市	大社間	四・七
境線	米子	境間	二・二

山陰線は京都市より起り、福知山を経て、和田山にて播但線と合し、それより北行城崎に至り、更に西走して日本海岸を通じ、鳥取の米子に出で、境線を分ち、杉江を経て、出雲今市にて大社線と分ち仁万に達す。二六七哩五分あり。更に延長して山陽線と合せんとす。日本海岸は出入少く、且つ冬季波濤荒くして航通不便なれば、瀬戸内海方面に比して交通まだ盛ならず。

四、教授上の注意

- 1、瀬戸内海方面及び日本海方面の交通の發達につきて比較せしむべし。
- 2、交通の便否は都市の發展と否とによりて差異あることを知らしむべし。
- 3、山陰方面の文化が山陰方面に比して後れたる理を知らしめ、地勢・氣候と交通との關係をも知らしむべし。

4、本州鐵道幹線につきて授け、且つ其の延長一一六二哩六等を知らしむべし。

青森	東北線	東京	東海道線	神戸	山陽線	下關
	四五六・九		三七六・四		三二九・三	

5、交通の教授につきては旅行案内を參照し、常に鐵道の延長、汽船の航路等に注意して教授すること肝

要なり。

五、參考資料

鐵道

山陽線	神戸 <small>八九</small> —岡山 <small>四九</small> —尾道 <small>四八</small> —海田市 <small>四</small> —廣島 <small>一四</small> —宮島 <small>八三</small> —小郡 <small>四四</small> —下關
	岡山 <small>二〇</small> —宇野—海田市 <small>二三</small> —吳—小郡 <small>八</small> —山口
	京都 <small>一四四</small> —鳥取 <small>五八</small> —米子 <small>一八</small> —松江 <small>一〇</small> —今市
山陰線	米子—下境—今市 <small>五</small> —大社
	岡山 <small>三五</small> —津山—廣島 <small>四三</small> —三次

(五) 都 邑

一、教授の要旨

中國地方の主なる都邑につきて其の發達及び其の狀況を知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

中國地方圖、中部地方の都邑の寫眞繪葉書、挿繪の擴大圖等。

三、教材の精査

(一) 岡山縣

- 1、岡山市(人口八萬七千) 旭川の下流に跨りて、岡山平野及び兒島半島等の中心都邑なるが上に、綿工業、花筵製造等の工業地をもなせるを以て、商業大に發達し、交通の便に富み、中國地方第三の大都會たり。此の地は第十七師團、岡山縣廳等の所在地にして、又第六高等學校、醫學專門學校等あり。市の東北部には日本三公園の一なる後樂園あり、旭川を隔て、岡山城に對し、泉石の雅趣あるを以て著はる。
- 2、津山町(人口一萬七千) 旭川の上流、美作の中心として津山盆地に在り、附近物産の集散地として、且つ山陰街道の要衝にして中國鐵道開通せられてより市況一層發賑を極め北部山間の中心都會をなせり。附近に院の庄の古蹟あり。

(二) 廣島縣

- 3、尾道市(人口三萬一千) 南面に向島を控へ、水深く波穩にして、船舶の出入に適し、多度津・今治等へ鐵道連絡船あり。水陸の交通至便にして、瀬戸内海廻船の中心地なり。又備後表、花筵等の集散地として其の取引盛にして、廣島縣東部に於ける移出牛も此の地より神戸に移出さるゝもの少からず。此の地風景よく、大寶山に登れば瀬戸内海の風光は一眸の間にあつまる。
- 4、廣島市(人口十六萬七千) 太田川の三角洲上に立ち、東京を距ること二百三十餘里、鐵路五百六十六哩、二十三時にして達すべく、中國第一の大都會にして、又本邦第七の都會たり。市内に廣島縣廳・控訴院・廣島高等師範學校・第五師團あり、明治二十七八年の戰役に際し大本營の地たりし所なり。廣島市の

發達せる原因左の如し。

- 1、太田川吐口の三角洲上に築かれしこと。
- 2、瀬戸内海に臨み、宇品港によりて四方に通じ交通頗る便利なること。
- 3、古來京阪九州との中繼所となりたること。
- 4、毛利輝元の居城地たりしを以て、政治の中心地たりしこと。
- 5、軍事上の要地たりしこと。
- 6、宇品は本市の附屬港にして、明治二十七八年及び三十七八年戰役に際し、兵員輸送港として大なる功績あり、市の發達の一原因をなす。

5、吳市(人口十二萬八千) 廣島灣の東南にあり、廣島より鐵路十六哩にして達す、第二海軍區の軍港にして吳海軍鎮守府・海軍工廠・海兵團等あり、横須賀と並び稱せらるゝ重要な軍港にして、盛に艦艇をも建造し、又艦艇の武装に對する規模の宏大なること全國に冠たり。吳軍港にて建造せる主なる軍艦左の如し。

戰艦	安藝	一九、七五〇噸	巡洋戰艦	生駒	一三、七五〇噸
同	攝津	二〇、八〇〇	同	伊吹	一四、六二〇
同	扶桑	三一、〇〇〇	二等巡洋艦	對島	三、三六六

其の他宇治・桂・吹雪・叢・潮・子日等なり。

6、嚴島 一に宮島ともいふ。廣島灣の西隅に位し、風光の美を以て名高く、島上に嚴島神社あり、潮満つれば社殿廻廊恰も海上に浮ぶが如く、壯麗比なく、山色水光の明媚と相俟つて天下の奇觀なり。山陽

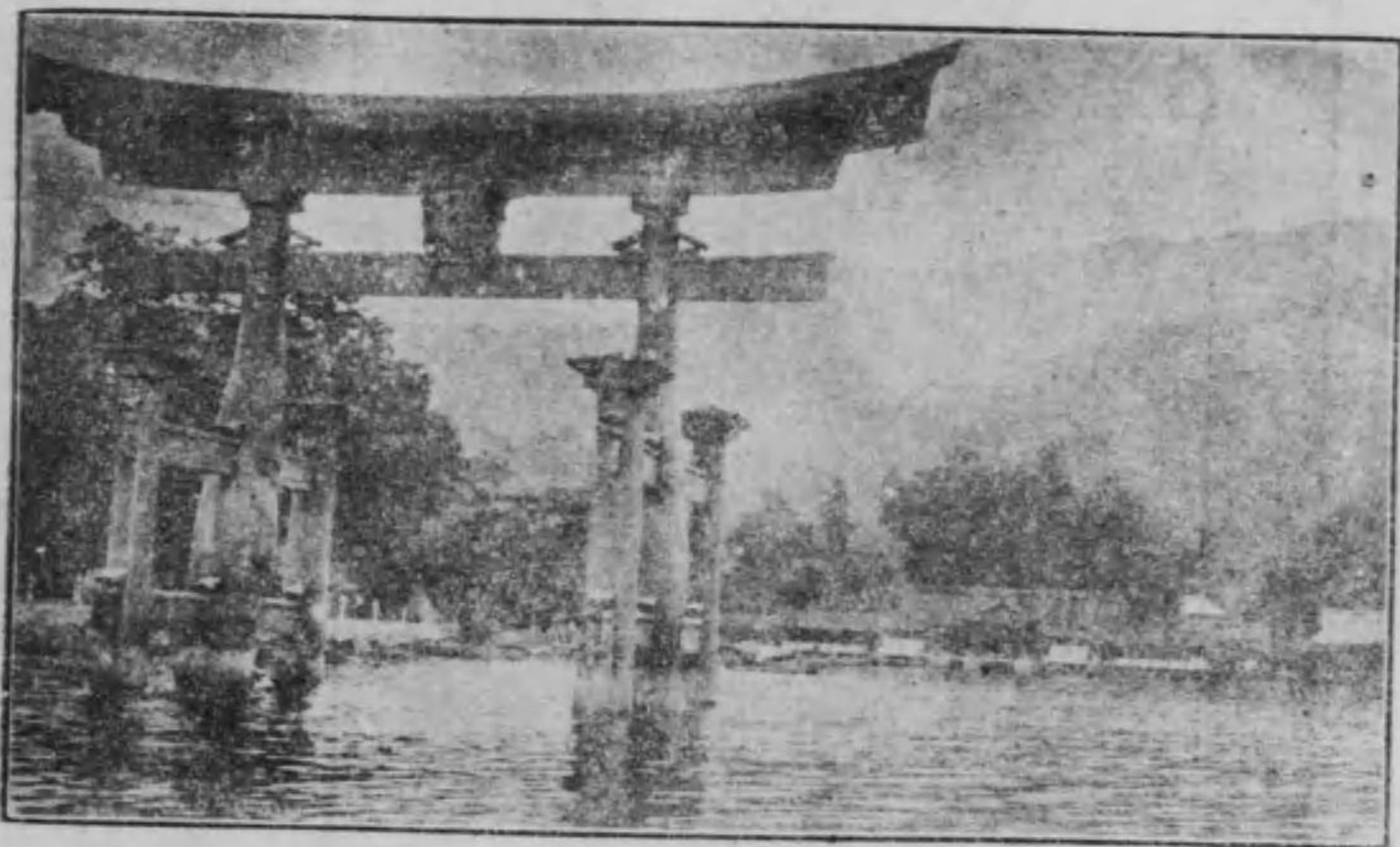
線宮島停車場より下車すれば數丁にして達す。此の間十五分鐵道連絡船あり。島は東西三十町、南北二里半、周圍七里三十二町あり、町は其の北端に位す。

○挿繪の説明

- (1)圖は嚴島の大鳥居の西方海上より嚴島神社を望みたる光景にして、嚴島神社境内の圖を参照すべし。
- (2)大鳥居の右方の正方に見ゆる建物は拜殿にして、其の後方に本殿あり。其の左なる建物は寶殿、右端の建物は能樂堂なり。
- (3)一朝潮満ち來れば社殿廻廊水上に浮ぶが如く、干潮の時は大鳥居附近迄歩行するを得べし。
- (4)大鳥居は嚴島の西方海上にありて、本社より七十間はなれたる所にあり。



鳥居神社



鳥居の高さ 五丈三尺
 柱の高さ 大四丈四尺
 小二丈九尺
 棟の長さ 六丈四尺
 柱の周囲 東二丈七尺にして西は三丈三尺なり。柱間距離五間五尺八寸なり。(5)左方の森林の下方には數多の燈籠あり、又千疊敷、五重塔婆ある所なり。(6)後方の山は緑樹鬱蒼たる彌山(左方)と繪馬嶽(右方)等にして風光佳なり。(7)向つて鳥居の左方に見ゆる船は有之濱と島との連絡船なるべし。

(三)山口縣

7、下關市(人口七萬二千) 中國地方の西南端、下の關海峽の北岸に在りて、神戸を距ること三百二十九哩三分、汽車にて約十二時間の行程に在り、豊前海峽と共に、瀬戸内海の西を扼し、南は下關海峽を隔て、九州に、西は日本海を

下の關海峽附近



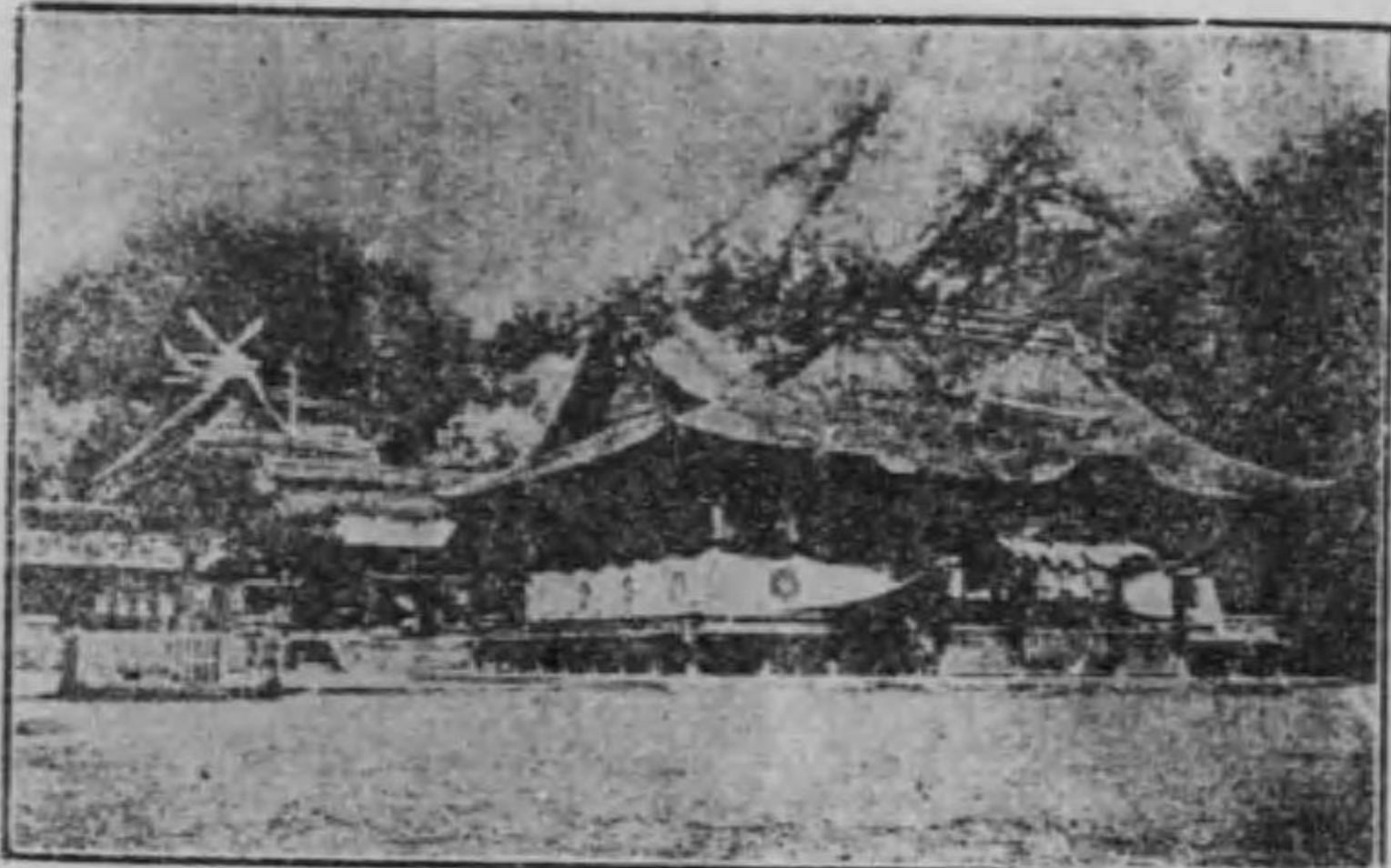
赤間宮あり、又春帆樓は日清媾和の際、清の全權大使李鴻章渡來して、我が全權大使伊藤博文・陸奥宗光と會見し、平和條約を締結したる所なり。

(四)島根縣

8、濱田町(人口一萬三千) 日本海岸にある天然の小良港にして、島根縣西部の門戸をなし、屈指の良港にして、開港場なり。木材・米・銀及び紙・海産物等の物産を集散し、商業繁盛なり。山陰線の全通せば尙一層の繁榮を見るべし。

9、杵築 出雲平野の西北部なる彌山の山麓に在り、我が國最古の神社なる出雲大社あるを以て名高し。

出雲大社



出雲大社は大國主命を祀れる官幣大社にして、社殿古雅、宏壯にして、
賽客甚だ多く、年七十萬人に及ぶといふ。

◎挿繪の説明 出雲大社 (八十二頁)

(1)圖は官幣大社なる出雲大社を境内の東南より西北に向ひて見たる光
景なり。(2)正面に紋幕を廻りたる建物は拜殿にして、其の後方に八足
門あり、其の奥に二階段の拜殿あり。(3)遙に千木、鯉木の見ゆるは本殿
にして、高さ八丈、明治七年の造營なり。(4)本殿の後に八雲山峙ち、
右方に見ゆるは龜山なり、拜殿の前に斜に出でたる樹木は松樹なり。
八雲山の西方に鶴山あり。(圖中には見えず)(5)門の左方の塀は本社を
打繞らせる瑞垣にして、其の前面にある玉垣は御籠井を圍繞せるもの
なり。

10、松江市(人口四萬二千) 宍道湖と中海との狭長なる地頭に位し、大橋川によりて宍道湖と中海とを連絡するを以て舟行甚だ便にして、百貨常に輻輳し、日本海方面に於ける著名の都會にして、島根縣廳の所在地なり。此の地宍道湖に臨み、北に島根半島の丘陵地を負ひて、氣候も比較的良好に、江山の景に富み、又東方遙に出雲富士の稱なる伯耆の大山の靈姿を望むを以て、夙に風景絶佳の地として著はれ、實

に山陰方面第一の景勝の地といふべし。商業又盛にして、市況の盛なる中國地方に於ける日本海方面中稀に見る所とす。

(五)鳥取縣

11、米子町(人口二萬二千) 夜見濱の頭部を占め、中海の東南岸に位し、中海によりて、境・安來・松江等の間を往來し、境と共に良港にして、水陸交通至便、商業盛にして、反つて鳥取縣市を凌ぐの觀あり。附近に肥沃なる米子平野あり、本邦屈指の棉作地にして、米子は其の取引の盛に行はるゝ所なり。

12、境町 中海の東を抱ける夜見ヶ濱は天橋立に似たる砂嘴にして、其の規模一層大なるを以て、大天橋の別稱あり。其の東北端なる境は港口東に面し、島根半島其の前面に斗出して、西北風を遮るを以て船舶の輻輳貨物の集散頻繁にして日本海方面の一要港なり。米子・松江・鳥取等に對する中繼商業地として重要な位置を占め、濱田と共に山陰方面の二大要港にして開港場なり。

13、鳥取市(人口三萬八千) 鳥取平野に在り、千代川の下流なる賀露川に臨み、賀露港を控へて、松江につぎて日本海方面第二の都會たり。此の地舊池田氏三十二萬石の城下なりしが、維新後一時衰退し近時山陰線の開通により繁盛に赴けり。鳥取縣廳の所在地にして、物貨の集散地として繭・生絲・米等の取引行はる。

四、教授上の注意

- 1、岡山市が大都會となりし地理的事情を理解せしむべし。
- 2、廣島市の發達せる原因を知らしむべし。
イ 廣島平野にあること。
ロ 宇品港を控へて、海陸交通の要衝にして、物貨の集散に便なること。
ハ 四國九州に近く物貨の中繼所たること。
ニ、日清日露の二大戦役の兵站基地たりしこと。
ホ、中國地方の政治上の中心地。
- 3、下關市の發達と萩町の衰退とを比較して、都市發達の要素を明確ならしむべし。
- 4、隱岐群馬は日本海に於ける軍事上交通上樞要の地たることを知らしむべし。
- 5、其の他重要都會は位置地勢等を觀察せしめ、其の發達の原因を推究せしむべし。
- 6、瀬戸内海、日本海岸の兩方面の都邑及交通の分布の比較をなさしめ、瀬戸内海方面の優れることを知らしむべし。
- 7、瀬戸内海方面及び日本海方面の文化發達上に差異ある理由を明にすべし。
- 8、山陽・山陰兩方面の比較表を作らしむべし。

五、參考資料

- 1、岡山の後樂園 後樂園は貞享四年岡山藩主池田綱政の時、始めて開きたるものにして、岡山市の東北部にあり、水戸の常盤公園、金澤の兼六公園と共に日本三公園の一と稱せらる。
旭川の水を引きて池を鑿つ、東西五十間・南北三十間・面積五反歩餘にして、中に出島、中島、砂利島等あり、林鬱・池沼・亭樹と相俟つて四季の眺望に富む。
- 2、院の庄 美作國苫田郡院の庄村に在り、津山の西山一里半に位す。昔元弘二年後醍醐天皇隱岐に遷され給ひし際の行在所にして、兒島高德ひそかに忍び入りて、庭前の櫻樹を削り、天莫空勾踐 時非無 范蠡 云々の句を書し以て赤誠を表はしたりと傳ふるはこの所なり。明治三年兒島高德を祀れる作樂神社を建つ、境内到る處に櫻樹多し。
- 3、吳軍港 此の地もと海濱の一漁村なりしが、明治十九年五月軍港に指定せられ同二十二年四月第二海軍鎮守府置かれてより以來次第に繁榮に赴き、三十五年遂に附近の村落を連ねて市制を布き、僅に數千の都邑も十數年間にして、十二萬人以上を算するに至り、廣島に次ぎて中國第二の大都會たるに至れり。第二海軍區の管轄區域は紀伊國南牟婁、東牟婁界より長門國大津・豊浦郡界に至り、一方は筑前遠賀、宗像郡界より九州東海岸に沿ひ、今回大隅國界に至る海岸、海面及び四國の海岸及海面並に内海の警備をなす。
- 4、嚴島神社 官幣中社にして、素戔嗚尊の御子市杵島姬・田心姬・湍津姬の三女神を合祀す。推古天皇の

二十二年の創建にして、社殿は平清盛の造營せるものにして、本殿・拜殿・社殿等相連り、廣さ百八十六坪、左右に百八の廻廊長さ五十間、海潮の上に架し、滿潮の時は海波に浮びて壯麗を極む。境内廣瀾、風景絶佳、眞に日本三景の一なり。

5、出雲大社 町の中央に在り、馬場大鳥居をすぎ、小阪を下れば老松道を挟んで翠色滴る如く、老樹羣鬱たる八雲山は西に屹立す、而して大山はその山麓にあり、是れ即ち杵築宮なりとす。官幣大社にして、官司を國造家といひ、千家男爵・北島男爵には各男爵を賜ふ。今老松の間を過ぎ、毛利公寄進の青鳥居を過ぐれば正門に至る、八足門と呼び、樓門の彫刻に葡萄と栗鼠の浮彫は左甚五郎の作と稱す。右に歡祭樓あり、大社の各種の寶物を藏す。殊に後醍醐天皇の琵琶、足利義滿の甲冑、豊臣秀吉の大刀等は國寶なり。正面の本殿は本邦に於ける最古代に屬する建築法にして、祠宇の構造全く他の神殿と異り、椽木高く空に聳え、不均齊式の構造甚だ奇にして、而かも頗る壯觀なり。昔時は其の椽の高さ三十二丈に上れりとぞ。此の古風の社殿を見れば自ら襟を正うし、自ら神威の高きを覺ゆべし。

6、宍道湖 宍道地溝帯の名残にて、東西四里十二町南北一里二十二町周圍十一里三十三町、面積四万里八歩を有する我が國第六の大湖なり。されど斐伊川土砂を運び年々縮少するの感あり。四方青巒をめぐらし風景繪の如し。湖水は極めて少量の鹽分を含み、殆ど一大淡水湖をなし鱸・鰻・白魚等を産す。

7、中海 宍道地溝帯の東部を占むる一つの瀉湖にして、東西五里、南北二里、周圍十六里十一町我が國第

四の大湖なり。湖水は半鹹半淡にして、鰻・鱸・蛤・蝦等を産す。沿岸稍出入多く良港を有し、小蒸氣船は米子・安來・境等を定期往來し交通便なり。

東岸一帯は平低なる砂濱にして、長汀曲浦の風光畫くが如し。

8、夜見ヶ濱 伯耆國西伯郡の西北部に斗出し、美保灣と中海との境界をなす砂嘴にして、其の長さ五里、幅一里に満たず其の形、大圓弧を描くを以て一名弓ヶ濱ともいふ。一帯の砂嘴に到る處青松鬱蒼として、白砂青松と點綴して風色絶佳を以て知らる。

9、壇の浦 下關市の東端、壇の浦町に在りて古壇の浦といふ。文治二年平氏一門安徳天皇を擁して讃岐より此の地に敗走し來る。義經大舉して之を攻む。平氏一旦九州に下らんとせしが、範頼の軍あるにより意を決して大に海上に戦ひ遂に亡ぶ。此の時天皇八歳に成らせ給ふ二位尼思を決し、帝を抱き奉り我身に二ヶ所結付け奉り、寶劍及び神璽を持って水中に投ずと、市内に安徳天皇を奉祀せる赤間宮あり。

10、赤間宮 市内字阿彌陀町に在り。官幣中社にして安徳天皇を祀る。此の地にもと阿彌陀寺あり。貞觀元年河内の行教和尚宇佐八幡を山城國男山に勸請の時、行宮を建立せる跡にして、文治の役安徳天皇此の地に崩じ給ふや、其の遺骸を海底に得て、本堂の前に葬り奉る。後寺内の御陵地に御影堂を建て、阿彌陀寺を以て勅願寺とす。明治八年赤間宮と號し、官幣中社に列せらる。社地は龜山の下にあり、眺望開豁、前方は硯の海に臨み、斜に門司ヶ關と相對し、其の上に筆架峯を見るべく、左に壇の浦の古戰場

あり、平氏の古塚は其の後山にありて、之れを平家七墓といふ。清經・資盛・敏經・經盛・知盛・教經・宗長の七氏の墓)

11、春帆樓 赤間宮の北、紫石山の麓に春帆樓あり、日清の役清國媾和全權大使李鴻章と我が全權大使伊藤博文、陸奥宗光と會見し、平和の條約を締結せしを以て著はる。外濱町の引接寺は當時清國全權大使一行の旅館に充てられたるものとして名高し。

第七 四國地方

(一) 區分

一、教授の要旨

四國地方の位置成立及び行政上の區分を授け、各縣廳の所在地を知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

日本全圖、四國地方圖、四國地方行政區分圖。

三、教材の精査

四國地方は北は瀬戸内海を隔て、中國地方と相對し、東は紀伊水道を挟みて紀伊半島に對し、南は渺茫たる太平洋に臨み、西は豊後水道によりて九州島と相望む、阿波・讃岐・伊豫・土佐の四ヶ國より成る。故に

四國地方と稱す。面積一千百八十一方里にて中國地方の二分の一より稍大なり。行政上より分ちて四縣とし徳島縣・香川縣・愛媛縣・高知縣にして、徳島(徳島縣)高松(香川縣)松山(愛媛縣)高知(高知縣)は各縣廳の所在地なり。

四、教授上の注意

- 1、四縣の名及び縣廳所在地を暗記せしむべし。
- 2、四國地方行政區分の略圖を描かして、一層記憶を明確ならしむべし。
- 3、縣名はなるべく、徳島・香川・愛媛・高知の如く順序よく暗記せしむべし。

五、參考資料

- 1、四國地方の行政上の區分及び面積人口等左の如し。

縣名	縣廳所在地	管轄區域	面積 方里	人口 千人	一方里内密度 人
徳島縣	徳島市	阿波	二七一	七五〇	二、七三〇
香川縣	高松市	讃岐	一一四	七五三	六、六一〇
愛媛縣	松山市	伊豫	三四一	一、〇九五	三、〇一〇
高知縣	高知市	土佐	四五五	六九一	一、五三〇
合計			一、一八一	三、二七九	

(二) 地勢

一、教授の要旨

四國地方は四國山脈東西に亘りて脊梁をなせるが上に、地勢一般に山岳性なるが故に吉野川を除くの外大河なく、平野乏しきことを知らしめ、又海岸の出入と其の利用等につきて知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

日本全圖、四國地方地形圖、石鎚山・劍山・吉野川等の繪畫又は寫眞。

三、教材の精査

(一) 山岳河川 四國島は東西に長く、南北に短く、四國山脈略其の中央を東西に走りて、本島を横斷し、又讃岐山脈西北部にあり、阿蘇火山脈は九州より來りて、本島の北部を過ぎり地勢一般に高峻なり。四國山脈は四國島の主軸をなして、四國島の西端なる佐田岬に起り、四國島の地形に沿うて東西に連互するを以て、此の地の自然、人文に與ふる影響亦實に尠ならず。脈中に劍山(二二四二米)石鎚山(二〇九七米)の高峰聳立す。讃岐山脈は四國山脈の北に並行して走れる山脈にして、吉野川下流の大溪谷の北岸を走り、鳴門海峡に没し、淡路島の南部を経て、和泉山脈に連る。脈中一千米突以上の高峯なく、四國山脈に比して高峻ならず。阿蘇火山脈は本地方の北部を過ぎ、近畿地方に互る。所々に火山の噴起せるありと雖、著しき高峯なく、伊豫の小富士、讃岐富士はこの脈中に在り。中央に四國山脈ありて分水嶺となるを

四國地方地勢圖



以て、河流は概ね此處に發源して四方に流る。従つて長大なる河流を涵養すること能はず。只東斜面に山脈と平行して流る、吉野川あり。吉野川は一に四國三郎の稱あり、四國第一の長流にして、源を土佐、伊豫の國境なる瓶ヶ森山(讃岐山脈に屬し一九五六米)に發し、四國山脈の南麓に平行して東流し、大久保より急に北折して、徳島縣に入る。之より三好郡白地に至る約六里半の山間、一大峽谷をなして、河幅狭く河床深く、兩岸削立して大崩壞、小崩壞等の險所あり。四國山脈と讃岐山脈との間を東流して紀伊水道に注ぐ。流程六十里、流域は肥沃なる平野を成し農産豊富、下流十七里の間舟楫の便あり。その他四萬十川(渡川ともいふ)仁淀川(面河川とも稱す)、物部川等あれども、何れも横谷をなして南流す。

本地方は全島山岳に富み、大河の灌漑少なければ平野に乏しく、僅かに吉野川の流域地方に吉野平野あり、高松・松山・高知等の附近に點々小平野あるのみ。

(二) 海岸 四國島の海岸は出入多く殊に瀬戸内海及び豊後水道沿岸は出入甚だしく、大小の港灣少からず。瀬戸内海方面は東に讃岐半島、西に高繩半島突出して、内に豫讃灣及び懸灘を抱く。沿岸は屈曲甚だ

小崩壊



臨める方面は多少の出入を有す。淡路島東北に横はり、潮流急なるを以て名高き鳴門海峡なり。

四、教授上の注意

- 1、四國島の成因につきて知らしむべし。
- 2、本地方の地勢を授くるに當りては、中國、近畿等の諸山脈と連關して明確に授くることを要す。

多くして、高松・多度津・今治等の港あり。海上には小豆島を始め、數多の島嶼散點して風光甚だ佳なり。高繩半島の西方伊豫灘は單調にして、佐田岬西に突出して豊豫海峡を隔て、九州の地藏岬と相對す。其の間僅に六哩なり。豊後水道方面にては佐田岬の南、伊豫の西海岸は屈曲甚だしく、小半島入江無數にして、屈竟の漁港たるもの少なからざれども、背後に十分開發せられたる土地なければ、商港として盛に利用せらるゝものなし。太平洋方面には西に足摺岬あり、東に室戸崎ありて、内に土佐灣を抱く。海岸出入極めて少く、殊に西半は絶壁多く、東半は所々に砂濱あれども良港なく、僅に浦戸灣細長く北に彎入して高知市を其の盡頭に有するのみ。室戸崎以東、蒲生田岬間出入少く良港なし。紀伊水道方面にては紀伊水道に

- 3、四國山脈が自然、人文地理上に與ふる影響を授けて四國島の南北の異なる點を考察せしむべし。

- 4、四國地方の河川と人文上の關係を知らしめ、河川の人生に對する効用を知らしむべし。

1 河川は其の流域に平野を作る。

2 河川の流域地方より各種の物産を産出す。

3 河川は木材の運搬、舟筏の運輸等をなして、交通上重要なり。

4 河畔には往來集合し都會をなし、種々の人文發達す。

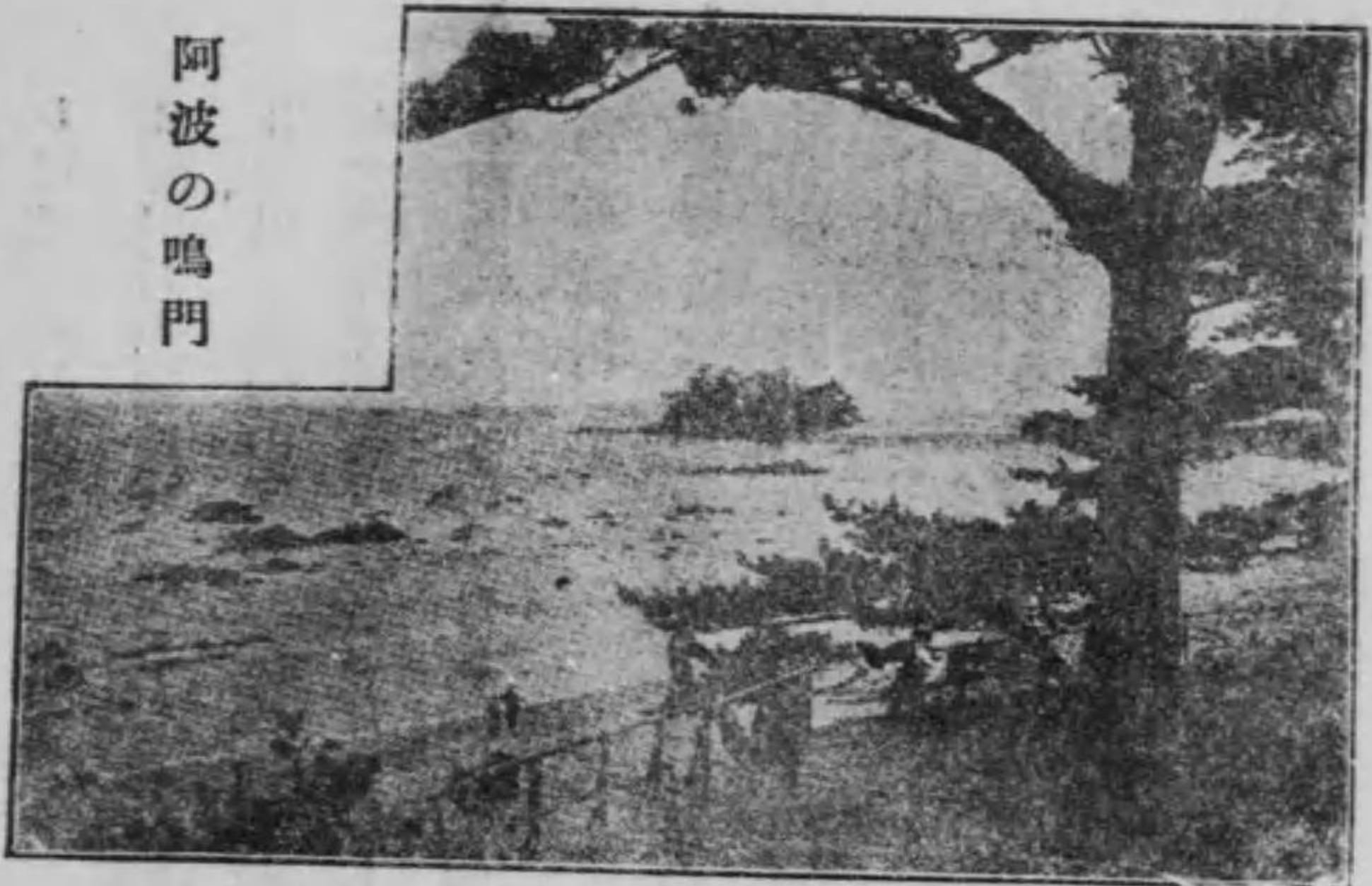
- 5、鳴門海峡の潮流の急なる所以を知らしむべし。

五、參考資料

- 1、劔山（二二四二米） 四國山脈中に聳立する高峯にして、四國第一なり。一の峠・二の峠・三の峠を越えて絶頂に達す、絶頂に石あり、寶藏と稱す。西南に二石あり、一を太郎笈といひ、他を次郎笈といふ。更に行くこと三百歩にして削成せるが如き石あり、不動石といふ。高さ二十五丈、又頂上に劔社あり。安徳天皇の劔を祀れによりて此の名ありといふ。

- 2、石鎚山（二〇九七米） 四國山脈中の主峯にして、四國第二の高峯なり。劔山と共に四國の双峯となす。山頂に石鎚神社あり。夏季白衣の登山者多く、山頂の眺望壯大なること四國第一とす。

- 3、阿波の鳴門 鳴門は撫養の東北、淡路島との間にして其の幅十二町餘あり。



阿波の鳴門

一、教授の要旨
(三) 産業

海洋より満ち来る潮汐も瀬戸内海より退潮する潮流も此の狭窄なる海峡に壓迫せられ、暗礁に激して一大潮流をなす。之れ鳴門海峡の潮流にして、其の速力一時間七哩乃至八哩半にして、最早きは春秋の大潮時にして、十二節の速力を有す。我が國潮流の速き所にして、下關海峡之れに次ぐ。

4、四國島の成因 四國島は瀬戸内海の深く陥落せるによりて、東・西・北の三面切れて本州及び九州と分離せるものなり。即ち四國山脈は紀伊山脈及び九州山脈に連絡せるものにして、讃岐山脈は和泉山脈と連続せるものなること地質上より之を證することを得べし。

小豆島及び四國北部の屋島と五劍山等に於て、第三紀の地層に屬する安山岩質變岩の花崗岩上にありて殆ど一地平面をなすを以て、其の當時の接続せる一個の地盤たりしを證すべし。

四國地方の太平洋方面の林業、瀬戸内海及び近海の水産業、並に四國山脈中の鑛山、其他工業・農業等の産業の状況を知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

四國地方圖、葉藍、和紙、食鹽・銅・綿織物等の産額比較圖、挿繪擴大圖等。

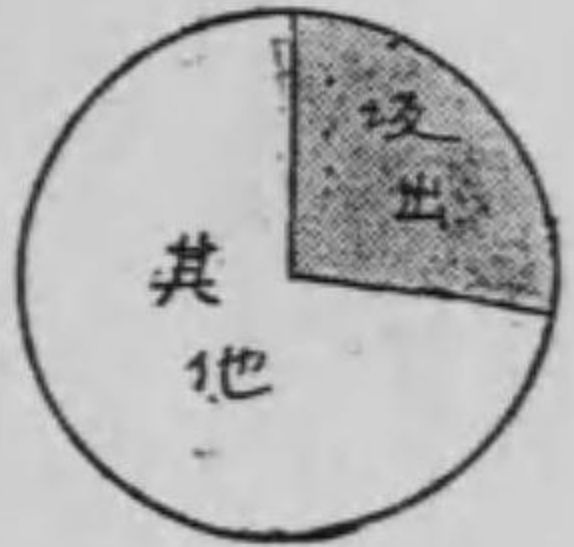
三、教材の精査

(一) 林業・水産業 太平洋方面は近畿地方の南部と共に最南方に位し、且つ近海暖流に洗はるるを以て、氣候温暖にして雨量多く、樹木繁茂し、林産に富む。殊に高知縣は北方山地にして、土質植林に適すると、舊藩政時代に林業の保護よろしきを得たるを以て、杉・松・扁柏等の用材を産出す。瀬戸内海方面は四國山脈の海洋より吹き来る濕風を遮ぎると、中國山脈の日本海方面より齎らす濕風とを遮ぎるを以て、雨量割合に少く、晴天の日多し。加之沿岸遠淺の砂濱に富めるを以て、最も製鹽業に適せり。

殊に香川縣の坂出、徳島縣の撫養、愛媛縣の今治附近等は製鹽業盛にして、山陰方面を比肩し、坂出は我が國第一位にして三億萬斤以上を産し、内地總産額の約三分の一に達す。

◎挿繪の説明 坂出の鹽田(八十五頁)

(1)圖は坂出の鹽田を南より望みたる光景なり。(2)圖中の平坦なる部分は一帯に鹽田にして、鹽田は海水の通ずる溝により幾多の長方形の地區に分たる。(3)鹽田中に列をなして小高きものは鹽分の附着せる砂

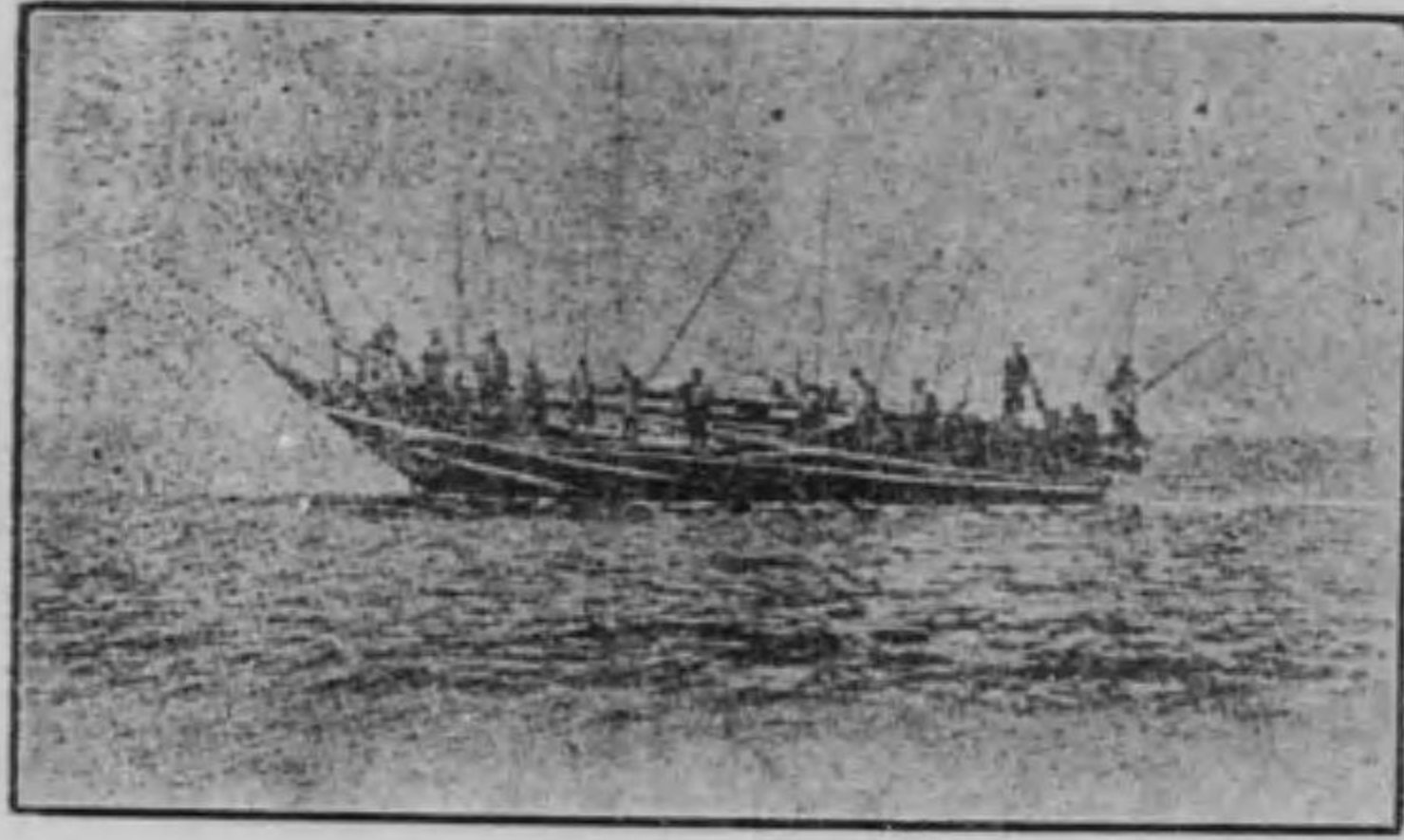


産地	産額 (担)
坂出	3,041,232
三田尻	1,847,739
神戸	1,332,544
廣島	1,285,812
岡山	1,180,812
徳島	873,112
其他	1,180,812
合計	10,447,062

をかき集めたるものにして、折と稱するものなり。(4)折の両側には折に海水を注ぎて濾過したる濃厚なる鹹水を容るゝ器なり。(5)左方に並べる人家は圖に示せるが如き装置を以て送り來れる鹹水の水分を蒸發せしむる釜場なり。(6)手前に見ゆる釣瓶及び桶は即ち鹹水を釜場に送るの装置なり。(7)鹽田中の二人の人は砂面をかき乾燥を速ならしむるものにして、手にせるものを引鉄といふ。(8)正面の洋風の建物は坂出專賣支局にして、其の右に見ゆる二棟の家屋は鹽の吠を入るる倉庫なり。尙右方に見ゆるは鹽を貯ふる倉庫なり。(9)專賣支局の後方に山の如く見ゆるは瀬戸内海の一小島なる瀬居島なるべし。(10)海水を鹽田に入れ之を乾燥して砂に附着せしめ、更にかきあつめて折に入れ、海水を注ぎて濾過し、桶によつて釜場に送る。而して水分を蒸發せしめて鹽となるまで通常二三日を費す、然れども炎熱燃くが如き夏季には一日にして製鹽することを得といふ。

近海は鯉・綿・鯨・珊瑚等の水利に富み、漁業盛に行はる、就中太平洋方面は暖流の流るる所なれば鯉・鱒等の魚類に富む。高知縣は殊に著しく、

り 釣 鯉



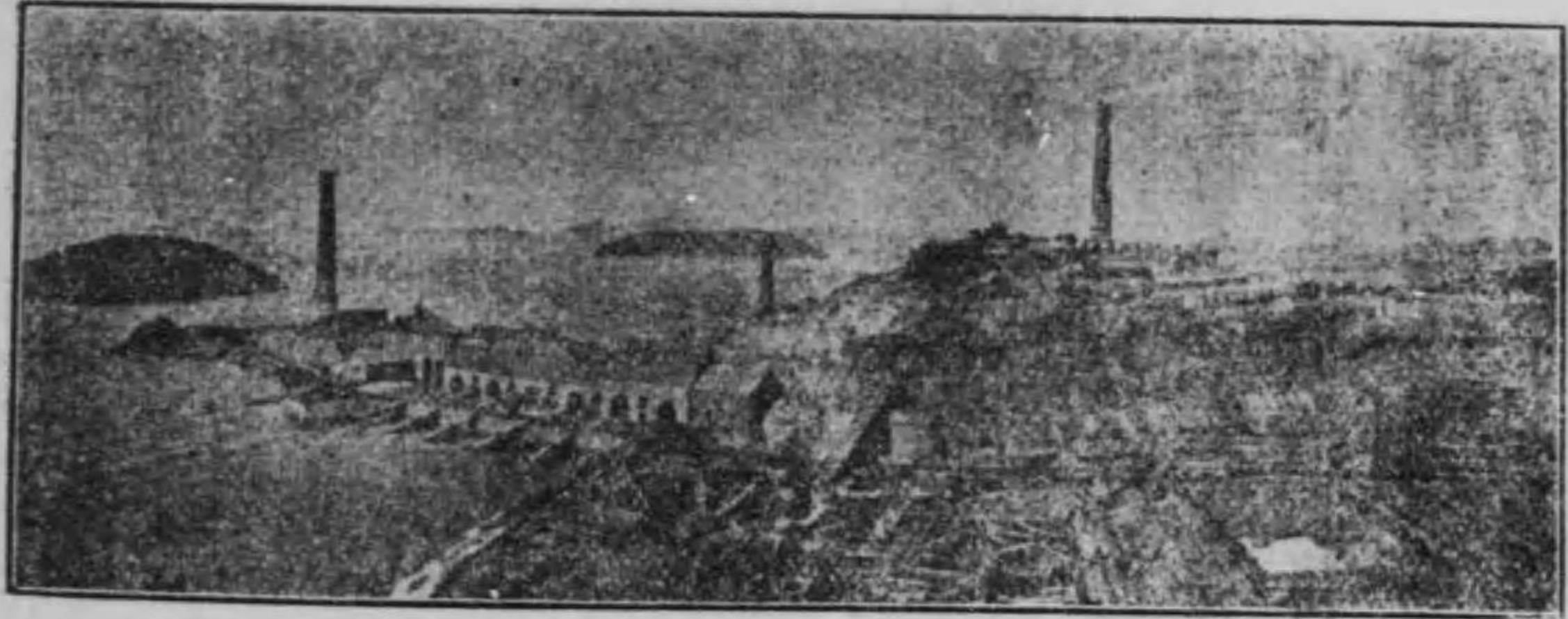
四國地方中第一位にして、多く鯉を産し。鯉節の製造亦盛なり。鯉節の製造の最盛なるは愛媛縣にして、年産額六十五萬圓を産し鹿兒島、静岡に次ぎて本邦第三位にあり、高知縣四十六萬圓にして本邦第七位に在り。

◎挿繪の説明 鯉節製造と鯉釣り(高知縣) (八十六頁)

(1)上圖は土佐より四十哩程離れたる沖合にて鯉釣る舟の光景なり。(2)鯉船は普通の漁船よりも大きく長さ五十尺、幅一丈二尺位にして、漁夫は筒袖又は洋服をつけ、十五人程乗り込むといふ。(3)釣絲は麻絲にして長さ三尋位より四、五尋位なり。(4)餌となすは通常鱈又は小鯖を用ふ。(5)漁獵の時期は三・四・五・六月並に九・十月頃を適當とし、殊に五月頃の盛なる瞬く間に夥しき漁獲をなす。(6)近年漁船及び鯉の運搬船に石油發動機を用ふること大に増加し、船も一層大なるものを見るに至る。

(1)下圖は高知縣幡多郡清松村にある某鯉節製造場に於ける鯉節製造の光景なり。(2)並列せる箱の中にあるもの及び散在せるものは乾燥をなしつゝある鯉節にして、積み重ねたる箱は乾燥せる鯉節を入れたるものなり。(3)前方にかゝめる男は鯉節を乾燥しつゝあるなり。(4)積み重ねたる箱の前の男は鯉節

四 阪 島 製 鍊 所



を運搬せるものなり。(5)其の左方の男は竹箆を敷きたる蒸籠に鯉節を
入れ日光に乾燥したるものを表裏取換をなしつゝあるものなり。(6)其
の左方の男は鯉を切り居る所にして、其の背後の男は鯉節を入れたる
箱を運搬せるなり。(7)其の前方に鉢巻して盥の中に手を入れ居る男は
小骨を抜きとり、又は破損の箇所を修理をなすものなり。

(二)鑛業其他の産業 四國地方には新興の鑛山少なからざれども四國山
脈中にある別子の銅山及び市の川の實質母尼鑛山は其の名世に著はる。殊
に別子の銅山は小坂・足尾・日立等に次ぎて銅の産出多く、年産額一千三百
萬圓に達し、本邦四大銅山の一たり。而して採掘せられたる鑛石は海上約
十哩を隔つる瀬戸内海中の四阪島の製鍊所に送られて製鍊せらる。

四阪島は美濃島・家の島・鼠島・明神島の四小島より成れども美濃島と家
の島とは埋立地によりて相連続し、美濃島は之に従事するものの住宅地と
し、家の島は主として工場地として用ひらる。

○挿繪の説明 四阪島製鍊所(八十七頁)

(1)圖は瀬戸内海の家の島に於ける四阪島製鍊所を家の島と美濃島との



和紙産額比較表
内地計二億四千七百四十四萬圓

和紙	洋紙
高知 四〇九二	高知 四〇九二
愛媛 二五二九	愛媛 二五二九
岐阜 一六一四	岐阜 一六一四
福岡 一五二八	福岡 一五二八
静岡 一一九〇	静岡 一一九〇
香川 一一五九	香川 一一五九
兵庫 一〇九〇	兵庫 一〇九〇
東京 一〇八五	東京 一〇八五
廣島 九八三	廣島 九八三
山口 九一三	山口 九一三

間なる埋立地より望みたる光景なり。(2)四阪島とは家の島・美濃島・
鼠島・明神島の四小島の總稱なり。(3)圖の中央に見ゆる二條の傾斜
道は鑛石を捲き揚ぐる爲めの装置にして、曳船にて運ばれたる鑛
石をこゝより引揚ぐ。(4)圖の右方七本の煙突の右方低地に溶鑛爐あ
り、又溶鑛爐は左方低地にも二ヶ所あり即ち圖の左方に見ゆる煙突
は熔鑛爐用なり、又煙突の北方に鍊銅所、精銅所あり。(5)二本煙突
にかくれて見ゆるは鼠島にして四阪島の一なり。(6)四阪島は明治三
十九年末製鍊所創設せられ、爾來有名となり、今や人口五千以上の
多きに及ぶ。

市の川鑛山は我が國第一の安質母尼鑛山として盛況なりしも、近時産
出振はず。

四國地方は工業亦盛にして、和紙製造の盛なること我が國第一位に在
り、本邦總産額二千四百餘萬圓の約三割を占め、殊に高知縣の和紙は産
額四百餘萬圓にして、我が國和紙産出諸縣の首位を占む。愛媛縣は高知
縣に次ぎて我が國第二位に在り。四國山脈の南北兩側には三極、楮等の

栽培行はれて、到る處に製紙業發達し、高知縣にて最盛なるは吾川・高岡の二郡にして、吾川郡の伊野は及び附近は斯業の主なる中心地なり。

四國地方の和紙産額左の如し。(前頁参照)

縣名	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年
高知	四、三三二 <small>千圓</small>	三、六一〇 <small>千圓</small>	三、七五三 <small>千圓</small>	四、〇九三 <small>千圓</small>
愛媛	二、一三四	一、七八八	二、〇〇四	二、五三九
其他	九七七	六六六	八六一	一、三九九
合計	七、三六七	六、〇六四	六、七三三	八、〇一〇
全國	二〇、九三五	一八、五六二	二二、三九六	二四、七四〇

吉野川下流の平野には藍の栽培行はれ、葉藍を産すること多く年産額二百十二萬圓にして、全國總産額三百十六萬圓の約三分の二を占む。近年外國より來れる化學染料の爲めに、著しく其の産額を減じたれども、尙徳島縣に於ける主要なる財源の一たり。脇町は葉藍の中心地なり。

煙草は吉野川の流域なる池田、貞光等より産し、産額百萬圓以上にして朽木・茨城・鹿兒島につぎて本邦第四位に在り。



葉藍	徳島	福岡	埼玉	三重	愛知	岡山	廣島
	二二、二六 <small>十萬</small>	一〇、〇一	九、二	八、三	七、九	七、六	五、一

較比額産藍葉
円千六万十百三計地内

徳島 福岡 埼玉 三重 愛知 岡山 廣島

一時民業より官業に移りたるを以て沈滞の状況なりしが、再び復活するに至れり。

綿織物に阿波縮あり、殊に愛媛縣の綿工業の如き大に注目するに足り、松山及び其の附近には伊豫紵を産し、今治附近には綿フランネルを産し、是等綿織物の産額一千八百八十六萬餘圓にして、全國第六位にあり。

四、教授上の注意

- 1、尋讀卷六 砂糖と鹽、卷七西洋紙と日本紙、卷八木綿織の由來等を参照すべし。
- 2、別子の銅山につきては足尾銅山と比較して教授すべし。
- 3、四國地方各縣の特色ある産業につきて知らしむべし。

徳島縣	鹽	藍	煙草
香川縣	鹽	和紙	
愛媛縣	銅	綿織物	鯨
高知縣	和紙	鯨節	珊瑚

4、製鹽業につきては中國地方と連絡して教授し、中國地方にて述べたる製造業の盛なる原因を復演すべし。

5、徳島縣の藍の栽培衰へたるは外國製藍及び化學染料の進歩の影響なることを授け、化學工業の重要な

ることを知らしむべし。

6、鯨節の製法につきましては参考資料及び、挿繪の説明によりて知らしむべし。

五、参考資料

1、鯨節の製造 鯨節を製するには鯨の頭、脊骨等を取りて、之を數片に割き籠に入れ、更に釜の中に入れて、煮ること約一時間、之を釜中より取出し、水中に入れて骨抜及び破損せる所に肉を摺り込みて修理をなす。更に之を蒸籠に入れて火爐及び日光にて乾燥す。尙庖丁にて削りて、表面及び形狀を整へ、又乾燥し箱の中に入れて徴付をなすこと約二週間にして取出し、更に日光に乾燥して製造したるものを土佐節と稱す。

2、捕鯨 室戸足摺兩岬の南方約五十海里海内の土佐沖一帯は捕鯨の盛なる所なり。

最初は網を海に卸し、鯨の向ふ所を扼し、遠巻きにして遁ぐる能はざらしめて、之を銛と稱するものを用ひて捕獲す。明治三十九年末より那威式銃殺法行はれ其の成績良好にして漁獲高頓に増加するに至れり。鯨の漁獲高左の如し。

岩手縣	二十五萬五千六百五十圓
高知縣	二十四萬六百三十五圓
宮城縣	二十一萬五千五百八十九圓

3、珊瑚 足摺岬の西南の海には珊瑚の採取多く、高知縣の特産物にして、其の産額十八萬圓以上に及び、長崎縣三十萬圓につぎて有名なり。

此の地の珊瑚は薄紅色の上品にして裝飾用として賞翫せられ、伊太利に輸出す。珊瑚の極めて赤きは血玉と稱し劣等にして、白きは未だ紅色に至らざるもの、黒きは黒珊瑚又は黒松とも稱す。珊瑚は海中にある間は柔軟なれども、水を出づれば堅硬となる。珊瑚に加工して美麗なる裝飾品を作る、東洋人の嗜好に適す。

4、齋田鹽 齋田は地名にして撫養町の西部にあり。製鹽業の盛なる地方にして、齋田鹽の名天下に名高し。もと藩祖蜂須賀家政初め播州龍野を領し、領民製鹽を業としたるもの多く、其の封阿波に移るや兵亂の餘弊のため、人民多く無産にして困窮し、遂に撫養に鹽田を開くに至る。これ齋田鹽の起原なり。播州赤穂鹽と共に名高し。

5、阪出の鹽田 讃岐の北海岸にあり。年産額三億萬斤以上を産し、瀬戸内海鹽田中最も多量に産す。此の地の鹽田は文政十二年の交、舊藩主京極氏の治下になり、其の設計及び竈工は久米榮左衛門なるもの之を擔當せしに起因せり。

6、別子銅山 愛媛縣宇摩郡別子村 同新居郡角野村・同中萩村に跨る鑛山にして、鑛區七百四十九萬二千七百坪を有す。大阪の住友家の經營にして、採掘せる鑛石は鐵道によりて新居濱に送られ、新居濱より

直に海運によりて四阪島製鍊所に輸送せらる。此の鑛山は元祿三年大阪の人、住友吉左衛門の發見にかかり、翌四年四月より開坑し、一ヶ年一千二百萬圓以上を採掘すといふ。

7、市川鑛山 愛媛縣新居郡大生院村に在り、安質母尼を産するを以て有名なり。此の鑛山は延寶七年長會我部信親の發見せる所にして、元文元年に至り大阪の人、大阪屋源八なるもの採掘せしも廢坑の不運に陥り、後明治二十六年六月株式組織となしたれども、これ又三十六年に至りて破産し、三十九年市之川鑛業株式會社組織せられて今日に至る。

産額の多きこと我が國第一なりしが、近時産額大ならず。鑛區九十八萬六千八百八十五坪、數條の鑛脈より安質母鑛を出し、結晶の巨大にして壯麗なること、蓋し世界無比なり。

8、土佐半紙 仁淀川の東岸なる伊野は製紙業の中心地にして、土佐半紙は古來有名なり。其の産額四十萬圓にして我が國和紙産額の第一なり。此の地製紙の起原は遠く推古天皇の御宇、僧曇徴の始めし所なるが如く、其の後朝廷の御用品として獻せしことあり。

紙の種類四十種以上の多きに達す。即ち典具帖紙、蒲柳紙、コツビー紙等は海外まで輸出せられ其の價格三十萬圓に及ぶといふ。

愛媛縣は高知縣に次ぎて和紙の産出多し。即ち宇摩郡の伊豫紙、喜多郡の大洲半紙、宇和郡の仙花紙、新居郡の伊豫奉書等にして、合計二百五十餘萬圓を産し、我が國第二位に在り。就中宇摩郡は愛媛縣に

於ける和紙製造の中心地なり。

9、藍の栽培 徳島縣は古來藍の栽培行はれ吉野川の流域なる板野、名東、名西、麻植の四郡最盛なり。其の初め播州飾磨地方より移植せしに始まり、蜂須賀氏の國産保護のため藍方役場を置き奉行三名手代九名を置き取締をなしたるため、大に盛況を呈したりしが、近時人造染料の輸入せられ、其の壓迫を受けて漸く減少せり。

葉藍は夏期土用の季節に收穫し、之より藍玉を製するには、藍の葉を乾燥し莖を去り、土藏内のたゞきの上に擴げ、四日毎に水を注ぎ、凡そ二ヶ月間積み置き、之を舂きて小分し、更に固めて塊となし乾燥するなり。

10、綿織物 愛媛縣の綿織物は松山及其の附近より産する伊豫絣を主とし、其の産額三百十二萬圓以上に於て、綿織物中の主位に在り。

伊豫絣は今より百餘年前、享和年間愛媛縣温泉郡植生村大字今出の人、鍵谷かな女の發明にして、爾來徐々として發達し今日に至る。松山市・伊豫・温泉地方主産地にして、價格低廉にして褪色の患なく將來益有望なり。

綿フランネルは明治十七年頃今治の人矢野七三郎、和歌山に至りて、其の製織法を調査し、十九年今治町に工場を設け、合資會社を設立したるに始まる。其の後、伊豫ネルの名漸く現はれ、遠く朝鮮・支那・

南洋方面に輸出するに至る、白ネルの純白美麗なる特質は世人の賞讃する所なり。

11、四國の鑛山

鑛山名	所在地	經營者	産額
別子鑛山	愛媛縣(前出)	住友吉左衛門	千圓 一〇、四〇九
市川鑛山	愛媛縣新居郡大生院村	市川鑛業株式會社	—
大瀬鑛山	愛媛縣喜多郡	久原鑛業株式會社	二、三三二
東山鑛山	德島縣麻植郡	久原鑛業株式會社	四七六
白瀧鑛山	高知縣土佐郡	宇主合資會社	五三二
大峯鑛山	愛媛縣西宇和郡	明治製鍊株式會社	四六五

(四) 交通

一、教授の要旨

四國地方は陸上の交通は發達せざれども、海上の交通便利にして、就中瀬戸内海の航行の便大なることを知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

日本交通全圖、四國地方圖、四國地方交通圖。

三、教材の精査

(一)鐵道 四國地方は四國山脈及び其の支脈中央に蟠りて、鐵道の開通に困難なるを以て、鐵道未だあまねからずして、陸上の交通は便ならず、されど時勢の進歩は大に鐵道の敷設を感ずるを以て、將來は鐵道の普及を見るに至るべし。現時敷設せられたる鐵道の主なるものは左の如し。

鐵道線	距離
高松——琴平間	二七哩
度濱津——伊豫三島間	二七哩九分
德島線 小松島——德島——阿波池田間	五二哩九分
松山——郡中間	六哩六分
伊豫鐵道電氣 横河原——松山間	八哩三分
高濱——松山——森松間	九哩五分

(二)航路 海上の交通頗る便利にして、主要なる都邑は概ね港をなす。殊に瀬戸内海沿岸は港灣の設備と秀麗なる風致とにより水運の發達を促し、船舶の出入極めて多く、大阪・神戸をはじめ、中國・九州の諸港との間航路を通ず。大阪商船會社・鐵道院連絡船等の汽船は常に此等諸港の間を往復す。

四、教授上の注意

1、交通の教授につきては旅行案内を参照すべし。

四國の交通



子・安來

大阪四國線 大阪・神戸・高松・多度津・今治・高濱・長濱・川ノ石・八幡濱・吉田・宇和島・深浦・宿毛

五、參考資料

大阪商船會社の航路

大阪山陽線 大阪・神戸・坂手・高松・多度津・鞆・尾ノ道・糸崎・忠ノ海・竹原・阿賀・音戸・鍋・吳(吉浦)・宇品・宮島・岩國・久賀・柳井津・室津・三田尻・新川・門司。

大阪山陰線 大阪・神戸・坂出・今治・高濱・下關・仙崎・萩・須佐・江崎・濱田・温泉津・和江・久手・杵築・境・馬潟(松江)・米

四國經過大阪門司線 大阪・神戸・坂手・高松・多度津・觀音寺・川之江・三島・新居濱・西條・壬生川・今治・高濱・郡中・門司。

大阪別府大分線 大阪(築港)・神戸・高松・高濱・別府・大分。

大阪徳島線 大阪・兵庫・小松島・徳島。

大阪高知線 大阪・神戸・高知。

大阪細島線 大阪・神戸・高松・多度津・今治・高濱・長濱・守江・日出・別府・大分・佐賀關・白杵・佐伯・蒲江・土々呂・細島。

(五) 都 邑

一、教授の要旨

四國地方の主なる都邑につき其の發達せる理由及び其の特徴等につきて知らしむるを以て要旨とす。

二、教授の準備

四國地方圖、都邑の寫眞及び繪葉書、挿繪の擴大圖。

三、教材の精査

(一) 徳島縣

1、徳島市(人口七萬) 吉野川の三角洲上に建ち、縣下第一の都會たるのみならず、四國地方第一の大都

會なり。綿ネル、阿波縮等の産地にして、大阪との汽船の往來ありて水陸の便多し。徳島市の發達せる原因左の如し。

1 吉野川の河口に位し、水陸交通の便なること。

2 吉野川流域なる吉野平野に位し、各種の産物豊富なること。

3 沿岸船舶の寄航地なるを以て、交通の要路、物貨の集散に便なること。

4 蜂須賀市舊城下なりしこと。

5 市及び附近より特産物を出すこと。

(二)香川縣

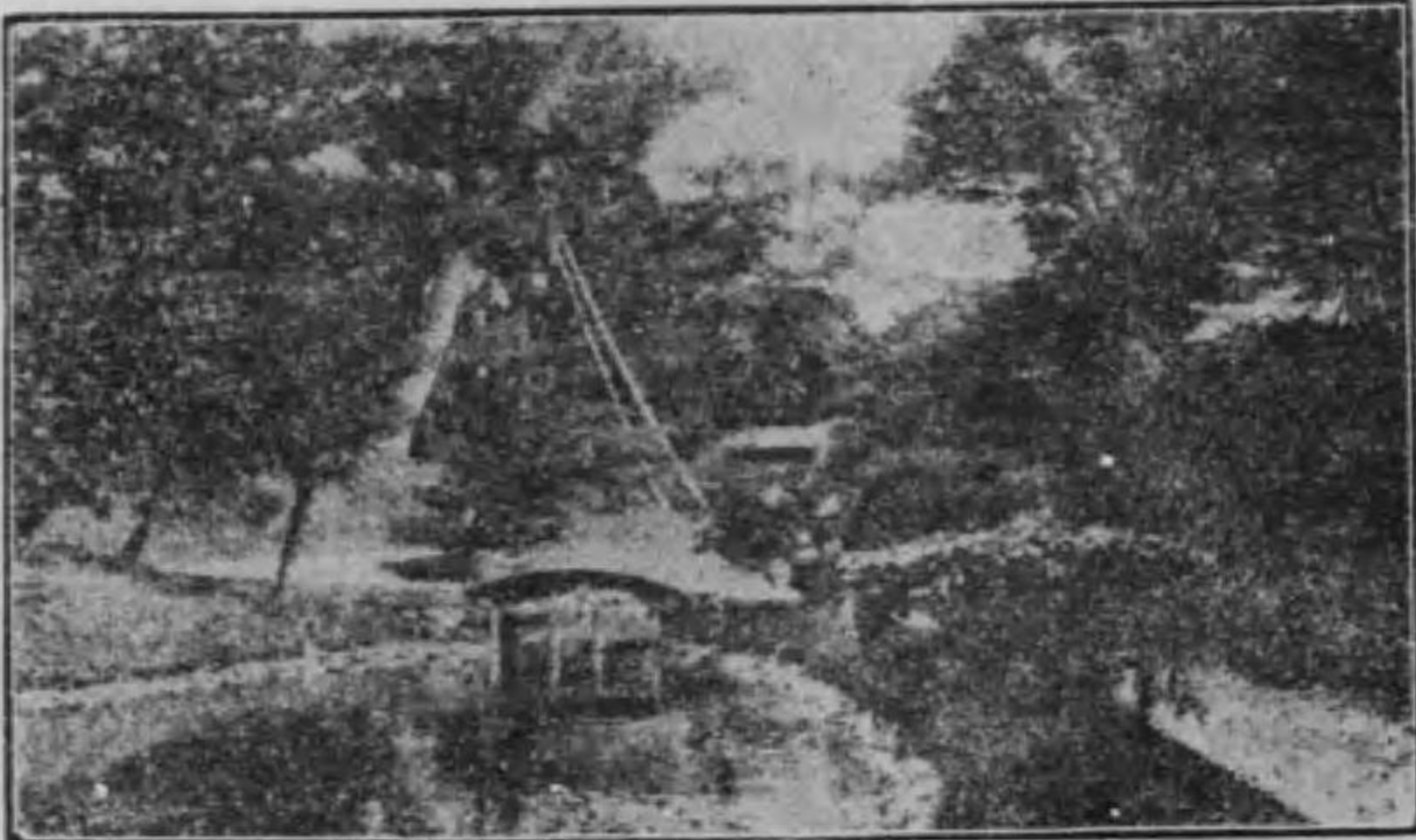
2、高松市(人口四萬二千) 瀬戸内海に臨み、香川縣廳の所在地にして、中國地方の宇野港との間に鐵道連絡船あり。其他大阪・下關を初め、瀬戸内海各港の汽船の往來あり、水陸交通の要衝たり。此の地近時築港完成し、多度津港と共に本港の二大要港として百貨輻輳し商業亦盛なり。市の東に風景の絶佳を以て名高き屋島の勝地を望む。市中に名高き栗林公園あり。風光の佳なること四國第一なり。

◎挿繪の説明 高松と屋島 (八十八頁)

高松と屋島



栗林公園



(1)圖は高松市の西南方なる紫雲山の北端中腹より高松市街及び高松港を隔てて屋島を望みたる光景なり。(2)市街の左方に見ゆるは鹽田にして、前方に見ゆる山は屋島なり。(3)屋島は高松市より東方約一里、半島をなして突出す、風光絶佳にして其の東麓は即ち壇之浦にして源平二氏の古戰場なり。附近眺望佳なり。(4)中央に走れる鐵道は讃岐線の列車にして、將に高松驛に到着せんとせり。(5)前方の松林ある所は高松城址なり。

3、丸龜市(人口二萬九千) 高松市の西、讃岐海岸に在り。汽車にて約一時間にして達す。商業盛にして團扇、花筵、竹細工等を産す。

4、多度津港 瀬戸内海に臨み、中國交通の要津に當り、内海航路の寄航地にして、船舶の出入多く、近時築港なりて、一層船舶の出

入に便す。殊に琴平神社に參詣せんとするものは多く此の地に上陸す。鐵道高松、琴平に通じ、水陸交通の便なることを以て商業亦盛なり。

5、善通寺町(人口一萬八千) 多度津の東南に當り、弘法大師誕生地として、善通寺あり。五岳延生寺とも稱し、讃岐第一の巨刹なり、今第十一師團あり。

金 刀 比 羅 宮



縣の政治的中心地たること。

6、琴平町 象頭山麓に在り、山腹に有名なる金刀比羅宮あり、大己貴命及び崇徳天皇を合祀する國幣中社にして、賽客常に絶ゆることなく、春秋の候、社前市をなす。所謂金刀比羅大権現は、海上航行の守護神として航海者の尊信殊に深し。

(三)愛知縣

7、松山市(人口四萬五千) 四國地方に於ける屈指の都邑にして、愛媛縣廳の所在地なり。其の繁華なること徳島市に次ぐ。

この附近鐵道四周を繞り、交通の中心地たり。又市中及び附近より産する伊豫絣の集散地にして、西北三津濱・高濱の二港を控へ水陸交通の便あり。松山市の繁榮せし原因は左の如し。

1 松山平野に建ち、所謂中豫地方の中心にして亦愛媛

2 三津ヶ濱・高濱は前港として、中國・九州との連絡の便なること。

3 有名なる道後温泉市の北方にあること。

4 鐵道市を廻つて四方に通じ、交通の便なること。

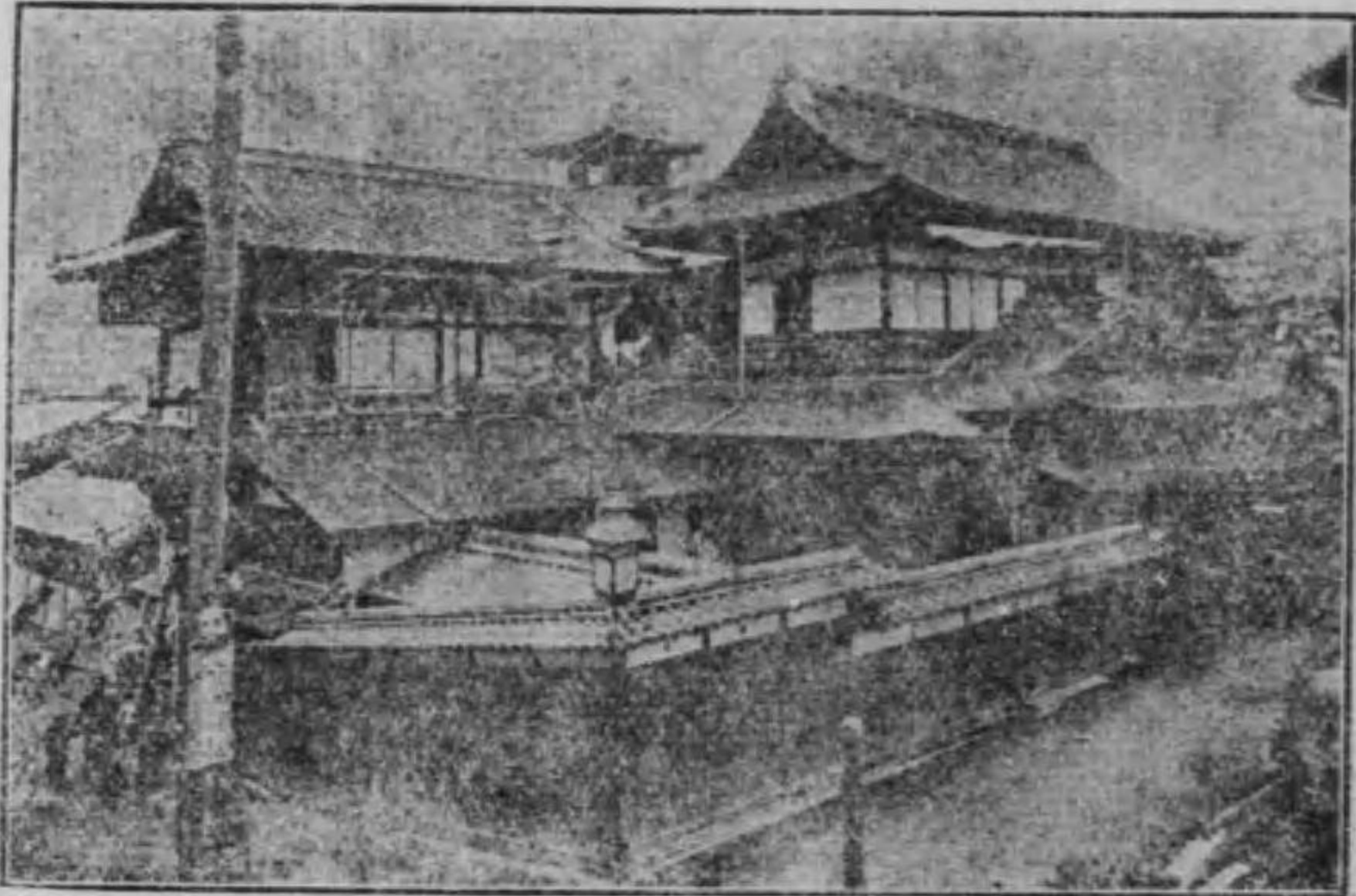
5 市及附近に特産物あること。

8、道後温泉 松山市の東北十八町の所にあり、鐵道の便あり。古來有名の温泉にして、遠く神代より浴用に供せられたるが如し。品質半透明、無色無味無臭のアルカリ性にして溫度四十六度八分、レウマチス・貧血症・其の他皮膚病に功能ありといふ。入浴の客平均七十萬人を越ゆといふ。

(四)高知縣

9、高知市(人口三萬九千) 高知縣の殆中央に位し、浦戸港に臨み、元山内氏二十四萬石の城下にして今高知縣廳の所在地なり。

道 後 温 泉



四 教授上の注意

1、徳島が四國第一の都會となれるは農業の盛なる平野を控ふると、大阪との交通盛なることによることを

知らしむべし。

2、香川縣に都邑多くして其の發達せる理由の異なることを知らしむべし。

1 高松 政治上 縣廳所在地なること。

2 丸龜 商業上 花笠竹細工等を産すること。

3 多度津 交通上 瀬戸内海中國通航船の寄航地。

4 善通寺 軍事上 第十一師團の所在地なること。

5 琴平 信仰上 金刀比羅宮あり、參詣の人絶ゆることなし。

3、松山市及び高知市の發達せる理由を考察せしむべし。

松山 政治上 愛媛縣廳所在地なること。

工業上 伊豫絣を産すること。

政治上 高知縣廳の所在地なること。

交通上 物資の集散地なること。

4、琴平町の繁榮要素を説明し、金刀比羅宮と本地方の海事思想との關係につきて知らしむべし。

5、四國島の北方及び南方に於ける都邑につきて比較し、其の異なる點を觀察せしむべし。

附録 教材配當表

		第一學期 凡そ十五週、二週三時間 豫定時數二十三時間	
週	教材(並に時間)		
一一二	第一、大日本帝國(三時間)		
三一九	第二、關東地方(十一時間)		
	(一) 區分(一時間)		
	(二) 地勢(一時間)		
	(三) 産業(二時間)		
	(四) 交通(一時間)		
	(五) 都邑(四時間)		
	(六) 伊豆七島・小笠原諸島及び約習(二時間)		
九一五	第三、奥羽地方(九時間)		

- (一) 區分(約半時間)
- (二) 地勢(一時間)
- (三) 產業(二時間)
- (四) 交通(一時間)
- (五) 都邑及び約習(約五時間)

第二學期 凡七十五週、二週三時間
豫定時數二十二時間

一八 第四、中部地方(十一時間)

- (一) 區分(半時間)
- (二) 地勢(二時間半)
- (三) 交通(一時間)
- (四) 產業(二時間)
- (五) 都邑及び約習(五時間)

八一五 第五、近畿地方(十一時間)

- (一) 區分(半時間)
- (二) 地勢(一時間半)
- (三) 交通(一時間)
- (四) 產業(二時間)
- (五) 都邑及び約習(六時間)

第三學期 凡七十週、二週三時間
豫定時間十五時間

一四 第六、中國地方(六時間)

- (一) 區分(一時間)
- (二) 地勢(一時間)
- (三) 產業(一時間)
- (四) 交通(一時間)
- (五) 都邑及び約習(三時間)

五八 第七、四國地方(六時)

九一〇

- (一) 區分 (一時間)
 - (二) 地勢 (一時間)
 - (三) 產業 (一時間)
 - (四) 交道 (一時間)
 - (五) 都邑及び約習 (三時間)
- 學年末總復習 (三時間)

新尋常
五年
地理教材及教授法の研究(終)

大正八年一月七日印刷
大正八年一月十日發行

地理教材及教授法の研究 五年用

(定價金壹圓八拾錢)

著者 鹽原 幹雄

發行者 大倉 廣三郎

東京市京橋區南橫町十八番地

印刷者 荻原 勝次郎

東京市小石川區久堅町百八番地

版權所有

發行所

東京市京橋區南橫町十八番地
電話 東京 二四六八三四番

廣文堂書店

廣文堂 發行 理想的的教育書目録

理想的教育授書目録

- 東京高等師範學校教授 大瀨甚太郎先生著
教育の心理學
 菊判布製 全一冊
 送料 金貳圓參拾錢
- 高島平三郎先生著
兒童心理講話
 菊判布製 全一冊
 送料 金貳圓七拾錢
- 坂庭清一郎・萱場柔壽郎先生共著
新植 物圖說
 菊判布製 全一冊
 送料 金六圓
- 文學博士 小西重直先生 閱
 小田原分監長 黒田源太郎先生著
犯罪少年の告白と個性調査
 菊判布製 全一冊
 送料 金貳圓八拾錢
- 東京高等師範學校教授 保科孝一先生訂
綴方指導の實際
 菊判布製 全一冊
 送料 金壹圓五拾錢

理想的教育授書目録

- 廣島高等師範學校訓導 山本孫一先生訂
 修正新教科書 教授日案兼用
- 各科教授細目**
- 尋常一年修身科教授細目
 送料 金六拾錢
 - 尋常一年算術科教授細目
 送料 金六拾錢
 - 尋常一年(第三卷二種)讀方教授細目
 送料 金六拾錢
 - 尋常二年(第三卷三種)讀方教授細目
 送料 金六拾錢
 - 尋常二年算術科教授細目
 送料 金六拾錢
 - 尋常五年地理科教授細目
 送料 金六拾錢
 - 尋常五年理科教授細目
 送料 金六拾錢

目書授教育教的想理

- 大分縣師範學校校長 島田民治先生著
現代に活ける 人材教育
四六判洋綴 全一冊
金壹圓貳拾錢
- 鹿兒島縣師範學校教諭 松下友一先生著
教授及參觀要訣
新形洋綴 全一冊
金五拾錢
- 三澤隆茂先生著
趣味的化學實驗法
四六判洋綴 全一冊
金壹圓五拾錢
- 奈良女子師範學校教授 田中廣吉先生著
小學校實際的教授法
菊判布製 全一冊
金貳圓八拾錢
- 松本師範學校教諭 藤岡龜三郎先生著
實驗手工實習法
菊判布製 全一冊
金壹圓八拾錢

目書授教育教的想理

- 岡山縣師範 木山淳一先生 共著
學校訓導 奧山樗太郎先生 共著
新教科書 挿繪解說と其の活用
- 尋常一年讀本 (第三種) の部
金壹圓八拾錢
- 尋常二年讀方 (第三種 卷二 卷四) の部
金壹圓八拾錢
- 尋常一年修身の部
金壹圓八拾錢
- 尋常二年修身の部
金壹圓八拾錢
- 尋常五年地理の部
金壹圓八十錢

目書授教育教的想理

奈良女子師範學校教授 豊田八十代先生著
讀方教授の研究
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金八錢

滋賀縣師範學校主事 山口德三郎先生著
書方教授の研究
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金八錢

川部 俊藏先生著
 發見創作 安全簡易
兒童理化實驗法
 菊判布製 全一冊
 送料 金八錢

東京府女子師範學校教諭 佐藤義和先生著
各科板書の研究
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金八錢

鹿兒島縣師範學校教諭 松下友一先生著
各科教授主眼點の研究
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金八錢

目書授教育教的想理

鹽原幹雄先生著 (尋五年用、尋常六年用)
新尋常地理教材及教授の研究
 菊判布製 全二冊
 送料 各金拾貳錢

宮城縣師範學校教諭 野口吉郎治先生著
高等小學地理實際的研究
 (高等一年用、高等二年用)
 菊判布製 全二冊
 送料 各金八錢

滋賀縣山東農學校教諭 富矢喜一先生著
一坪農業施設の實際
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金八錢

中村 俊治先生著
日用理科學の常識
 四六判洋綴 全一冊
 送料 金八錢

東京女子師範學校訓導 田中萬吉先生著
 カード式 系統的
暗算練習教程
 洋綴函入 全一冊
 送料 金八錢

目書授教育教的想理

東京青山師範學校教諭 中泉正雄先生著
 新尋常定小學理科教材及教授法の研究

(尋常五年用、尋常六年用)
 菊判布製 全二冊
 送料 金壹圓八拾錢

文學博士 小西重直訂
 實驗綴方新教授法

菊判布製 全一冊
 送料 金貳圓五拾錢

赤井直忠先生著
 學校衛生の研究及兒童病

菊判洋綴 全一冊
 送料 金八拾錢

大分縣師範學校教諭 山田良三先生著
 小學校各科教授の要領

菊判洋綴 全一冊
 送料 金八拾錢

鹿兒島縣師範學校教諭 池上弘先生著
 兒童個別的研究

菊判布製 全一冊
 送料 金壹圓八拾錢

目書授教育教的想理

廣島縣師範學校附屬小學校編
 兒童の實驗及び觀察を主とせる 理科教授解説

尋常五年用、尋常六年用
 菊判洋綴 全二冊
 送料 金六拾錢

宮城縣師範學校教諭 小圃立二先生著
 實際的圖畫教授法

菊判布製 全一冊
 送料 金貳圓七拾錢

鹿兒島縣師範學校教諭 池上弘先生著
 兒童智腦の發達及教育法

菊判布製 全一冊
 送料 金壹圓五拾錢

文學博士 芳賀矢一先生校
 範文を基礎とせる鍛練的綴方教授法

菊判布製 全一冊
 送料 金壹圓八拾錢

酒井不二雄先生著
 揭示教育及講話新材

新形布製 全一冊
 送料 金八拾錢

目書授教育教的想理

三澤隆茂先生著
 魔術的物理實驗法
 四六判布製全一冊
 送料金八錢

青山師範學校訓導宮內與二郎先生著
 教授案を主とせる學年別各科教授法
 (尋一・二・三・四年用全四冊)
 各金壹圓貳拾錢
 送料各金八錢

大川義行先生著
 初學年兒童取扱法
 菊判洋綴全一冊
 送料金八錢

富山縣師範學校附屬小學校編
 文部省編 遊戲詳解及取扱法
 菊判布製全一冊
 送料金拾貳錢

東京高等師範學校教授津崎亥九先生著
 實驗體操教授法
 菊判布製全一冊
 送料金八錢

目書授教育教的想理

川部俊藏先生著
 遊戲的理科實驗法
 菊判布製全一冊
 送料金八錢

小倉師範學校教諭佐藤平太郎先生著
 圖案作畫新教授法
 菊判布製全一冊
 送料金拾貳錢

東京青山師範學校訓導宮內與二郎先生著
 國尋常小學算術教材及教授法の研究
 菊判布製全一冊
 送料金拾貳錢

國高等小學算術教材及教授法の研究
 菊判布製全一冊
 送料金八錢

富山縣師範學校主事澤正先生著
 小學校教育教授の實務
 菊判布製全一冊
 送料金八錢

■ 目 書 授 教 育 教 的 想 理 ■

■ 大川義行先生著
兒童個性の研究
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金 八 錢 圓

■ 小關源助先生著
子供の氣質と育て方
 四六判布製 全一冊
 送料 金 八 錢
 金壹圓參拾錢

■ 宮城縣師範學校訓導細目爲先生著
 兒童の聯想畫の研究と其成績
 面白がる
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金 八 錢
 金六拾五錢

■ 東京青山師範學校附屬小學校編
教室用年代圖表
 尋常科用 金九拾錢
 高等科用 金壹圓貳拾錢
 送料 各 金 八 錢

■ 小倉師範學校教諭松尾倍作先生著
農業教授の理論と施設法
 菊判洋綴 全一冊
 送料 金 八 錢
 金五拾錢

263.6
47

2

終

